

厚生労働省 令和5年度老人保健健康増進等事業  
介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究事業

報告書

令和6年3月

PwCコンサルティング合同会社



# 目次

要旨	i
<b>I. 本事業の概要</b>	<b>1</b>
1. 本事業の背景・目的	1
2. 本事業の主な内容	4
(1) 会議等の設置・運営	4
(2) 効果的な魅力発信方法に関する調査の実施	6
(3) 国事業の評価の実施	6
(4) 都道府県向け評価の手引きの作成	6
<b>II. 効果的な魅力発信方法に関する調査</b>	<b>7</b>
1. 介護の仕事に関するアンケート調査	7
(1) 調査概要	7
(2) 調査結果からの考察	8
(3) 調査結果における主要なポイント	9
(4) 主な集計結果	11
2. 介護に関するテレビ番組調査	44
(1) 調査概要	44
(2) 調査結果	45
(3) 調査結果からの考察	46
<b>III. 国事業の評価</b>	<b>50</b>
1. 国事業の概要	50
2. 令和5年度国事業（情報発信事業）の事業内容・成果	52
(1) 事業構造	53
(2) 情報発信の方法・内容	54
(3) 各活動のアウトプット・アウトカム	55
3. 国事業の実施主体に対する助言	79
<b>IV. 都道府県事業における評価のための基盤作り（手引きの作成）</b>	<b>81</b>
1. 手引き作成の背景と目的	81
2. 手引きの概要	82
3. 手引き作成のプロセスと工夫	82
4. 令和5年度 事業間連携等事業内での手引きの活用と改善	84

<b>V. まとめ・考察</b> .....	<b>90</b>
1. 国事業について（継続して実施すべき点と次年度以降に向けた改善点）.....	90
(1) 国事業の実施目的（アウトカム）.....	90
(2) 国事業の内容.....	93
(3) 国事業の効果評価の在り方.....	98
2. 都道府県事業について（継続して実施すべき点と次年度以降に向けた改善点）.....	101
(1) 都道府県における事業評価の現状と課題.....	101
(2) 手引きが果たす役割.....	102
(3) 今後、都道府県における評価の基盤をさらに整えるために必要なアプローチ ..	103
<b>付属資料 1. 介護人材確保に係るロジックモデル</b> .....	<b>109</b>
<b>付属資料 2. 介護の仕事に関するアンケート調査結果</b> .....	<b>110</b>
1. 調査概要.....	110
2. 調査結果.....	111
(1) スクリーニング調査.....	111
(2) 介護職調査.....	114
(3) 学生調査.....	129
(4) 保護者調査.....	136



# 要旨

## 事業目的

本事業は、介護の仕事の魅力発信に関して国および都道府県が実施する事業の価値を示すとともに、より効果を上げるための改善策検討を行うことを目的として実施した。

## 国事業についてのまとめ・考察

### (1) 国事業の実施目的（アウトカム）

国が実施する「介護のしごと魅力発信等事業」（以下「魅力発信等事業」または「国事業」という。）の最終アウトカムは「職業選択の際に介護の仕事の一つの選択肢にする人が増えること」であると考えられる。本事業で実施したアンケート調査（以下「WEBアンケート調査」という。）では「介護の仕事は就職先として魅力的だと思う」と回答した人の割合は学生で19.0%、保護者では8.4%に留まっていた。このことから、介護の仕事のイメージ向上は介護人材確保を推進する上で継続的に取り組むべき重要な課題だといえる。

### (2) 国事業の内容

#### ① ターゲット設定

ある人物が介護の仕事に対してどのような認識・接点を持っているのかは、次の6段階（図表 1）に大別して示すことができる。

図表 1 介護の仕事に対する認識・接点の段階

#	介護の仕事への認識・接点	情報収集の姿勢
①	介護の仕事を知っていない段階	介護に関する情報収集に対して受動的
②	介護の仕事を知っているが無関心な段階	
③	介護の仕事に興味・関心がある段階	介護に関する情報収集に対して能動的
④	介護の仕事を理解している段階	
⑤	介護業界への入職を検討し、他業界と比較している段階	
⑥	介護業界への入職の意思を固めている段階	

WEBアンケート調査の結果から、多くの人が「①介護の仕事を知っていない段階」あるいは「②介護の仕事を知っているが無関心な段階」にいたることが窺われた。魅力発信等事業における最終アウトカム「職業選択の際に介護の仕事の一つの選択肢にする人が増えること」を達成するためには、まず上記①②の段階にいる人（無関心層）にアプローチし、介護の仕事の認知度の上昇や、興味・関心の向上を狙うことが重要である。そして、これらの無関心層は介護の仕事に関する情報収集に対して受動的であるため、リーチするためには、既存のプラットフォームを利用した大規模な情報発信や広告掲載など情報発信の方法に工夫が必要である。

今年度の国事業（情報発信事業）では、無関心層へのアプローチに重点が置かれていたため、情報発信事業はいずれも無関心層を主要ターゲットとしていた。また、保護者や教員など実際に就職する人の周囲の人をターゲット・サブターゲットとした活動も一部存在した。

#### ② 情報発信の方法・コンテンツ

WEBアンケート調査の結果、介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものは、介護職・学生・保護者のいずれにおいても「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」（21.0%、19.0%、28.2%）がもっとも多かった。

今年度の国事業（情報発信事業）では、現役介護職が仕事について語るイベント等の開催や、芸能人や学生が介護施設で現場を体験する様子を紹介する動画の作成・公開が行われていたことから、情報発信の方法としては一定の妥当性があるといえる。ただし、あくまで方法論であり具体的な発信内容によって成果の出方は異なると考えられるため、各活動における効果測定の結果を参照しながら効果的な発信内容が何かを引き続き探っていくことが重要である。

また、介護職や親族から実際に話を聞いた経験や身近な人が介護を受けている様子を見た経験など、個人の身の回りの実体験が介護の仕事に関する良いイメージの形成に効果的である一方で、一度の情報発信で大規模な集団にリーチできるという点ではテレビ・新聞などのマスメディアの活用やWEBを通じた大規模な情報発信なども有用だと推測される。

ただしWEBアンケート調査の結果では、介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の割合は28.6%に留まっており、コンテンツ別にみると「テレビ番組」が17.2%、「新聞記事・広告」が10.1%、「WEB記事」が9.5%であった。介護の仕事の認知度向上、興味・関心の向上を狙うためには、無関心層へのリーチ数を伸ばすことが今後の課題である。

### **(3) 国事業の効果評価の在り方**

#### **①今年度の国事業における効果評価の成果と課題**

本事業では、国事業（情報発信事業）の各実施主体に効果評価のポイントを伝え、可能な範囲で効果評価のデザインに反映して欲しい旨を説明した。また厚生労働省では、国事業（情報発信事業）の公募時に、応募者に対して「国が示す各アウトカムに紐づく活動内容およびアウトカム達成のための具体的取組」を示すよう求めた。こういった取組により、情報発信事業の効果評価の妥当性の向上が図られた。ただし、今後に向けて以下のような課題が残った。

- ・ アウトカム指標が設定されないまま事業が進行していたケースや、応募時に設定していたアウトカムの内容と対応していない効果評価を実施しているケースがあった。
- ・ 価値判断基準を設定しないまま事業結果の取りまとめに進んだ活動が散見された。
- ・ 雑誌への記事掲載やWEB動画公開など大規模な情報発信を行った場合に、コンテンツ接触者を追跡して意識変容や行動変容を測ることが困難であった。
- ・ 情報発信の活動と並行して効果評価を行うため、アウトカムの達成状況の振り返りや課題解決に向けた分析・考察などの実施が不十分になる場合があった。
- ・ 事業の結果を報告する際、成果を示すことに比重が置かれる傾向にあり、プロセス評価の実施が十分でないケースがあった。

#### **②より良い効果評価を実施するためのポイント**

国事業（情報発信事業）の実施主体とのコミュニケーションにより、アウトプットとアウトカムの違い、アウトカム指標や価値判断基準の設定など実施主体が「つまづきやすいポイント」が明らかとなった。次年度以降は、この内容や効果評価の意義を採択後速やかに実施主体に説明することで、効果評価の質の向上が見込める。また、効果評価の際に何を振り返れば良いのか、そして効果評価の結果としてどのような項目を整理すれば良いのかについても事業冒頭で認識合わせを行うことで、効果評価への意識を向上させることができる。

## 都道府県事業についてのまとめ・考察

### (1) 都道府県における事業評価の現状と課題

介護人材確保事業<sup>1</sup>において、評価指標の設定や評価指標に基づく効果測定を十分に実施できていない都道府県は少なくない。令和4年度調査研究<sup>2</sup>では、「判断基準（定量的な目標値）が設定されていない」あるいは「アウトプット/アウトカムではない指標を設定している」都道府県事業が散見された。また、事業内容に関わらず、アウトカムを一律で「介護分野への就労人数」とする傾向も見られた。こういった状況を踏まえ、都道府県職員がプログラム評価やロジックモデルの考え方を学び、事業評価に取り組むための「手引き」を作成することとした。

### (2) 手引きの作成・手引きが果たす役割

手引きの概要は図表2のとおり。本手引きの特色として、介護人材確保というテーマを取り上げ、評価に馴染みのない自治体職員でも理解しやすくまとめたという点が挙げられる。「魅力発信」に関する事業は介護人材確保（実際の入職）に至るまでの道のりが長く、事業の達成目標（アウトプット指標・アウトカム指標）をどのように設定するべきか、という点が自治体の悩みの種となっていた。このようなテーマ特有の課題に応える形で評価について解説できたことは、本事業内で作成した手引きの成果の1つといえる。また、三重県ではロジックモデル作成支援イベント<sup>3</sup>を開催し、ロジックモデルや評価デザインについて暫定版の手引きを用いて説明した。また、その際に参加者から得たフィードバックを手引きに反映した。

図表2 手引きの概要

項目	内容
想定読者	・ 介護人材確保分野（特に魅力発信に関連する事業）に関わる自治体職員
目指す成果	・ 読者に「評価がなぜ大切なのか、何に役立つのか」を理解してもらうこと ・ 読者が直接アウトカム、中間アウトカム、最終アウトカムという段階的なアウトカムの考え方を理解できるようになること
タイトル	・ 介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き ～都道府県事業における評価・ロジックモデルの活かし方～
章立て	1. はじめに：都道府県事業の成功のかぎ 2. 事業の設計段階から役に立つ「評価」という方法論 3. 事業の進行フェーズごとの「やることリスト」

### (3) 今後、都道府県における評価の基盤をさらに整えるために必要なアプローチ

今後、都道府県における評価の基盤をさらに整えるために必要なアプローチとして、「手引きを教材として用いた自治体向け研修の実施」が考えられる。

自治体において評価が浸透し、事業改善のためのPDCAを自律的に行うことができるようになるまでの初期支援の必要性は高い。支援内容としては、評価に関する知見を持つ第三者が本事業で作成したような手引きを教材としながら、実践型（ワークショップ型）の研修形式で評価についてのレクチャーを行うことや、ロジックモデル作成・評価デザイン検討のための議論のファシリテーターを評価に関する有識者が務めることなどが考えられる。

<sup>1</sup> 地域医療介護総合確保基金事業のうち、魅力発信等事業に関わる「V 介護従事者の確保に関する事業」を指す。

<sup>2</sup> 厚生労働省 令和4年度老人保健健康増進等事業「介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」（実施団体：PwCコンサルティング合同会社）を指す。

<sup>3</sup> 令和5年度「介護のしごと魅力発信等事業 事業間連携等事業」において開催したイベント。県職員および社会福祉協議会職員の方が参加した。



## I. 本事業の概要

---

### 1. 本事業の背景・目的

厚生労働省が発表した「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」では、第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づいた都道府県による推計から、令和5年度には約233万人、令和7年度には約243万人、令和22年度には約280万人の介護職員が必要となる見込みであることが示された。しかし、令和元年度時点での介護職員数は約211万人であり、将来的に上記必要数を満たすためには介護人材の確保が必要となる。また、令和4年における介護分野の有効求人倍率は3.71であった<sup>4</sup>。

このような状況を踏まえ、厚生労働省は「総合的な介護人材確保対策」として「①介護職員の処遇改善<sup>5</sup>」、「②多様な人材の確保・育成」、「③離職防止・定着促進・生産性向上」、「④介護職の魅力向上」、「⑤外国人材の受け入れ環境整備」などに取り組んでいる<sup>6</sup>。

このうち、「④介護職の魅力向上」については、平成30年度の大規模イベント開催（介護職のイメージ刷新等による人材確保対策強化事業）を皮切りに、令和元年度以降は「介護のしごと魅力発信等事業（以下、「魅力発信等事業」という）」として年代や就業状況などセグメント別にイベント開催や各種メディアの活用など多様な手法・チャネルを用いた情報発信が行われてきた。

魅力発信等事業が開始されて丸5年以上が経過する中、その価値を公平な視点で測るとともに、一層効果的な取組とするためには、確立された枠組みに基づいて評価し、必要に応じて戦略やアプローチ方法をブラッシュアップし続けることが重要であると考えられる。

各年度の魅力発信等事業はそれぞれ複数の事業で構成されている。令和2年度までは各事業が独自の方法で自己の事業の成果を測定していたが、令和3年度には事業区分6「事業間連携・評価分析等事業」によって評価分析の手法が検討され、各事業区分がプログラム評価の考え方を取り入れながら評価を実施した。また、同事業（事業間連携・評価分析等事業）の報告書では、魅力発信等事業の評価の在り方について「魅力発信等事業全体としての戦略策定の重要性」や「各年度で得られた知見の蓄積・引継ぎの重要性」が指摘されている。その後、令和4年度には「介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」が実施され、継続的に評価を実施することの重要性が指摘されたほか、各事業の効果測定の有効性に関する検討がなされた。

---

<sup>4</sup> 厚生労働省「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の将来推計について」p. 13  
([https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/corner113/20230728seminar\\_03.pdf](https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/corner113/20230728seminar_03.pdf))  
(最終閲覧：令和6年3月27日)

<sup>5</sup> 介護職員処遇改善支援補助金を取得（届出）している事業所における令和4年12月時点での介護職員（月給・常勤の者）の平均給与額は318,230円。令和3年12月時点での平均給与額は300,740円であり、17,490円上昇している。

<sup>6</sup> 厚生労働省「介護人材の確保、介護現場の生産性向上の推進について」p. 7  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001001183.pdf>) (最終閲覧：令和6年3月27日)

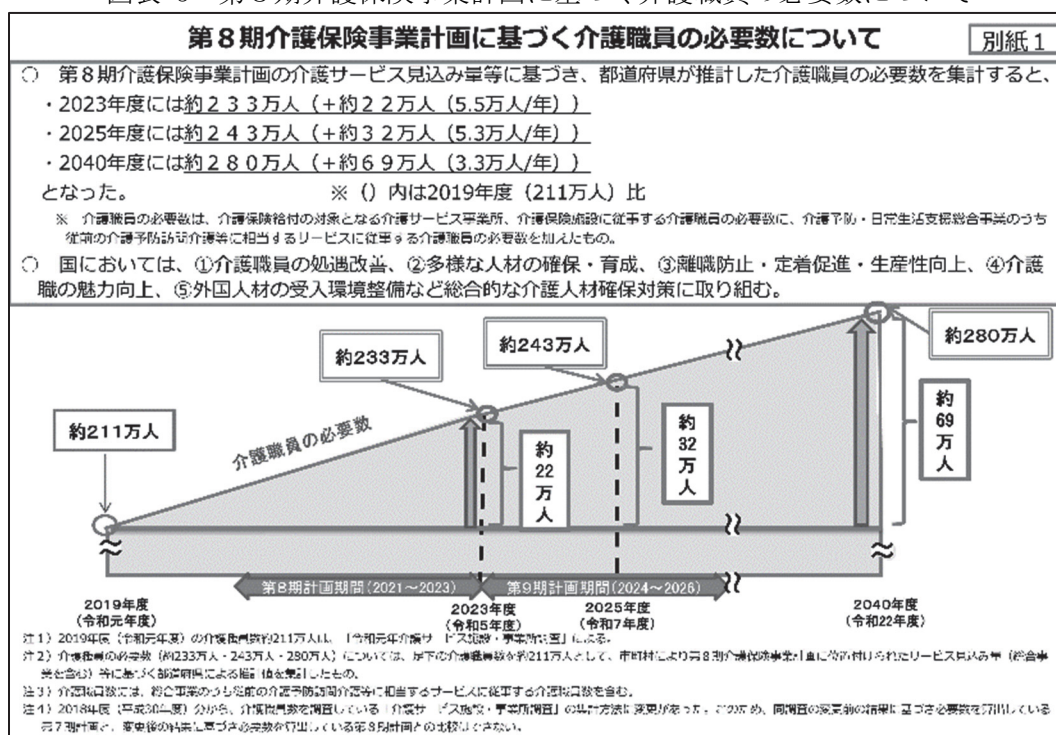
また、介護の仕事の魅力発信については、都道府県でも地域医療介護総合確保基金を活用した事業（以下「都道府県事業」あるいは「基金事業」という）が実施されている。国全体として介護の仕事の魅力発信を推し進めるためには、国事業と都道府県事業が相互に連携し、必要に応じて役割分担をしながら事業を実施することが望ましいと考えられる。そのため、都道府県事業についても国が実施する「介護のしごと魅力発信等事業」と併せた戦略検討が必要であると考えられる。

都道府県における事業評価の実態として、令和4年度に実施された「介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」により、評価指標の設定・測定が十分でない都道府県事業が散見され、自治体担当者も評価に課題を感じていることが明らかになった。評価を実施する前段として評価基盤を整えることが必要であるといえる。

上記の背景を受け、本事業は、魅力発信等事業の価値を示すとともに、より効果を上げるための改善策検討に資することを目的として実施した。具体的には、「令和5年度の魅力発信等事業」について、プログラム評価の考え方をベースとした評価を実施し、事業の必要性（ニーズ）、事業の戦略（セオリー）、事業の実施内容（プロセス・アウトプット）、事業の成果（アウトカム）を明らかにし、有識者によって構成する検討会を通じて事業の価値を判断した。

また、都道府県事業については評価を実施するための基盤作りが重要であることから、都道府県事業に関する評価手法について検討するとともに、その検討結果（都道府県事業における評価手法）を都道府県事業の担当者が参考にできる手引きとして取りまとめ、展開した。

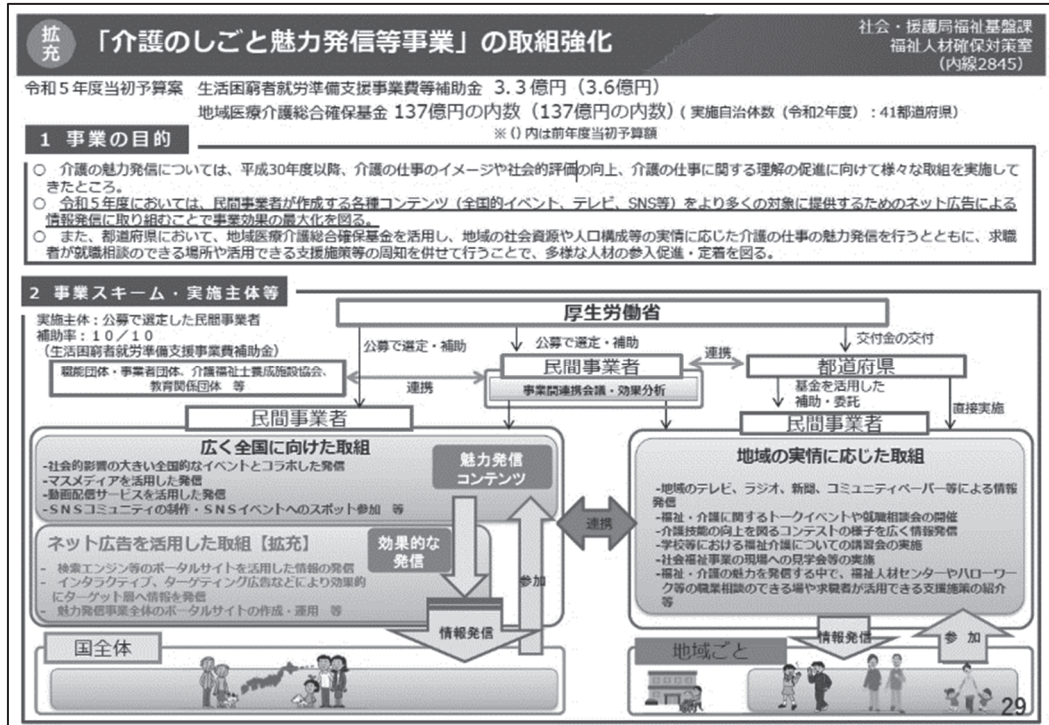
図表 3 第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について





出典：厚生労働省「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」（令和3年7月9日）  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000207323\\_00005.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000207323_00005.html)（最終閲覧：令和4年3月28日）

図表 4 令和5年度介護のしごと魅力発信等事業 事業概要



## 2. 本事業の主な内容

### (1) 会議等の設置・運営

#### ア. 研究会の設置運営

本事業の実施内容について有識者を交えて検討することを主な目的として、学識経験者、福祉・介護分野の実務経験者で構成する研究会を計4回開催した。

図表 5 研究会 委員名簿（五十音順、敬称略）

氏名	WG委員兼任	所属
石本 淳也	—	一般社団法人熊本県介護福祉士会 会長
伊藤 優子	—	龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授
大澤 望	○	株式会社大沢会計&人事コンサルタント 取締役
新藤 健太	○	日本社会事業大学 社会福祉学部 講師

図表 6 研究会の開催日時・主な議題

回数	時期	主な議題
第1回	令和5年7月20日(木) 13:00~15:00	<ul style="list-style-type: none"><li>事業の実施目的・全体像の共有</li><li>「介護の仕事に関するアンケート調査」の実施方針の検討</li><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の作成方針の検討</li></ul>
第2回	令和5年9月7日(木) 11:00~13:00	<ul style="list-style-type: none"><li>「介護の仕事に関するアンケート調査」の調査項目の検討</li><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の内容検討</li></ul>
第3回	令和6年1月25日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"><li>「介護の仕事に関するアンケート調査」の調査結果の共有・分析方針の検討</li><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の内容検討</li><li>事業報告書の内容検討</li></ul>
第4回	令和6年2月29日(木) 11:00~13:00	<ul style="list-style-type: none"><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の内容検討</li><li>事業報告書の内容検討</li></ul>



## イ. WGの設置運営

評価分析の進め方に関する助言を仰ぐことを主な目的として、政策評価に関する知見を有する学識・有識者で構成するWGを開催した。

図表 7 WG委員名簿（五十音順、敬称略）

氏名	所属
大澤 望	株式会社大沢会計&人事コンサルタンツ 取締役
新藤 健太	日本社会事業大学 社会福祉学部 講師

図表 8 WGの開催日時・主な議題

回数	開催日時	主な議題
第1回	令和5年8月9日(水) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"><li>魅力発信等事業の内容・評価方法の方針検討</li><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の作成方針の検討</li></ul>
第2回	令和5年10月27日(金) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"><li>魅力発信等事業の内容・評価方法の方針検討</li><li>「介護の仕事に関するアンケート調査」の分析計画の検討</li><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の内容検討</li></ul>
第3回	令和5年12月21日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"><li>「介護の仕事に関するアンケート調査」の分析計画の検討</li><li>「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」の内容検討</li><li>事業報告書章立て案の作成方針検討</li></ul>

## **(2) 効果的な魅力発信方法に関する調査の実施**

介護の仕事の魅力を伝えるための効果的なアプローチを分析するため、介護職および学生・保護者を対象としたWEBアンケート調査を実施した。また、介護について取り扱ったテレビ番組を調査し、介護について（本事業以外で）どのような情報発信がなされているのかを調査した。

## **(3) 国事業の評価の実施**

令和5年度介護のしごと魅力発信等事業（情報発信事業）の活動内容や効果評価の手法を整理した。

## **(4) 都道府県向け評価の手引きの作成**

介護従事者の確保に関する事業に取り組む自治体職員を主な想定読者として、評価の大切さや評価の効果的な活かし方を紹介する手引きを作成した。手引き作成の背景や概要は「IV. 都道府県事業における評価のための基盤作り（手引きの作成）」を参照のこと。

## Ⅱ. 効果的な魅力発信方法に関する調査

### 1. 介護の仕事に関するアンケート調査

#### (1) 調査概要

介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析するため、介護職および学生・保護者を対象としたWEBアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施概要は以下のとおりである。

図表 9 介護の仕事に関するアンケート調査 実施概要

実施目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析すること             <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 魅力発信等事業の評価、今後の魅力発信等事業・都道府県事業の戦略策定に関する検討に活用する</li> </ul> </li> </ul>
調査対象	スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査会社に登録しているモニター (36,000人)</li> </ul>
	本調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職 (1,000人) ※回答時点で「現在、介護をしている」と回答された方。</li> <li>学生 (500人) ※回答時点の職業について「学生」と回答された方。</li> <li>保護者 (1,000人) ※回答時点で「就職前の子どもが1人以上いる」と回答された方。</li> </ul>
調査時期		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年10月</li> </ul>
主な調査項目	スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業、年齢、子どもの有無</li> <li>介護との関わり</li> <li>子どもが「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか</li> </ul>
	介護職	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤続年数、雇用形態、勤務している事業所の種類、業務内容、保有資格</li> <li>介護の仕事のイメージ (入職前/入職後)、介護の仕事を選択した理由、介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事/「嫌だ」と感じる事</li> <li>子どもが「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか、介護の仕事友人に勧めたいと思うか</li> </ul>
	学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職先として考えている業界・興味がある業界とその理由、就職先選びの際に重視すること</li> <li>介護の仕事について、どれくらい知っているか</li> <li>介護の仕事に対するイメージ、良いイメージの形成に影響を与えたもの</li> </ul>
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが就職する際に気になること (上位5つ)</li> <li>介護の仕事について、どれくらい知っているか</li> <li>介護の仕事に対するイメージ、良いイメージの形成に影響を与えたもの</li> </ul>

## (2) 調査結果からの考察

### ①介護の仕事に関する魅力発信の必要性

- 介護の仕事を就職先として魅力的だと「思う」と回答した人は学生で 19.0%、保護者で 8.4%であり、介護業界への入職を志す学生および介護業界への入職を応援する保護者を増やすためには今後も継続的な魅力発信が必要である。
- 介護との関わりや介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の方が介護の仕事に対してポジティブなイメージを持っていることから、介護の仕事に関する情報に触れる人を増やすことは介護の仕事の就職先候補の一つとして考える人を増やすことにつながるといえる。

### ②介護の仕事に関する魅力発信のターゲット（アプローチすべき対象）

- 介護の仕事の就職先として魅力的だと感じている人の割合が学生（19.0%）よりも保護者（8.4%）の方が低いことを踏まえると、学生本人よりも保護者の方が介護の仕事へのイメージがネガティブであることが窺える。さらに、子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った時に「積極的に応援したいと思う」と回答した人の割合が非介護職では4割弱に留まっていることから、就職する本人（学生）だけでなく保護者など就職する人の周囲に対しても継続的にアプローチし、介護の仕事の魅力伝えていくことが必要である。
  - 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った時に「積極的に応援したいと思う」と回答した人の割合は介護職であっても 53.4%に留まる。そのため、様々な人に介護の仕事の魅力伝えていくだけでなく、勤務環境や待遇の改善など介護の仕事自体の魅力の向上も介護人材確保にとって重要だといえる。

### ③介護の仕事に関する魅力発信の方法（効果的な情報発信手法）

- 介護との関わりや介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の方が介護の仕事に対して良いイメージを持っていることを踏まえると、介護の仕事に関する魅力発信を広範囲かつ継続的に実施することが重要である。特に、これまで介護との関わりがなく関心も無い層にも届くようにアプローチすることで介護の仕事との接点を作りだすことが望ましい。
  - 今年度の調査結果では介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の割合は 28.6%に留まっており、コンテンツ接触経験が無い人（あるいは接触したことを覚えていない人）が約7割であること明らかになったため、より広範囲かつ頻回に情報発信を行うことが求められる。

### (3) 調査結果における主要なポイント

今回の調査結果における主要なポイントは以下のとおりである。

#### 介護の仕事への関心

- 介護の仕事を就職先として魅力的だと「思う」と回答した人は学生で 19.0%、保護者で 8.4%である。
  - ▶ 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った時に「積極的に応援したいと思う」と回答した人の割合は、スクリーニング調査回答者では 38.6%、保護者では 36.8%、介護職では 53.4%である。また、子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合に「積極的に応援したい」と回答している人は、そうでない人比べて介護の仕事に対するイメージがポジティブである。
- 介護の仕事に「関心がある(もっと知りたいと思う)」と回答した人は、学生で 19.0%、保護者で 12.8%である。また、学生・保護者ともに 5割前後の人が「関心はない(特に知りたいとは思わない)」と回答している。
- 介護の仕事を就職先として考えている/興味がある学生は(就職先として考えている/興味がある業界がある学生のうち) 8.7%であり、そのうち約 3割は福祉系の学生である。
  - ▶ 「介護との関わり」や「介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験」がある学生や、就職先選びの際に重視する項目として「就職しやすさ」や「資格や専門知識を活かすことができる」と回答した学生の方が介護の仕事就職先として考えている人の割合が高い。

#### 介護との関わりやコンテンツに触れた経験

- 介護と何らかの関わりがある人は全体の 34.2%、関わりの内容は「親や家族などの介護のことに関心がある」が 12.1%でもっとも多い。
- 介護の仕事内容についての理解度は、学生・保護者ともに「何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない」(52.8%、58.0%)が過半数である。
- 介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の割合は、28.6%である。接触したことがあるコンテンツの中は、「テレビ番組」が 17.2%、「新聞記事・広告」が 10.1%、「WEB 記事」が 9.5%である。
  - ▶ 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものとしては、学生・保護者・介護職のいずれでも「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」がもっとも多い。
- 学生のうち、学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたりした経験がある人は 36.4%である。
  - ▶ そういった体験をした際に介護や介護の仕事について受けた印象としては「精神的に大変そう」および「体力的に大変そう」がともに 51.6%と半数を超えており、次いで「社会的意義がある」が 31.9%、「やりがいがある」が 28.6%である。
- 保護者のうち、家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問した経験がある人は 16.4%である。

- 介護施設を訪問した際に感じたこととしては「介護の仕事は大変そうだと感じた」が45.1%でもっとも多く、次いで「施設の職員が親切だった、優しかった」が43.9%、「施設が綺麗だと感じた」が34.1%である。

#### 介護の仕事へのイメージ

- 介護の仕事のイメージについては、学生・保護者・介護職のいずれにおいても、「社会的意義の大きさ」や「やりがいの大きさ」「資格者専門知識の活かしやすさ」のスコアが上位3つでポジティブなイメージを持たれていた。
  - 介護職の方が学生・保護者よりもポジティブなイメージを持っており、特にスコアの差が大きかったのは「仕事内容の楽しさ」や「勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ」「働きやすさ」である。
- 介護職自身が介護の仕事に対して抱いているイメージは、年収や雇用形態、勤務先種別、職階、転職回数などによって以下のように異なっている。
  - 年収が高い人ほど、体力的負担や精神的負担、給与に関して良いイメージを持っている。
  - 正規職員および派遣職員は、契約職員やパートタイム職員に比べて、体力的負担や精神的負担、給与に関して良いイメージを持っている。
  - 居宅介護支援事業所に勤務している人は、他の事業所に勤務している人に比べて、介護の仕事に対して良いイメージを持っている。
  - 職階が高いほど、介護の仕事に対して良いイメージを持っている。
  - 転職回数が1～2回の方は、転職回数が0回あるいは3回以上の方に比べて、体力的負担や精神的負担、給与に関して良いイメージを持っている。

#### (4) 主な集計結果

##### ①介護との関わり・介護に関連した経験

###### ア. 介護との関わり

介護と何らかの関わりがある人は全体の34.2%（前年度比-0.3pt）である。

関わりの内容は「親や家族などの介護のことに関心がある」が12.1%（前年度比+0.3pt）でもっとも多く、次いで「自分の親や家族などの介護をしている（したことがある）」が9.5%（前年度比-0.5pt）である。

年齢別に見ても大きな違いは見られないが、60歳以上では「自分の親や家族などの介護をしている（したことがある）」が2割を超える。

図表 10 介護との関わり【SCR調査<sup>7</sup>】

Q3	あなたと介護との関わりについて、以下から当てはまるものを全てお選びください。	R5 (Q3)	R4 (Q3)
1	現在、介護の仕事をしている	3.5	3.4
2	過去に介護の仕事をしたことがある	3.3	3.2
3	介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	3.3	3.2
4	介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	2.4	2.5
5	介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	1.4	1.3
6	介護の現場で実習、職場体験インターンシップなどを行っている(したことがある)	1.9	1.9
7	介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	2.6	2.8
8	自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	9.5	10.0
9	自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	6.3	6.7
10	自分が介護される立場である(だったことがある)	0.8	0.7
11	親や家族などの介護のことに関心がある	12.1	11.8
12	自分の介護のことに関心がある	7.6	7.5
13	その他	0.3	0.3
14	該当するものはない(介護との関わりや介護への関心はない)	65.8	65.5
	全体	36,000	35,873

図表 11 年齢別 介護との関わり【SCR調査】

	n数	現在、介護の仕事をしている	過去に介護の仕事をしたことがある	介護の仕事に就いている(就いた)親族がいる	介護の仕事に就いている(就いた)友人がいる	介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	介護の現場で実習、職場体験インターンシップなどを行っている(したことがある)	介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	自分が介護される立場である(だったことがある)	親や家族などの介護のことに関心がある	自分の介護のことに関心がある	その他	該当するものはない(介護との関わりや介護への関心はない)
全体	36,000	3.5	3.3	3.3	2.4	1.4	1.9	2.6	9.5	6.3	0.8	12.1	7.6	0.3	65.8
15歳未満	44	2.3	0.0	2.3	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3	4.5	0.0	9.1	4.5	0.0	75.0
15歳～19歳	861	1.7	0.9	6.5	1.6	3.7	2.9	2.1	3.3	5.3	0.9	7.1	4.4	0.2	70.4
20歳～29歳	4,360	4.6	3.3	6.0	3.8	2.8	3.8	3.2	2.9	4.5	1.2	7.1	4.1	0.2	72.6
30歳～39歳	6,925	5.0	4.4	4.5	3.5	2.1	2.7	2.9	4.1	6.3	0.7	9.8	4.1	0.3	70.5
40歳～49歳	7,982	3.9	3.6	3.1	2.4	1.4	1.6	2.3	6.1	6.0	0.6	12.9	6.2	0.2	68.6
50歳～59歳	8,223	3.3	3.0	2.1	1.8	0.7	1.1	2.5	11.7	6.6	0.6	16.0	8.1	0.2	63.3
60歳以上	7,605	1.4	2.4	2.0	1.4	0.7	1.0	2.3	20.3	7.3	1.2	12.6	14.0	0.4	56.8

<sup>7</sup> 図表タイトル内では「スクリーニング調査」を「SCR調査」と記載している。

イ. 介護に関する授業、ボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどの経験（学生）

学生のうち、学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたりした経験がある人は36.4%（前年度比+1.8pt）である。

具体的には「学校で介護についての授業を受けたことがある」が18.6%（前年度比-2.2pt）でもっとも多く、次いで「介護の現場でボランティアをしたことがある」が14.4%（前年度比+3.6pt）、「介護の現場で実習や職場体験・インターンシップをしたことがある」が13.4%（前年度比+4.8pt）である。

また、そういった体験をした際に介護や介護の仕事について受けた印象としては「精神的に大変そう」および「体力的に大変そう」がともに51.6%と半数を超えており、次いで「社会的意義がある」が31.9%、「やりがいがある」が28.6%である。

図表 12 学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたりした経験【学生調査】

Q9	学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたことがありますか。	R5 (Q9)	R4 (Q9)
1	学校で介護についての授業を受けたことがある	18.6	20.8
2	介護の現場でボランティアをしたことがある	14.4	10.8
3	介護の現場で実習や職場体験・インターンシップをしたことがある	13.4	8.6
4	上記のいずれも経験がない	42.4	46.2
5	覚えていない	21.2	19.2
	全体	500	500

図表 13 上記のような体験をした時に介護や介護の仕事について受けた印象【学生調査】

Q10	そういった体験をした時、「介護」や「介護の仕事」についてどのような印象を受けましたか。	R5 (Q10)	R4
1	やりがいがある	28.6	-
2	社会的意義がある	31.9	-
3	楽しそう	16.5	-
4	自分に向いていそう	9.3	-
5	精神的に大変そう	51.6	-
6	体力的に大変そう	51.6	-
7	その他	0.5	-
	全体	182	-



#### ウ. 就職イベント等で介護の仕事について見聞きした経験（学生）

学生のうち、就職イベント等で介護の仕事に関する説明を聞いたり、見たりした経験がある人は30.2%（前年度比+0.8pt）である。具体的な場としては「学外の就職イベント等」が20.4%（前年度比+3.4pt）、「学内の就職イベント等」が13.4%（前年度比-0.4pt）である。

図表 14 就職イベント等で介護の仕事に関する説明を聞いたり、見たりした経験  
【学生調査】

Q11	就職イベント等で「介護の仕事」に関する説明を聞いたり、見たりしたことはありますか。	R5 (Q11)	R4 (Q11)
1	学内の就職イベント等で聞いたり、見たりしたことがある	13.4	13.8
2	学外の就職イベント等で聞いたり、見たりしたことがある	20.4	17.0
3	就職イベント等で「介護の仕事」に関する説明を聞いたり、見たりしたことはない	69.8	70.6
	全体	500	500

#### エ. 介護施設などを訪問した経験（保護者）

保護者のうち、家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問した経験がある人は16.4%（前年度比-3.0pt）である。

また、介護施設を訪問した際に感じたこととしては「介護の仕事は大変そうだと感じた」が45.1%でもっとも多く、次いで「施設の職員が親切だった、優しかった」が43.9%、「施設が綺麗だと感じた」が34.1%である。

図表 15 家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問した経験【保護者調査】

Q6	家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問したことがありますか。	R5 (Q6)	R4 (Q6)
1	ある	16.4	19.4
2	ない	83.6	80.6
	全体	500	500

図表 16 介護関係の施設・事業所を訪問した際に感じたこと【保護者調査】

Q7	介護関係の施設・事業所を訪問した際に感じたことを教えてください。	R5 (Q7)	R4
1	施設の雰囲気が明るいと感じた	29.3	-
2	施設が綺麗だと感じた	34.1	-
3	施設の職員が親切だった、優しかった	43.9	-
4	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	18.3	-
5	施設の雰囲気が暗いと感じた	19.5	-
6	施設が汚いと感じた	11.0	-
7	介護の仕事は大変そうだと感じた	45.1	-
8	その他	-	-
	全体	82	-

## ②介護の仕事への関心

介護の仕事に「関心がある(もっと知りたいと思う)」と回答した人は、学生で19.0%(前年度比+1.8pt)、保護者で12.8%(前年度比-2.4pt)である。また、学生・保護者ともに5割前後の人が「関心はない(特に知りたいとは思わない)」と回答している。

図表 17 介護の仕事への関心【学生調査】

Q12	介護の仕事に関心がありますか。	R5 (Q12)	R4 (Q12)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	19.0	17.2
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	45.8	47.8
3	どちらともいえない	35.2	35.0
	全体	500	500

図表 18 介護の仕事への関心【保護者調査】

Q9	介護の仕事に関心がありますか。	R5 (Q9)	R4 (Q9)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	12.8	15.2
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	54.2	56.4
3	どちらともいえない	33.0	28.4
	全体	500	500

## ③介護の仕事に対する理解度

介護の仕事内容についての理解度は、学生・保護者ともに「何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない」(52.8%、58.0%)がもっとも多い。なお、「具体的な仕事内容を知っている」と回答した人は学生で17.0%、保護者で18.6%である。

図表 19 介護の仕事内容に関する理解度【学生調査】

Q8	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R5 (Q8)	R4 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	17.0	14.0
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	52.8	57.6
3	まったく知らない	30.2	28.4
	全体	500	500

図表 20 介護の仕事内容に関する理解度【保護者調査】

Q8	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R5 (Q8)	R4 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	18.6	19.4
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	58.0	54.4
3	まったく知らない	23.4	26.2
	全体	500	500

#### ④介護の仕事に対するイメージ

学生・保護者・介護職のいずれにおいても、「社会的意義の大きさ」や「やりがいの大きさ」「資格や専門知識の活かしやすさ」のスコアが上位3つとなった。

また、全体的な傾向として、介護職の方が学生・保護者よりも介護の仕事に対するイメージが良い。介護職と学生・保護者の間でスコアの差が大きかったのは、「仕事内容の楽しさ」や「勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ」「働きやすさ」である。

図表 21 介護の仕事に対するイメージ【学生調査・保護者調査・介護職調査】  
(5：良い印象、4：やや良い印象、3：どちらでもない、2：やや悪い印象、1：悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容の 楽しさ	資格 や専門 知識の 活かし やすさ	体 力的 負担に ついて	精 神的 負担に ついて	給 与に ついて	融 通の 利き やす さ	勤 務日 や勤 務時 間の 融通 の利 きや す さ	働 き やす さ	業 界 だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
学生	500	3.76	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.22		3.06	
保護者	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28		2.91	
介護職	入職前	1,000	3.76	3.74	3.38	3.59	3.07	3.08	3.01	3.33	3.34	3.50	3.38	
	入職後	1,000	3.68	3.63	3.36	3.54	3.01	2.98	2.97	3.36	3.35	3.36	3.32	

### ⑤介護の仕事を就職先として魅力的だと感じている人の割合

学生では、介護の仕事を就職先として魅力的だと「思う」が19.0%（前年度比+0.4pt）、「思わない」が45.0%（前年度比+0.6pt）である。

また、保護者では「思う」が8.4%（前年度比+0.4pt）、「思わない」が54.6%（前年度比-2.6pt）である。

図表 22 介護の仕事を就職先として魅力的だと感じるか否か【学生調査】

Q13	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R5	R4
		(Q13)	(Q13)
1	思う	19.0	18.6
2	思わない	45.0	44.4
3	どちらともいえない	36.0	37.0
	全体	500	500

図表 23 介護の仕事を就職先として魅力的だと感じるか否か【保護者調査】

Q10	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R5	R4
		(Q10)	(Q10)
1	思う	8.4	8.0
2	思わない	54.6	57.2
3	どちらともいえない	37.0	34.8
	全体	500	500

## ⑥就職先候補として介護の仕事に興味がある人の割合・特徴

### ア. 就職先候補として介護の仕事に興味がある人の割合

「就職先として考えている業界・興味を持っている業界がある」と回答した学生は全体の53.0%であり、その内、就職先として考えている業界・興味を持っている業界として介護の仕事を挙げた学生は8.7%（前年度比-0.5pt）である。

通っている学部・学科別にみると、福祉系の学科に通っている学生（23人）では「介護の仕事を就職先として考えている・興味がある」と回答した割合（46.7%）が高い。

図表 24 就職先として考えている業界・興味がある業界【学生調査】  
（就職先として介護の仕事を考えている・興味があるか否か）

		n数	就職先として考えている業界・興味がある業界がない	就職先として考えている業界・興味がある業界がある	介護の仕事を就職先として考えている・興味がある	介護の仕事を就職先として考えていない・興味がない
全体		500	171	103	80	106
		-	47.0	53.0	8.7	91.3
通っている学校	中学生	29	51.7	48.3	0.0	100.0
	高校生	161	46.0	54.0	10.3	89.7
	専門学校生、短大生、大学生、大学院生	310	47.1	52.9	8.5	91.5
通っている学部・学科	普通科	347	52.2	47.8	6.6	93.4
	福祉系の学科	23	34.8	65.2	46.7	53.3
	保健・医療系の学科	53	30.2	69.8	10.8	89.2
	その他	77	39.0	61.0	2.1	97.9

図表 25 就職先として考えている業界・興味がある業界【学生調査】

Q4	就職先として考えている業界・興味がある業界を教えてください。	R5 (Q4)	R4 (Q4)
1	農業, 林業	1.4	2.6
2	漁業	0.8	0.4
3	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.8	0.6
4	建設業	2.2	2.0
5	製造業	6.8	4.2
6	電気・ガス・熱供給・水道業	2.0	1.0
7	情報通信業	5.2	5.2
8	運輸業, 郵便業	1.8	3.0
9	卸売業, 小売業	3.2	4.8
10	金融業, 保険業	3.8	3.8
11	不動産業, 物品賃貸業	1.2	1.6
12	学術研究, 専門・技術サービス業	3.6	4.8
13	宿泊業, 飲食サービス業	4.0	3.6
14	生活関連サービス業, 娯楽業	3.6	4.4
15	教育, 学習支援業	7.4	8.0
16	医療, 福祉(介護の仕事)	4.6	5.0
17	医療, 福祉(介護の仕事以外)	13.4	16.6
18	複合サービス事業(郵便局・農業協同組合など)	2.4	2.0
19	サービス業(他に分類されないもの)	7.0	6.8
20	公務(他に分類されるものを除く)	8.8	7.6
21	その他	3.8	3.8
22	特に考えていない	47.0	45.6
	全体	500	500

子どもに就いて欲しい業種がある保護者は全体の64.4%であり、その内、就いて欲しい業種に「介護の仕事」を挙げた人は5.3%（前年度比+0.2pt）である。

また、60代以上では他の年齢層に比べて、子どもに就いて欲しい業種に「介護の仕事」を挙げた人の割合がやや高い。

図表 26 子どもに就いて欲しい業種【保護者調査】  
(就いて欲しい業種がある場合のみ)

	n数 (全体)	就いて欲しい業 種はない	就いて欲しい業 種がある	介護の仕事に 就いて欲しいと 考えている	介護の仕事に 就いて欲しいと は考えていない
全体	500	35.6	64.4	5.3	94.7
男性	271	29.2	70.8	3.6	96.4
女性	229	43.2	56.8	7.7	92.3
15歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0
15歳～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳～29歳	17	35.3	64.7	0.0	100.0
30歳～39歳	117	41.0	59.0	5.8	94.2
40歳～49歳	156	35.3	64.7	4.0	96.0
50歳～59歳	152	29.6	70.4	4.7	95.3
60歳以上	58	41.4	58.6	11.8	88.2

図表 27 子どもに就いて欲しい業種【保護者調査】

Q3	子どもに就いて欲しい業種を教えてください。	R5 (Q3)	R4 (Q3)
1	農業, 林業	1.0	1.0
2	漁業	1.0	-
3	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.8	0.4
4	建設業	5.0	6.2
5	製造業	16.2	13.2
6	電気・ガス・熱供給・水道業	3.6	3.6
7	情報通信業	10.0	10.4
8	運輸業, 郵便業	3.6	4.4
9	卸売業, 小売業	6.6	4.6
10	金融業, 保険業	6.0	6.0
11	不動産業, 物品賃貸業	2.4	2.4
12	学術研究, 専門・技術サービス業	9.2	11.4
13	宿泊業, 飲食サービス業	2.2	2.2
14	生活関連サービス業, 娯楽業	2.8	1.8
15	教育, 学習支援業	7.0	6.8
16	医療, 福祉(介護の仕事)	3.4	3.4
17	医療, 福祉(介護の仕事以外)	11.0	9.8
18	複合サービス事業 (郵便局, 農業協同組合など)	4.0	3.0
19	サービス業(他に分類されないもの)	6.4	4.8
20	公務(他に分類されるものを除く)	14.2	14.4
21	その他	0.8	0.4
22	特に考えていない	35.6	33.0
	全体	500	500

## イ. 介護の仕事を就職先として考えている学生の特徴

「介護との関わり」がある学生や、「介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験」がある学生、就職先選びの際に重視する項目として「就職しやすさ」や「資格や専門知識を活かすことができる」を回答した学生の方が、介護の仕事を就職先として考えている人の割合が高い。

図表 28 介護との関わり × 介護の仕事への就職意向【学生調査】

		n数	就職先として 考えている業界・ 興味がある業界がない	就職先として 考えている業界・ 興味がある業界がある	介護の仕事を 就職先として 考えている・ 興味がある	介護の仕事を 就職先として 考えていない・ 興味がない
全体		500	171	103	80	106
		-	47.0	53.0	8.7	91.3
介護との関わり	介護との関わりや興味関心がある	128	23.4	76.6	16.3	83.7
	現在、介護の仕事をしている	Yes	0	0.0	0.0	0.0
		No	500	47.0	53.0	8.7
	過去に介護の仕事をしたことがある	Yes	3	0.0	100.0	33.3
		No	497	47.3	52.7	8.4
	介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	Yes	27	33.3	66.7	16.7
		No	473	47.8	52.2	8.1
	介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	Yes	12	8.3	91.7	36.4
		No	488	48.0	52.0	7.5
	介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	Yes	20	15.0	85.0	11.8
		No	480	48.3	51.7	8.5
	介護の現場で実習、職場体験インターンシップなどを行っている(したことがある)	Yes	21	14.3	85.7	16.7
		No	479	48.4	51.6	8.1
	介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	Yes	15	13.3	86.7	46.2
		No	485	48.0	52.0	6.7
	自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	Yes	14	28.6	71.4	50.0
		No	486	47.5	52.5	7.1
	自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	Yes	14	14.3	85.7	33.3
		No	486	47.9	52.1	7.5
	自分が介護される立場である(だったことがある)	Yes	3	0.0	100.0	0.0
		No	497	47.3	52.7	8.8
	親や家族などの介護のことに興味がある	Yes	37	21.6	78.4	17.2
		No	463	49.0	51.0	7.6
自分の介護のことに興味がある	Yes	28	28.6	71.4	15.0	
	No	472	48.1	51.9	8.2	
その他	Yes	1	0.0	100.0	100.0	
	No	499	47.1	52.9	8.3	
該当するものはない(介護との関わりや介護への関心はない)		372	55.1	44.9	4.2	95.8

図表 29 介護の仕事テーマとしたコンテンツとの接触有無× 介護の仕事への就職意向  
【学生調査】

		n数	就職先として 考えている業界・ 興味がある業界がない	就職先として 考えている業界・ 興味がある業界がある	介護の仕事 を就職先として 考えている・ 興味がある	介護の仕事 を就職先として 考えていない・ 興味がない	
全体		500	171	103	80	106	
		-	47.0	53.0	8.7	91.3	
介護の仕事 をテーマとした コンテンツに 触れた経験	介護の仕事テーマとしたコンテンツに 触れた経験がある	147	25.9	74.1	12.8	87.2	
	介護の仕事テーマとしたイ ベントに参加したことがある	Yes	27	14.8	85.2	17.4	82.6
		No	473	48.8	51.2	7.9	92.1
	介護の仕事テーマとしてテ レビ番組を観たことがある	Yes	66	25.8	74.2	14.3	85.7
		No	434	50.2	49.8	7.4	92.6
	介護の仕事テーマとしたラ ジオ番組を聴いたことがある	Yes	21	23.8	76.2	6.3	93.8
		No	479	48.0	52.0	8.8	91.2
	介護の仕事テーマとした新 聞記事・広告を見たことがあ る	Yes	36	25.0	75.0	7.4	92.6
		No	464	48.7	51.3	8.8	91.2
	介護の仕事テーマとした雑 誌記事を見たことがある	Yes	25	24.0	76.0	15.8	84.2
		No	475	48.2	51.8	8.1	91.9
	介護の仕事テーマとした WEB記事を見たことがある	Yes	38	26.3	73.7	25.0	75.0
		No	462	48.7	51.3	6.8	93.2
	介護の仕事テーマとした WEB動画を見たことがある	Yes	35	17.1	82.9	17.2	82.8
		No	465	49.2	50.8	7.6	92.4
その他	Yes	1	0.0	100.0	0.0	100.0	
	No	499	47.1	52.9	8.7	91.3	
介護の仕事テーマとしたコンテンツに 触れたことはない		353	55.8	44.2	5.8	94.2	



図表 30 就職先選びの際に重視すること（上位5つ）× 介護の仕事への就職意向  
【学生調査】

			n数	就職先として 考えている業界・ 興味がある業界がない	就職先として 考えている業界・ 興味がある業界がある	介護の仕事を 就職先として 考えている・ 興味がある	介護の仕事を 就職先として 考えていない・ 興味がない
全体			500	171	103	80	106
			-	47.0	53.0	8.7	91.3
Q6. 就職先選びの際に重視することを教えてください。(上位5つまで)	社会的意義が大きいこと	Yes	86	31.4	68.6	6.8	93.2
		No	414	50.2	49.8	9.2	90.8
	社会的な評価が高いこと	Yes	62	43.5	56.5	5.7	94.3
		No	438	47.5	52.5	9.1	90.9
	やりがいがあること	Yes	219	36.1	63.9	8.6	91.4
		No	281	55.5	44.5	8.8	91.2
	人の役に立てること	Yes	157	35.7	64.3	12.9	87.1
		No	343	52.2	47.8	6.1	93.9
	仕事内容自体が楽しいこと	Yes	171	32.7	67.3	6.1	93.9
		No	329	54.4	45.6	10.7	89.3
	資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられる)	Yes	103	27.2	72.8	12.0	88.0
		No	397	52.1	47.9	7.4	92.6
	体力的負担が軽いこと	Yes	80	38.8	61.3	2.0	98.0
		No	420	48.6	51.4	10.2	89.8
	精神的負担が軽いこと	Yes	106	48.1	51.9	5.5	94.5
		No	394	46.7	53.3	9.5	90.5
	給与が良いこと	Yes	212	36.8	63.2	7.5	92.5
		No	288	54.5	45.5	9.9	90.1
	勤務時間に融通が利くこと	Yes	95	41.1	58.9	7.1	92.9
		No	405	48.4	51.6	9.1	90.9
	休暇が取りやすいこと	Yes	138	39.9	60.1	8.4	91.6
		No	362	49.7	50.3	8.8	91.2
	未経験でも始めやすいこと	Yes	58	63.8	36.2	9.5	90.5
		No	442	44.8	55.2	8.6	91.4
	就職しやすいこと	Yes	95	61.1	38.9	18.9	81.1
		No	405	43.7	56.3	7.0	93.0
	その他	Yes	10	60.0	40.0	0.0	100.0
		No	490	46.7	53.3	8.8	91.2

### ⑦子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った時に応援する人の割合

子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った時に「積極的に応援したいと思う」と回答した人の割合は、スクリーニング調査回答者では38.6%、保護者では36.8%（前年度比+21.6pt）、介護職では53.4%（前年度比-0.6pt<sup>8</sup>）である。

図表 31 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応【SCR調査】  
（就学前の子どもが1人以上いる場合のみ）

Q5	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q5)	R4
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	38.6	-
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	42.4	-
3	本人の希望があったとしても反対する	19.0	-
	全体	10,544	-

図表 32 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応【保護者調査】  
（就学前の子どもが1人以上いる場合のみ）

scr5	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (scr5)	R4 (Q15)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	36.8	15.2
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	41.0	65.0
3	本人の希望があったとしても反対する	22.2	19.8
	全体	500	500

図表 33 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応【介護職調査】  
（就学前の子どもが1人以上いる場合のみ）

scr5	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (scr5)	R4 (Q37)
1	積極的に勧めたいと思う	-	15.6
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	53.4	38.4
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	34.6	30.8
4	本人の希望があったとしても反対する	12.0	15.2
	全体	425	435

<sup>8</sup> R5調査の比較対象には、R4調査の「積極的に勧めたいと思う」（15.6%）と「本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う」（38.4%）を合算した数値（54.0%）を使用した。

また、子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合に「積極的に応援したい」と回答している人は、そうでない人に比べて介護の仕事に対するイメージがポジティブである。

図表 34 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応

× 介護の仕事のイメージ【保護者調査】

(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと思 うか	総合ス コア
全体	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	2.91
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	184	4.05	3.70	2.97	3.68	2.61	2.68	2.47	2.69	2.81	3.53	3.12
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないかと伝える	205	3.85	3.46	2.57	3.40	2.37	2.33	2.12	2.40	2.50	3.27	2.83
本人の希望があったとしても反対する	111	3.28	3.02	2.64	2.88	2.59	2.54	2.49	2.57	2.50	2.90	2.74

図表 35 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応

× 介護の仕事のイメージ (入職後)

【介護職調査】(就学前の子どもが1人以上いる場合のみ)

(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと思 うか	総合ス コア
全体	1,000	3.7	3.6	3.4	3.5	3.0	3.0	3.0	3.4	3.4	3.4	3.3
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	213	4.1	4.1	3.9	3.9	3.5	3.4	3.5	3.9	3.8	3.8	3.8
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないかと伝える	164	3.6	3.5	3.2	3.5	3.0	3.0	3.0	3.3	3.2	3.3	3.3
本人の希望があったとしても反対する	48	3.3	3.0	2.8	3.0	2.6	2.6	2.7	2.9	2.7	2.8	2.8

### ⑧友人が「介護の仕事に就きたい」と言った時に応援する人の割合

友人が「介護の仕事に就きたい」と言った時に「積極的に応援したいと思う」と回答した人の割合は、学生では54.2%（前年度比-18.0pt<sup>9</sup>）、保護者では38.8%（前年度比-32.8pt<sup>10</sup>）、介護職では48.0%（前年度比-23.3pt<sup>11</sup>）である。

図表 36 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応【学生調査】

Q17	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q17)	R4 (Q18)
1	積極的に勧めたいと思う	-	8.2
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	54.2	64.0
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	28.0	13.0
4	本人の希望があったとしても反対する	17.8	14.8
	全体	500	500

図表 37 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応【保護者調査】

Q14	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q14)	R4 (Q18)
1	積極的に勧めたいと思う	-	2.4
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	38.8	69.2
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	43.6	21.8
4	本人の希望があったとしても反対する	17.6	6.6
	全体	500	500

図表 38 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応【介護職調査】

Q34	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q34)	R4 (Q39)
1	積極的に勧めたいと思う	-	9.5
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	48.0	61.8
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	39.4	19.7
4	本人の希望があったとしても反対する	12.6	9.0
	全体	1,000	1,000

<sup>9</sup> R5調査の比較対象には、R4調査の「積極的に勧めたいと思う」（8.2%）と「本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う」（64.0%）を合算した数値（72.2%）を使用した。

<sup>10</sup> R5調査の比較対象には、R4調査の「積極的に勧めたいと思う」（2.4%）と「本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う」（69.2%）を合算した数値（71.6%）を使用した。

<sup>11</sup> R5調査の比較対象には、R4調査の「積極的に勧めたいと思う」（9.5%）と「本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う」（61.8%）を合算した数値（71.3%）を使用した。

### ⑨介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験

介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の割合は、28.6%（前年度比-57.5pt）である。接触したことがあるコンテンツの中では、「テレビ番組」が17.2%（前年度比-28.5pt）でもっとも多く、次いで「新聞記事・広告」が10.1%（前年度比-12.4pt）、「WEB記事」が9.5%（前年度比-9.5pt）である。

コンテンツ接触経験がある人の割合が昨年度と比べて大幅に減少している理由としては、昨年度の選択肢「該当ない・不明・覚えていない等」を「介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れたことはない」に変更したことや、介護に関する情報発信が実施された時期と本調査の実施タイミングの重なり・ずれが昨年度と今年度で異なっていることなどが考えられる。

年齢層による大きな違いは見られないが、年齢が高くなるにつれて「テレビ番組」および「新聞記事・広告」の割合がわずかに高くなっている。

図表 39 介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験【SCR調査】

Q4	介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験について、以下から当てはまるものを全てお選びください。	R5	R4
		(Q4)	(Q4)
1	介護の仕事テーマとしたイベントに参加したことがある	3.1	4.9
2	介護の仕事テーマとしてテレビ番組を観たことがある	17.2	45.7
3	介護の仕事テーマとしたラジオ番組を聴いたことがある	2.8	5.3
4	介護の仕事テーマとした新聞記事・広告を見たことがある	10.1	22.5
5	介護の仕事テーマとした雑誌記事を見たことがある	6.0	11.6
6	介護の仕事テーマとしたWEB記事を見たことがある	9.5	19.0
7	介護の仕事テーマとしたWEB動画を見たことがある	5.2	8.4
8	その他	0.3	0.6
9	介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れたことはない (R4: 該当なし・不明・覚えてない等)	71.4	13.9
10	エラー	0.0	0.2
	全体	36,000	35,873

図表 40 年齢別 介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れた経験【SCR調査】

	n数	介護の仕事に参加したことがある	介護の仕事を観たことがある	介護の仕事をしたことがある	介護の仕事を見たことがある	介護の仕事を見たことがある	WEBの記事を見たことがある	WEBの動画を見たことがある	その他	介護の仕事に触れたことはない
全体	36,000	3.1	17.2	2.8	10.1	6.0	9.5	5.2	0.3	71.4
15歳未満	44	2.3	6.8	2.3	6.8	2.3	4.5	4.5	0.0	79.5
15歳～19歳	861	6.0	15.7	2.8	8.1	4.5	7.8	8.6	0.9	64.6
20歳～29歳	4,360	4.4	12.8	3.4	7.1	5.1	8.0	5.7	0.1	73.9
30歳～39歳	6,925	4.0	14.4	2.5	7.6	5.2	10.0	5.9	0.3	73.7
40歳～49歳	7,982	2.7	16.0	3.0	9.3	6.0	10.2	5.3	0.2	72.3
50歳～59歳	8,223	2.4	18.0	2.3	10.5	6.1	9.8	4.6	0.3	71.9
60歳以上	7,605	2.2	22.8	3.0	14.6	7.3	9.2	4.3	0.5	66.9

## ⑩介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものとしては、学生・保護者・介護職のいずれでも「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」（19.0%、21.0%、28.2%）がもっとも多い。次いで、学生では「親族から聞いた話」が16.2%、保護者・介護職では「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が17.8%、26.8%である。

図表 41 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの  
【学生調査・保護者調査・介護職調査】

Q15	介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	学生		保護者		介護職	
		R5 (Q15)	R4 (Q15)	R5 (Q12)	R4 (Q12)	R5 (Q27)	R4 (Q29)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	12.8	13.2	17.8	18.0	26.8	28.2
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	19.0	16.6	21.0	22.2	28.2	32.6
3	親族から聞いた話	16.2	15.0	10.6	13.0	14.8	13.0
4	知人・友人から聞いた話	9.0	9.4	10.2	12.4	13.1	16.2
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	10.8	13.8	2.6	4.2	12.1	10.9
6	介護に関するイベント	8.8	4.6	4.6	4.4	10.5	9.0
7	介護に関するテレビ番組	15.2	15.6	22.0	19.8	12.8	14.2
8	介護に関するラジオ番組	2.8	1.4	2.0	0.8	5.5	3.5
9	介護に関する新聞記事・広告	5.0	2.8	8.4	6.2	6.0	7.2
10	介護に関する雑誌記事	2.4	3.0	4.2	2.8	5.2	5.8
11	介護に関する書籍・漫画	3.4	3.6	3.4	2.0	5.1	5.5
12	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	4.0	5.4	8.0	6.2	7.1	5.4
13	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	5.4	4.2	4.4	2.8	6.2	5.2
14	介護に関する映画	2.0	2.0	1.4	1.2	3.4	2.5
15	その他	0.2	0.4	0.6	1.2	1.2	1.0
16	わからない	11.4	17.4	10.4	14.8	11.8	10.3
17	介護の仕事に対して良いイメージを持っていない	33.6	28.6	30.6	27.2	18.7	15.3
	全体	500	500	500	500	1,000	1,000

⑪介護の仕事に対する関心・就職意向・イメージに影響するもの

ア.「介護との関わり」の有無

学生・保護者ともに、介護と何らかの関わりがある人は、介護との関わりがない人に比べて、介護の仕事に「関心がある（もっと知りたい）と思う」や「介護の仕事を受職先として魅力的だと思う」と回答した人の割合が高く、介護に対するイメージも良い傾向にある。

図表 42 介護との関わり × 介護への関心等【学生調査】

	n数	Q8. 介護の仕事への理解度			Q12. 介護の仕事への関心			Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			Q17. 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q4. 介護の仕事への就職意向	
		具体的な仕事内容を知っている	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	「できれば他の仕事も検討したい」と伝える	本人の希望があったとしても反対する	介護の仕事を受職先として考えている・興味がある	介護の仕事を受職先として考えている・興味がない
全体	500	85	264	151	95	229	176	95	225	180	271	140	89	23	242
	-	17.0	52.8	30.2	19.0	45.8	35.2	19.0	45.0	36.0	54.2	28.0	17.8	8.7	91.3
介護との関わり	128	35.9	56.3	7.8	37.5	40.6	21.9	33.6	34.4	32.0	70.3	21.1	8.6	16.3	83.7
現在、介護の仕事をしている	Yes	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	No	500	17.0	52.8	30.2	19.0	45.8	35.2	19.0	45.0	36.0	54.2	28.0	17.8	8.7
過去に介護の仕事をしたことがある	Yes	3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	66.7
	No	497	16.7	53.1	30.2	18.7	46.1	35.2	18.7	45.3	36.0	54.1	28.2	17.7	8.4
介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	Yes	27	25.9	70.4	3.7	18.5	55.6	25.9	37.0	33.3	29.6	70.4	25.9	3.7	16.7
	No	473	16.5	51.8	31.7	19.0	45.2	35.7	18.0	45.7	36.4	53.3	28.1	18.6	8.1
介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	Yes	12	50.0	33.3	16.7	58.3	25.0	16.7	41.7	25.0	33.3	75.0	8.3	16.7	63.6
	No	488	16.2	53.3	30.5	18.0	46.3	35.7	18.4	45.5	36.1	53.7	28.5	17.8	7.5
介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	Yes	20	60.0	35.0	5.0	50.0	30.0	20.0	45.0	15.0	40.0	60.0	25.0	15.0	11.8
	No	480	15.2	53.5	31.3	17.7	46.5	35.8	17.9	46.3	35.8	54.0	28.1	17.9	8.5
介護の現場で実習、職場体験インターンシップなどを行っている(したことがある)	Yes	21	71.4	23.8	4.8	42.9	28.6	28.6	33.3	28.6	38.1	81.0	14.3	4.8	16.7
	No	479	14.6	54.1	31.3	18.0	46.6	35.5	18.4	45.7	35.9	53.0	28.6	18.4	8.1
介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	Yes	15	60.0	40.0	0.0	66.7	20.0	13.3	46.7	33.3	20.0	86.7	6.7	6.7	46.2
	No	485	15.7	53.2	31.1	17.5	46.6	35.9	18.1	45.4	36.5	53.2	28.7	18.1	6.7
自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	Yes	14	42.9	57.1	0.0	42.9	42.9	14.3	28.6	42.9	28.6	64.3	35.7	0.0	50.0
	No	486	16.3	52.7	31.1	18.3	45.9	35.8	18.7	45.1	36.2	53.9	27.8	18.3	7.1
自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	Yes	14	14.3	85.7	0.0	35.7	50.0	14.3	14.3	35.7	50.0	78.6	21.4	0.0	33.3
	No	486	17.1	51.9	31.1	18.5	45.7	35.8	19.1	45.3	35.6	53.5	28.2	18.3	7.5
自分が介護される立場である(だったことがある)	Yes	3	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0
	No	497	16.9	52.7	30.4	19.1	45.7	35.2	18.9	44.9	36.2	54.3	27.8	17.9	8.8
親や家族などの介護のことに関心がある	Yes	37	32.4	62.2	5.4	40.5	40.5	18.9	32.4	29.7	37.8	64.9	29.7	5.4	17.2
	No	463	15.8	52.1	32.2	17.3	46.2	36.5	17.9	46.2	35.9	53.3	27.9	18.8	7.6
自分の介護のことに関心がある	Yes	28	42.9	50.0	7.1	60.7	28.6	10.7	46.4	32.1	21.4	78.6	17.9	3.6	15.0
	No	472	15.5	53.0	31.6	16.5	46.8	36.7	17.4	45.8	36.9	52.8	28.6	18.6	8.2
その他	Yes	1	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	No	499	16.8	52.9	30.3	18.8	45.9	35.3	18.8	45.1	36.1	54.1	28.1	17.8	8.3
介護との関わりはない	372	10.5	51.6	37.9	12.6	47.6	39.8	14.0	48.7	37.4	48.7	30.4	21.0	4.2	95.8



図表 43 介護との関わり × 介護の仕事のイメージ【学生調査】  
 (5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

		n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容の 楽しさ	資格 や専門 知識の 活かし やすさ	体的 負担に ついて	精神 的負担 につい て	給与 につい て	融通 の利き やすさ	勤務 日や勤 務時間 の	働き やすさ	業 界だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体		500	3.76	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.22	3.06		
介護との関わりや興味関心 (全体)	Yes	128	4.05	3.91	3.01	3.92	2.75	2.80	2.84	2.94	3.09	3.55	3.29		
	No	372	3.66	3.53	2.77	3.37	2.57	2.59	2.68	2.73	2.76	3.11	2.98		
現在、介護の仕事をしている	Yes	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	No	500	3.76	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.22	3.06		
過去に介護の仕事をしたことがある	Yes	3	3.33	4.00	4.00	3.67	4.00	4.00	4.00	3.67	4.00	4.00	3.87		
	No	497	3.76	3.63	2.82	3.51	2.61	2.64	2.71	2.78	2.84	3.22	3.05		
介護の仕事に就いている(就 いていた)親族がいる	Yes	27	4.00	3.78	2.70	4.04	2.81	2.78	2.89	2.78	3.11	3.48	3.24		
	No	473	3.74	3.62	2.84	3.48	2.60	2.64	2.71	2.79	2.83	3.21	3.04		
介護の仕事に就いている(就 いていた)友人がいる	Yes	12	3.75	3.83	3.17	4.00	3.17	3.08	3.17	3.17	3.50	3.50	3.43		
	No	488	3.76	3.62	2.82	3.50	2.60	2.63	2.71	2.78	2.83	3.21	3.05		
介護の現場でボランティアを している(したことがある)	Yes	20	4.00	3.80	2.95	3.95	2.75	2.80	2.75	2.75	2.95	3.40	3.21		
	No	480	3.75	3.62	2.83	3.49	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.21	3.05		
介護の現場で実習、職場体 験インターンシップなどをし ている(したことがある)	Yes	21	4.29	4.19	2.86	4.10	2.24	2.24	2.62	2.57	2.81	3.43	3.13		
	No	479	3.73	3.60	2.83	3.48	2.63	2.66	2.73	2.80	2.84	3.21	3.05		
介護に関する勉強をしている (勉強したことがある)	Yes	15	4.13	4.20	2.93	4.47	2.67	2.73	2.80	2.73	3.07	3.60	3.33		
	No	485	3.74	3.61	2.83	3.48	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.21	3.05		
自分の親や家族などの介護 をしている(したことがある)	Yes	14	4.36	4.29	2.71	4.00	2.36	2.36	2.64	3.00	3.00	3.64	3.24		
	No	486	3.74	3.61	2.83	3.49	2.62	2.65	2.72	2.78	2.84	3.21	3.05		
自分の親族内での介護(親 が祖父母の介護をしている シーンなど)を見たことがあ る	Yes	14	4.50	4.21	2.29	4.07	1.64	1.79	2.00	2.29	2.50	3.64	2.89		
	No	486	3.73	3.61	2.85	3.49	2.64	2.67	2.74	2.80	2.85	3.21	3.06		
自分が介護される立場であ る(だったことがある)	Yes	3	4.33	4.00	3.00	4.00	2.67	2.67	3.00	3.00	2.67	4.00	3.33		
	No	497	3.75	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.78	2.84	3.22	3.05		
親や家族などの介護のこ とに関心がある	Yes	37	3.97	4.03	3.03	4.14	2.78	2.95	2.76	3.03	3.14	3.68	3.35		
	No	463	3.74	3.60	2.81	3.46	2.60	2.62	2.72	2.77	2.82	3.18	3.03		
自分の介護のことに関心 がある	Yes	28	4.21	4.18	3.61	4.00	3.00	3.32	3.21	3.29	3.18	3.46	3.55		
	No	472	3.73	3.60	2.78	3.48	2.59	2.60	2.69	2.76	2.82	3.21	3.03		
その他	Yes	1	5.00	5.00	3.00	4.00	2.00	2.00	2.00	2.00	3.00	5.00	3.30		
	No	499	3.75	3.63	2.83	3.51	2.62	2.65	2.72	2.79	2.84	3.22	3.05		
該当するものはない(介護との関わり や介護への関心はない)		372	3.66	3.53	2.77	3.37	2.57	2.59	2.68	2.73	2.76	3.11	2.98		

図表 44 介護との関わり × 介護への関心等【保護者調査】

	n数	Q8. 介護の仕事への理解度				Q9. 介護の仕事への関心				Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか				SCR5. こどもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q3. 子どもに就いて欲しい業種	
		具体的な仕事内容を知っている	が、具体的なイメージはない	なんとなく知らない	まったく知らない	関心がある(もっと知りたいと思う)	関心はない(特に知りたいとは思わない)	どちらともいえない	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	本人の希望であれば、積極的に支援したいと思う	本人の希望がなかったとしても反対する	「できれば他の仕事も検討したい」と伝える	本人の希望がなかったとしても反対する	子どもに就いて欲しい業種に介護の仕事が含まれる	子どもに就いて欲しい業種に介護の仕事が含まれない
全体	500	93	290	117	64	271	165	42	273	185	184	205	111	17	305			
	-	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7			
介護との関わり	131	35.1	59.5	5.3	30.5	35.1	34.4	19.8	43.5	36.6	51.9	41.2	6.9	7.2	92.8			
介護との関わりがある																		
現在、介護の仕事をしている	Yes	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	No	500	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7		
過去に介護の仕事をしたことがある	Yes	12	83.3	16.7	0.0	75.0	16.7	8.3	41.7	25.0	33.3	75.0	25.0	0.0	100.0			
	No	488	17.0	59.0	24.0	11.3	55.1	33.6	7.6	55.3	37.1	35.9	41.4	22.7	5.4	94.6		
介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	Yes	9	44.4	44.4	11.1	66.7	33.3	0.0	44.4	44.4	11.1	55.6	44.4	0.0	16.7	83.3		
	No	491	18.1	58.2	23.6	11.8	54.6	33.6	7.7	54.8	37.5	36.5	40.9	22.6	5.1	94.9		
介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	Yes	13	53.8	46.2	0.0	46.2	30.8	23.1	46.2	38.5	15.4	53.8	46.2	0.0	8.3	91.7		
	No	487	17.7	58.3	24.0	11.9	54.8	33.3	7.4	55.0	37.6	36.3	40.9	22.8	5.2	94.8		
介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	Yes	7	71.4	28.6	0.0	42.9	28.6	28.6	57.1	14.3	28.6	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0		
	No	493	17.8	58.4	23.7	12.4	54.6	33.1	7.7	55.2	37.1	36.5	41.0	22.5	5.3	94.7		
介護の現場で実習、職場体験インターンシップなどを行っている(したことがある)	Yes	9	77.8	22.2	0.0	66.7	11.1	22.2	33.3	33.3	33.3	66.7	22.2	11.1	0.0	100.0		
	No	491	17.5	58.7	23.8	11.8	55.0	33.2	7.9	55.0	37.1	36.3	41.3	22.4	5.4	94.6		
介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	Yes	11	81.8	18.2	0.0	54.5	27.3	18.2	18.2	36.4	45.5	54.5	36.4	9.1	0.0	100.0		
	No	489	17.2	58.9	23.9	11.9	54.8	33.3	8.2	55.0	36.8	36.4	41.1	22.5	5.4	94.6		
自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	Yes	39	38.5	56.4	5.1	33.3	41.0	25.6	20.5	61.5	17.9	48.7	43.6	7.7	5.9	94.1		
	No	461	16.9	58.1	24.9	11.1	55.3	33.6	7.4	54.0	38.6	35.8	40.8	23.4	5.2	94.8		
自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	Yes	24	37.5	58.3	4.2	33.3	54.2	12.5	29.2	45.8	25.0	58.3	37.5	4.2	9.5	90.5		
	No	476	17.6	58.0	24.4	11.8	54.2	34.0	7.4	55.0	37.6	35.7	41.2	23.1	5.0	95.0		
自分が介護される立場である(だったことがある)	Yes	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0		
	No	498	18.5	58.2	23.3	12.7	54.2	33.1	8.2	54.6	37.1	36.7	41.0	22.3	5.3	94.7		
親や家族などの介護のことに関心がある	Yes	58	27.6	70.7	1.7	22.4	36.2	41.4	17.2	37.9	44.8	55.2	36.2	8.6	10.0	90.0		
	No	442	17.4	56.3	26.2	11.5	56.6	31.9	7.2	56.8	36.0	34.4	41.6	24.0	4.6	95.4		
自分の介護のことに関心がある	Yes	39	33.3	59.0	7.7	38.5	25.6	35.9	25.6	33.3	41.0	56.4	28.2	15.4	20.0	80.0		
	No	461	17.4	57.9	24.7	10.6	56.6	32.8	6.9	56.4	36.7	35.1	42.1	22.8	3.8	96.2		
その他	Yes	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	No	500	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7		
介護との関わりはない	369	12.7	57.5	29.8	6.5	61.0	32.5	4.3	58.5	37.1	31.4	40.9	27.6	4.4	95.6			

図表 45 介護との関わり × 介護の仕事のイメージ【保護者調査】  
 (5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

		n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの 大きさ	仕事 内容 の 楽しさ	活 か し や す さ の 専 門 知 識 の	体 力 的 負 担 に つ い て	精 神 的 負 担 に つ い て	給 与 に つ い て	融 通 の 利 き や す さ の	勤 務 日 や 勤 務 時 間 の	働 き や す さ	業 界 だ と 思 う か の	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体		500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	3.28	2.91	
介護との関わりや興味関心 (全体)	Yes	131	4.10	3.73	2.95	3.68	2.73	2.67	2.51	2.69	2.73	3.47	3.47	3.13	
	No	369	3.69	3.35	2.65	3.28	2.43	2.44	2.26	2.49	2.57	3.22	3.22	2.84	
現在、介護の仕事をしている	Yes	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	No	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	3.28	2.91	
過去に介護の仕事をしたことがある	Yes	12	3.58	3.50	3.58	3.50	3.17	2.67	2.92	3.25	3.08	3.25	3.25	3.25	
	No	488	3.80	3.45	2.71	3.38	2.49	2.50	2.31	2.52	2.60	3.28	3.28	2.91	
介護の仕事に就いている(就いて いた)親族がいる	Yes	9	4.22	3.78	3.56	3.89	2.78	3.11	3.00	3.44	2.78	3.78	3.78	3.43	
	No	491	3.79	3.44	2.72	3.38	2.50	2.49	2.32	2.53	2.61	3.27	3.27	2.90	
介護の仕事に就いている(就いて いた)友人がいる	Yes	13	4.08	4.00	3.31	3.77	2.69	2.92	2.62	3.08	3.08	3.77	3.77	3.33	
	No	487	3.79	3.44	2.72	3.38	2.50	2.49	2.32	2.53	2.60	3.27	3.27	2.90	
介護の現場でボランティアをし ている(したことがある)	Yes	7	4.43	4.43	3.71	4.29	3.43	3.00	3.43	3.57	3.57	4.29	4.29	3.81	
	No	493	3.79	3.44	2.72	3.37	2.49	2.50	2.31	2.53	2.60	3.27	3.27	2.90	
介護の現場で実習、職場体験 インターンシップなどをしている (したことがある)	Yes	9	3.67	3.67	2.89	3.78	3.00	3.00	2.78	3.11	3.11	3.33	3.33	3.23	
	No	491	3.80	3.45	2.73	3.38	2.50	2.49	2.32	2.53	2.60	3.28	3.28	2.91	
介護に関する勉強をしている (勉強したことがある)	Yes	11	3.36	3.18	2.82	3.45	2.55	2.45	2.73	2.73	2.55	3.27	3.27	2.91	
	No	489	3.81	3.46	2.73	3.38	2.51	2.51	2.32	2.54	2.61	3.28	3.28	2.91	
自分の親や家族などの介護をし ている(したことがある)	Yes	39	4.05	3.69	2.87	3.85	2.74	2.72	2.36	2.56	2.59	3.26	3.26	3.07	
	No	461	3.78	3.43	2.72	3.35	2.49	2.49	2.33	2.54	2.61	3.29	3.29	2.90	
自分の親族内での介護(親が 祖父母の介護をしているシー ンなど)を見たことがある	Yes	24	4.25	3.92	3.08	3.75	2.83	2.71	2.58	2.75	3.00	3.79	3.79	3.27	
	No	476	3.78	3.43	2.71	3.37	2.49	2.49	2.32	2.53	2.59	3.26	3.26	2.90	
自分が介護される立場である (だったことがある)	Yes	2	4.00	3.50	3.50	2.50	3.50	2.50	3.00	3.00	4.00	3.50	3.50	3.30	
	No	498	3.80	3.45	2.73	3.39	2.50	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	3.28	2.91	
親や家族などの介護のことに 関心がある	Yes	58	4.22	3.79	2.93	3.62	2.55	2.59	2.43	2.59	2.69	3.53	3.53	3.09	
	No	442	3.74	3.40	2.71	3.36	2.50	2.49	2.31	2.54	2.60	3.25	3.25	2.89	
自分の介護のことに関心があ る	Yes	39	4.28	3.90	3.03	3.82	2.95	2.87	2.79	2.82	2.92	3.56	3.56	3.29	
	No	461	3.76	3.41	2.71	3.35	2.47	2.47	2.29	2.52	2.59	3.26	3.26	2.88	
その他	Yes	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	No	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	3.28	2.91	
該当するものはない(介護との関わり や介護への関心はない)		369	3.69	3.35	2.65	3.28	2.43	2.44	2.26	2.49	2.57	3.22	3.22	2.84	

## イ. 「介護の仕事に関するコンテンツに接触した経験」の有無

学生・保護者ともに、介護の仕事に関するコンテンツと接触した経験のある人は、接触した経験がない人に比べて、介護の仕事に「関心がある（もっと知りたい）と思う」や「介護の仕事就職先として魅力的だと思う」と回答した人の割合が高く、介護に対するイメージもわずかに良い傾向である。

図表 46 介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験 × 介護への関心等  
【学生調査】

	n数	Q8. 介護の仕事への理解度			Q12. 介護の仕事への関心			Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			Q17. 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q4. 介護の仕事への就職意向			
		具体的な仕事内容を知っている	知らない 具体的な仕事内容については知らない	何となくのイメージはあるが、具体的なイメージはない	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	応援したいと思う	本人の希望であれば、積極的に	ほめる	「できれば他の仕事も検討したい」と伝える	本人の希望があつたとしても反対する	考えている・興味がある
全体	500	85	264	151	95	229	176	95	225	180	271	140	89	23	242		
	-	17.0	52.8	30.2	19.0	45.8	35.2	19.0	45.0	36.0	54.2	28.0	17.8	8.7	91.3		
介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験	介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験がある	147	28.6	59.9	11.6	36.7	36.1	27.2	32.7	34.0	33.3	64.6	25.2	10.2	12.8	87.2	
	介護の仕事テーマとしたイベントに参加したことがある	Yes	27	44.4	44.4	11.1	48.1	18.5	33.3	44.4	11.1	44.4	63.0	25.9	11.1	17.4	82.6
		No	473	15.4	53.3	31.3	17.3	47.4	35.3	17.5	46.9	35.5	53.7	28.1	18.2	7.9	92.1
	介護の仕事テーマとしてテレビ番組を観たことがある	Yes	66	18.2	72.7	9.1	33.3	39.4	27.3	24.2	37.9	37.9	65.2	33.3	1.5	14.3	85.7
		No	434	16.8	49.8	33.4	16.8	46.8	36.4	18.2	46.1	35.7	52.5	27.2	20.3	7.4	92.6
	介護の仕事テーマとしたラジオ番組を聴いたことがある	Yes	21	33.3	52.4	14.3	38.1	33.3	28.6	47.6	28.6	23.8	66.7	14.3	19.0	6.3	93.8
		No	479	16.3	52.8	30.9	18.2	46.3	35.5	17.7	45.7	36.5	53.7	28.6	17.7	8.8	91.2
	介護の仕事テーマとした新聞記事・広告を見たことがある	Yes	36	41.7	47.2	11.1	36.1	38.9	25.0	33.3	44.4	22.2	69.4	27.8	2.8	7.4	92.6
		No	464	15.1	53.2	31.7	17.7	46.3	36.0	17.9	45.0	37.1	53.0	28.0	19.0	8.8	91.2
	介護の仕事テーマとした雑誌記事を見たことがある	Yes	25	32.0	60.0	8.0	52.0	28.0	20.0	44.0	32.0	24.0	56.0	32.0	12.0	15.8	84.2
		No	475	16.2	52.4	31.4	17.3	46.7	36.0	17.7	45.7	36.6	54.1	27.8	18.1	8.1	91.9
	介護の仕事テーマとしたWEB記事を見たことがある	Yes	38	34.2	57.9	7.9	42.1	31.6	26.3	39.5	36.8	23.7	65.8	21.1	13.2	25.0	75.0
		No	462	15.6	52.4	32.0	17.1	47.0	35.9	17.3	45.7	37.0	53.2	28.6	18.2	6.8	93.2
	介護の仕事テーマとしたWEB動画を見たことがある	Yes	35	37.1	62.9	0.0	48.6	28.6	22.9	45.7	14.3	40.0	68.6	28.6	2.9	17.2	82.8
		No	465	15.5	52.0	32.5	16.8	47.1	36.1	17.0	47.3	35.7	53.1	28.0	18.9	7.6	92.4
その他	Yes	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	No	499	17.0	52.7	30.3	19.0	45.7	35.3	19.0	44.9	36.1	54.1	28.1	17.8	8.7	91.3	
介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触したことはない	353	12.2	49.9	38.0	11.6	49.9	38.5	13.3	49.6	37.1	49.9	29.2	21.0	5.8	94.2		

図表 47 コンテンツとの接触経験 × 介護の仕事のイメージ【学生調査】  
 (5：良い印象、4：やや良い印象、3：どちらでもない、2：やや悪い印象、1：悪い印象)

		n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容の 楽しさ	資格 や専門 知識の 活かし やすさ	体 力的 負担に ついて	精 神的 負担に ついて	給 与に ついて	融 通の 利き やすさ	勤 務日 や勤 務時 間の 働き やすさ	業 界だ と長 しく 思 うか	総 合 ス コ ア
全体		500	3.76	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.22	3.06
介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験(全体)	Yes	147	4.09	3.90	2.97	3.82	2.67	2.77	2.87	2.94	3.00	3.48	3.25
	No	353	3.62	3.51	2.77	3.38	2.59	2.59	2.66	2.72	2.78	3.11	2.97
介護の仕事をテーマとしたイベントに参加したことがある	Yes	27	4.00	4.04	3.52	3.81	3.33	3.26	3.37	3.37	3.48	3.93	3.61
	No	473	3.74	3.60	2.79	3.49	2.57	2.61	2.68	2.75	2.81	3.18	3.02
介護の仕事をテーマとしてテレビ番組を観たことがある	Yes	66	4.20	3.97	2.76	3.92	2.41	2.50	2.68	2.77	2.79	3.42	3.14
	No	434	3.69	3.58	2.84	3.44	2.65	2.67	2.73	2.79	2.85	3.19	3.04
介護の仕事をテーマとしたラジオ番組を聴いたことがある	Yes	21	3.76	3.90	3.48	3.86	3.14	3.24	3.24	3.38	3.48	3.62	3.51
	No	479	3.76	3.62	2.80	3.49	2.59	2.62	2.70	2.76	2.81	3.20	3.04
介護の仕事をテーマとした新聞記事・広告を見たことがある	Yes	36	4.28	3.97	3.00	4.11	2.50	2.56	2.69	2.53	2.72	3.28	3.16
	No	464	3.72	3.60	2.82	3.46	2.62	2.65	2.72	2.81	2.85	3.22	3.05
介護の仕事をテーマとした雑誌記事を見たことがある	Yes	25	4.12	4.12	3.24	4.16	3.12	3.20	3.32	3.60	3.24	3.76	3.59
	No	475	3.74	3.60	2.81	3.47	2.59	2.61	2.69	2.74	2.82	3.19	3.03
介護の仕事をテーマとしたWEB記事を見たことがある	Yes	38	4.16	4.00	3.16	3.82	2.68	2.95	2.87	3.03	3.11	3.47	3.32
	No	462	3.72	3.60	2.80	3.48	2.61	2.62	2.71	2.77	2.82	3.20	3.03
介護の仕事をテーマとしたWEB動画を見たことがある	Yes	35	4.34	4.29	3.09	4.20	2.97	2.97	3.09	3.03	3.23	3.69	3.49
	No	465	3.71	3.58	2.81	3.46	2.59	2.62	2.69	2.77	2.81	3.18	3.02
その他	Yes	1	5.00	2.00	2.00	4.00	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00	4.00	2.60
	No	499	3.75	3.63	2.83	3.51	2.62	2.65	2.72	2.79	2.84	3.22	3.06
介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れたことはない		353	3.62	3.51	2.77	3.38	2.59	2.59	2.66	2.72	2.78	3.11	2.97

図表 48 介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験 × 介護への関心等

【保護者調査】

		Q8. 介護の仕事への理解度				Q9. 介護の仕事への関心			Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			SCR5. こどもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q3. 子どもに就いて欲しい業種		
		n数	具体的な仕事内容を知っている	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	本人の希望がなかったとしても反対する	本人の希望がなかったとしても反対しない	子どもに就いて欲しい業種に介護の仕事が含まれる	子どもに就いて欲しい業種に介護の仕事が含まれない	
全体		500	93	290	117	64	271	165	42	273	185	184	205	111	17	305	
		-	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7	
介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験	介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験がある	123	36.6	58.5	4.9	35.0	39.8	25.2	25.2	44.7	30.1	54.5	39.8	5.7	8.9	91.1	
	介護の仕事テーマとしたイベントに参加したことがある	Yes	9	88.9	11.1	0.0	77.8	11.1	11.1	44.4	33.3	22.2	77.8	22.2	0.0	33.3	66.7
		No	491	17.3	58.9	23.8	11.6	55.0	33.4	7.7	55.0	37.3	36.0	41.3	22.6	4.7	95.3
	介護の仕事テーマとしてテレビ番組を観たことがある	Yes	74	45.9	50.0	4.1	36.5	35.1	28.4	23.0	41.9	35.1	58.1	35.1	6.8	12.0	88.0
		No	426	13.8	59.4	26.8	8.7	57.5	33.8	5.9	56.8	37.3	33.1	42.0	24.9	4.0	96.0
	介護の仕事テーマとしたラジオ番組を聴いたことがある	Yes	15	53.3	46.7	0.0	73.3	20.0	6.7	60.0	26.7	13.3	73.3	20.0	6.7	21.4	78.6
		No	485	17.5	58.4	24.1	10.9	55.3	33.8	6.8	55.5	37.7	35.7	41.6	22.7	4.5	95.5
	介護の仕事テーマとした新聞記事・広告を見たことがある	Yes	51	37.3	60.8	2.0	39.2	37.3	23.5	25.5	41.2	33.3	60.8	31.4	7.8	15.0	85.0
		No	449	16.5	57.7	25.8	9.8	56.1	34.1	6.5	56.1	37.4	34.1	42.1	23.8	3.9	96.1
	介護の仕事テーマとした雑誌記事を見たことがある	Yes	28	50.0	46.4	3.6	60.7	25.0	14.3	35.7	35.7	28.6	67.9	32.1	0.0	15.4	84.6
		No	472	16.7	58.7	24.6	10.0	55.9	34.1	6.8	55.7	37.5	35.0	41.5	23.5	4.4	95.6
	介護の仕事テーマとしたWEB記事を見たことがある	Yes	44	50.0	47.7	2.3	45.5	43.2	11.4	31.8	45.5	22.7	61.4	34.1	4.5	13.5	86.5
		No	456	15.6	59.0	25.4	9.6	55.3	35.1	6.1	55.5	38.4	34.4	41.7	23.9	4.2	95.8
	介護の仕事テーマとしたWEB動画を見たことがある	Yes	27	55.6	44.4	0.0	51.9	33.3	14.8	37.0	33.3	29.6	77.8	22.2	0.0	20.8	79.2
No		473	16.5	58.8	24.7	10.6	55.4	34.0	6.8	55.8	37.4	34.5	42.1	23.5	4.0	96.0	
その他	Yes	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	No	500	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7	
介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触したことはない		377	12.7	57.8	29.4	5.6	58.9	35.5	2.9	57.8	39.3	31.0	41.4	27.6	3.9	96.1	

図表 49 コンテンツとの接触経験 × 介護の仕事のイメージ【保護者調査】  
 (5：良い印象、4：やや良い印象、3：どちらでもない、2：やや悪い印象、1：悪い印象)

		n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの 大きさ	仕事 内容 の 楽しさ	活 か し や 専 門 知 識 の	体 力 的 負 担 に つ い て	精 神 的 負 担 に つ い て	給 与 に つ い て	融 通 の 利 き や す さ	勤 務 日 や 勤 務 時 間 の	働 き や す さ	業 界 だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体		500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28		2.91	
介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験(全体)	Yes	123	4.08	3.80	3.07	3.67	2.83	2.81	2.59	2.72	2.85	3.51		3.19	
	No	377	3.71	3.33	2.62	3.29	2.40	2.40	2.24	2.48	2.54	3.21		2.82	
介護の仕事をテーマとしたイベントに参加したことがある	Yes	9	4.33	3.89	3.89	3.89	3.33	3.22	3.33	3.33	3.11	4.11		3.64	
	No	491	3.79	3.44	2.71	3.38	2.49	2.49	2.31	2.53	2.60	3.27		2.90	
介護の仕事をテーマとしてテレビ番組を観たことがある	Yes	74	4.11	3.84	3.11	3.66	2.64	2.70	2.50	2.65	2.84	3.51		3.16	
	No	426	3.74	3.38	2.67	3.34	2.48	2.47	2.30	2.52	2.57	3.24		2.87	
介護の仕事をテーマとしたラジオ番組を聴いたことがある	Yes	15	4.27	3.93	4.00	3.67	4.00	3.73	3.80	3.53	3.53	4.00		3.85	
	No	485	3.78	3.44	2.69	3.38	2.46	2.47	2.28	2.51	2.58	3.26		2.89	
介護の仕事をテーマとした新聞記事・広告を見たことがある	Yes	51	4.27	3.90	2.98	3.71	2.86	2.94	2.57	2.63	2.90	3.57		3.23	
	No	449	3.74	3.40	2.70	3.35	2.47	2.45	2.30	2.53	2.58	3.25		2.88	
介護の仕事をテーマとした雑誌記事を見たことがある	Yes	28	4.32	3.93	3.18	3.79	3.11	3.04	2.75	2.79	2.96	3.61		3.35	
	No	472	3.77	3.42	2.71	3.36	2.47	2.47	2.30	2.53	2.59	3.26		2.89	
介護の仕事をテーマとしたWEB記事を見たことがある	Yes	44	4.09	3.89	3.27	3.82	2.91	2.75	2.86	2.91	2.82	3.59		3.29	
	No	456	3.77	3.41	2.68	3.34	2.47	2.48	2.28	2.51	2.59	3.25		2.88	
介護の仕事をテーマとしたWEB動画を見たことがある	Yes	27	4.15	3.96	3.30	3.85	3.07	2.89	2.81	2.78	2.93	3.74		3.35	
	No	473	3.78	3.42	2.70	3.36	2.47	2.48	2.30	2.53	2.59	3.26		2.89	
その他	Yes	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	
	No	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28		2.91	
介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れたことはない		377	3.71	3.33	2.62	3.29	2.40	2.40	2.24	2.48	2.54	3.21		2.82	



図表 50 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの  
× 介護への関心等【学生調査】

	n数	Q8. 介護の仕事への理解度			Q12. 介護の仕事への関心			Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			Q17. 友人が「介護の仕事に就きたいと言った場合の反応」			Q4. 介護の仕事への就職意向			
		具体的な仕事内容を知っている	知らない	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	応援したいと思う	本人の希望であれば、積極的に就きたいと思う	「できれば他の仕事も検討したい」と返す	本人の希望があったとしても反対する	考えている・興味がある	介護の仕事に興味がない
全体	500	85	264	151	95	229	176	95	225	180	271	140	89	23	242		
	-	17.0	52.8	30.2	19.0	45.8	35.2	19.0	45.0	36.0	54.2	28.0	17.8	8.7	91.3		
Q15. 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	Yes	64	31.3	64.1	4.7	50.0	26.6	23.4	39.1	39.1	21.9	73.4	18.8	7.8	14.9	85.1
	No	436	14.9	51.1	33.9	14.4	48.6	36.9	16.1	45.9	38.1	51.4	29.4	19.3	7.3	92.7	
実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	Yes	95	32.6	61.1	6.3	31.6	49.5	18.9	44.2	29.5	26.3	66.3	27.4	6.3	13.1	86.9	
	No	405	13.3	50.9	35.8	16.0	44.9	39.0	13.1	48.6	38.3	51.4	28.1	20.5	7.4	92.6	
親族から聞いた話	Yes	81	30.9	59.3	9.9	33.3	40.7	25.9	35.8	34.6	29.6	76.5	19.8	3.7	13.1	86.9	
	No	419	14.3	51.6	34.1	16.2	46.8	37.0	15.8	47.0	37.2	49.9	29.6	20.5	7.4	92.6	
知人・友人から聞いた話	Yes	45	24.4	66.7	8.9	37.8	35.6	26.7	28.9	42.2	28.9	60.0	28.9	11.1	7.1	92.9	
	No	455	16.3	51.4	32.3	17.1	46.8	36.0	18.0	45.3	36.7	53.6	27.9	18.5	8.9	91.1	
学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	Yes	54	35.2	57.4	7.4	51.9	25.9	22.2	37.0	33.3	29.6	70.4	22.2	7.4	12.5	87.5	
	No	446	14.8	52.2	33.0	15.0	48.2	36.8	16.8	46.4	36.8	52.2	28.7	19.1	8.0	92.0	
介護に関するイベント	Yes	44	34.1	54.5	11.4	38.6	40.9	20.5	43.2	29.5	27.3	59.1	38.6	2.3	12.1	87.9	
	No	456	15.4	52.6	32.0	17.1	46.3	36.6	16.7	46.5	36.8	53.7	27.0	19.3	8.2	91.8	
介護に関するテレビ番組	Yes	76	17.1	76.3	6.6	32.9	38.2	28.9	28.9	42.1	28.9	61.8	32.9	5.3	10.0	90.0	
	No	424	17.0	48.6	34.4	16.5	47.2	36.3	17.2	45.5	37.3	52.8	27.1	20.0	8.3	91.7	
介護に関するラジオ番組	Yes	14	50.0	28.6	21.4	50.0	21.4	28.6	42.9	35.7	21.4	50.0	35.7	14.3	0.0	100.0	
	No	486	16.0	53.5	30.5	18.1	46.5	35.4	18.3	45.3	36.4	54.3	27.8	17.9	8.9	91.1	
介護に関する新聞記事・広告	Yes	25	24.0	60.0	16.0	28.0	36.0	32.0	40.0	28.0	44.0	40.0	16.0	0.0	100.0		
	No	475	16.6	52.4	30.9	18.5	46.3	35.2	18.3	45.3	36.4	54.7	27.4	17.9	9.5	90.5	
介護に関する雑誌記事	Yes	12	33.3	58.3	8.3	41.7	50.0	8.3	25.0	25.0	50.0	66.7	16.7	16.7	10.0	90.0	
	No	488	16.6	52.7	30.7	18.4	45.7	35.9	18.9	45.5	35.7	53.9	28.3	17.8	8.6	91.4	
介護に関する書籍・漫画	Yes	17	35.3	52.9	11.8	47.1	17.6	35.3	35.3	41.2	23.5	70.6	29.4	0.0	20.0	80.0	
	No	483	16.4	52.8	30.8	18.0	46.8	35.2	18.4	45.1	36.4	53.6	28.0	18.4	8.0	92.0	
介護に関するWEBコンテンツ(記事)	Yes	20	35.0	60.0	5.0	45.0	40.0	15.0	30.0	40.0	30.0	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0	
	No	480	16.3	52.5	31.3	17.9	46.0	36.0	18.5	45.2	36.3	53.3	28.1	18.5	9.2	90.8	
介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	Yes	27	33.3	51.9	14.8	44.4	44.4	11.1	29.6	40.7	29.6	63.0	37.0	0.0	10.0	90.0	
	No	473	16.1	52.9	31.1	17.5	45.9	36.6	18.4	45.2	36.4	53.7	27.5	18.8	8.6	91.4	
介護に関する映画	Yes	10	50.0	40.0	10.0	70.0	20.0	10.0	20.0	70.0	10.0	50.0	20.0	30.0	0.0	100.0	
	No	490	16.3	53.1	30.6	18.0	46.3	35.7	19.0	44.5	36.5	54.3	28.2	17.6	8.9	91.1	
その他	Yes	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	No	499	17.0	52.7	30.3	19.0	45.7	35.3	19.0	44.9	36.1	54.1	28.1	17.8	8.7	91.3	
わからない	57	7.0	56.1	36.8	8.8	42.1	49.1	8.8	26.3	64.9	59.6	28.1	12.3	0.0	100.0		
介護の仕事に対して良いイメージは持っていない	168	7.7	34.5	57.7	3.0	53.6	43.5	3.6	58.3	38.1	36.9	29.2	33.9	5.3	94.7		



図表 51 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの  
× 介護への関心等【保護者調査】

		n数	Q8. 介護の仕事への理解度				Q9. 介護の仕事への関心			Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			SCR5. こどもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q3. 子どもに就いて欲しい業種	
			具体的な仕事内容を知っている	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	本人の希望であれば、積極的に支援したいと思う	本人の希望がなかったとしても反対する	「できれば他の仕事も検討したい」と伝える	本人の希望がなかったとしても反対する	介護の仕事が含まれる業種に	子どもに就いて欲しい業種に
全体		500	93	290	117	64	271	165	42	273	185	184	205	111	17	305	
		-	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7	
Q12. 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	Yes	89	36.0	59.6	4.5	30.3	39.3	30.3	22.5	44.9	32.6	48.3	42.7	9.0	2.8	97.2
	No	411	14.8	57.7	27.5	9.0	57.4	33.6	5.4	56.7	38.0	34.3	40.6	25.1	2.2	97.8	
実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話を教えてください。	Yes	105	36.2	58.1	5.7	32.4	39.0	28.6	23.8	43.8	32.4	56.2	34.3	9.5	22.2	77.8	
	No	395	13.9	58.0	28.1	7.6	58.2	34.2	4.3	57.5	38.2	31.6	42.8	25.6	2.2	97.8	
親族から聞いた話	Yes	53	26.4	64.2	9.4	34.0	32.1	34.0	22.6	45.3	32.1	47.2	37.7	15.1	5.0	95.0	
	No	447	17.7	57.3	25.1	10.3	56.8	32.9	6.7	55.7	37.6	35.6	41.4	23.0	15.4	84.6	
知人・友人から聞いた話	Yes	51	27.5	68.6	3.9	19.6	52.9	27.5	11.8	52.9	35.3	41.2	43.1	15.7	2.7	97.3	
	No	449	17.6	56.8	25.6	12.0	54.3	33.6	8.0	54.8	37.2	36.3	40.8	22.9	12.2	87.8	
学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	Yes	13	69.2	30.8	0.0	76.9	15.4	7.7	69.2	15.4	15.4	69.2	23.1	7.7	2.9	97.1	
	No	487	17.2	58.7	24.0	11.1	55.2	33.7	6.8	55.6	37.6	35.9	41.5	22.6	11.6	88.4	
介護に関するイベント	Yes	23	30.4	65.2	4.3	52.2	39.1	8.7	34.8	39.1	26.1	43.5	39.1	17.4	4.3	95.7	
	No	477	18.0	57.7	24.3	10.9	54.9	34.2	7.1	55.3	37.5	36.5	41.1	22.4	6.1	93.9	
介護に関するテレビ番組	Yes	110	14.5	73.6	11.8	14.5	56.4	29.1	12.7	61.8	25.5	40.0	50.9	9.1	5.2	94.8	
	No	390	19.7	53.6	26.7	12.3	53.6	34.1	7.2	52.6	40.3	35.9	38.2	25.9	25.0	75.0	
介護に関するラジオ番組	Yes	10	50.0	50.0	0.0	60.0	30.0	10.0	50.0	30.0	20.0	50.0	20.0	30.0	4.5	95.5	
	No	490	18.0	58.2	23.9	11.8	54.7	33.5	7.6	55.1	37.3	36.5	41.4	22.0	25.0	75.0	
介護に関する新聞記事・広告	Yes	42	31.0	59.5	9.5	33.3	42.9	23.8	31.0	42.9	26.2	45.2	45.2	9.5	4.0	96.0	
	No	458	17.5	57.9	24.7	10.9	55.2	33.8	6.3	55.7	38.0	36.0	40.6	23.4	7.4	92.6	
介護に関する雑誌記事	Yes	21	23.8	66.7	9.5	42.9	33.3	23.8	38.1	47.6	14.3	52.4	28.6	19.0	4.6	95.4	
	No	479	18.4	57.6	24.0	11.5	55.1	33.4	7.1	54.9	38.0	36.1	41.5	22.3	37.5	62.5	
介護に関する書籍・漫画	Yes	17	47.1	35.3	17.6	52.9	35.3	11.8	41.2	29.4	29.4	41.2	29.4	29.4	4.5	95.5	
	No	483	17.6	58.8	23.6	11.4	54.9	33.7	7.2	55.5	37.3	36.6	41.4	21.9	11.1	88.9	
介護に関するWEBコンテンツ(記事)	Yes	40	25.0	65.0	10.0	30.0	42.5	27.5	27.5	42.5	30.0	50.0	35.0	15.0	4.5	95.5	
	No	460	18.0	57.4	24.6	11.3	55.2	33.5	6.7	55.7	37.6	35.7	41.5	22.8	26.3	73.7	
介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	Yes	22	40.9	50.0	9.1	50.0	18.2	31.8	45.5	22.7	31.8	50.0	31.8	18.2	4.0	96.0	
	No	478	17.6	58.4	24.1	11.1	55.9	33.1	6.7	56.1	37.2	36.2	41.4	22.4	13.3	86.7	
介護に関する映画	Yes	7	42.9	42.9	14.3	57.1	14.3	28.6	57.1	0.0	42.9	42.9	14.3	42.9	4.9	95.1	
	No	493	18.3	58.2	23.5	12.2	54.8	33.1	7.7	55.4	36.9	36.7	41.4	21.9	19.4	80.6	
その他	Yes	3	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	3.8	96.2	
	No	497	18.1	58.4	23.5	12.9	53.9	33.2	8.5	54.3	37.2	37.0	40.6	22.3	27.8	72.2	
わからない		52	19.2	61.5	19.2	7.7	46.2	46.2	0.0	40.4	59.6	38.5	40.4	21.2	3.9	96.1	
介護の仕事に対して良いイメージを持っていない		153	10.5	42.5	47.1	2.0	63.4	34.6	0.7	62.1	37.3	25.5	33.3	41.2	66.7	33.3	

ウ. 「介護に関する授業、ボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどの経験」の有無

介護に関する授業、ボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどの経験があり、さらにそういった経験をした際に介護の仕事に対してポジティブな印象（やりがいがある、社会的意義がある、楽しそう、自分に向いていそう）を持った人は、そうでない人に比べて介護の仕事に「関心がある（もっと知りたい）と思う」や「介護の仕事就職先として魅力的だと思う」と回答した人の割合が高く、介護に対するイメージも良い。

図表 52 介護についての授業などの経験 × 介護への関心等【学生調査】

	n数	Q8. 介護の仕事への理解度			Q12. 介護の仕事への関心			Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			Q17. 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q4. 介護の仕事への就職意向			
		具体的な仕事内容を知っている	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	ほうが良ければ他の仕事も検討する	「できれば他の仕事も検討したい」と伝えている	本人の希望があったとしても反対する	介護の仕事就職先として考えている・興味がある	介護の仕事就職先として考えていない・興味がない	
全体	500	85	264	151	95	229	176	95	225	180	271	140	89	23	242		
	-	17.0	52.8	30.2	19.0	45.8	35.2	19.0	45.0	36.0	54.2	28.0	17.8	8.7	91.3		
Q9. 学校で介護についての授業を受けたことがある	Yes	93	40.9	53.8	5.4	41.9	29.0	29.0	36.6	37.6	25.8	68.8	29.0	2.2	16.7	83.3	
	No	407	11.5	52.6	35.9	13.8	49.6	36.6	15.0	46.7	38.3	50.9	27.8	21.4	6.0	94.0	
	介護の現場でボランティアをしたことがある	Yes	72	36.1	54.2	9.7	40.3	37.5	22.2	41.7	23.6	34.7	58.3	30.6	11.1	21.6	78.4
		No	428	13.8	52.6	33.6	15.4	47.2	37.4	15.2	48.6	36.2	53.5	27.6	18.9	5.6	94.4
	介護の現場で実習や職場体験・インターンシップをしたことがある	Yes	67	35.8	58.2	6.0	31.3	37.3	31.3	32.8	34.3	32.8	68.7	19.4	11.9	13.7	86.3
		No	433	14.1	52.0	33.9	17.1	47.1	35.8	16.9	46.7	36.5	52.0	29.3	18.7	7.5	92.5
上記のいずれも経験がない	212	10.8	60.8	28.3	12.3	63.2	24.5	12.3	61.8	25.9	59.4	27.4	13.2	2.6	97.4		
覚えていない	106	5.7	21.7	72.6	7.5	25.5	67.0	6.6	28.3	65.1	30.2	29.2	40.6	8.7	91.3		
Q10. そういった体験をした時、「介護」や「介護の仕事」についてどのような印象を受けましたか。 (Q9で何らかの経験があると回答した人のみ)	やりがいがある	Yes	52	53.8	46.2	0.0	59.6	19.2	21.2	61.5	15.4	23.1	80.8	19.2	0.0	28.6	71.4
		No	130	21.5	67.7	10.8	23.1	44.6	32.3	23.1	43.1	33.8	54.6	31.5	13.8	7.1	92.9
	社会的意義がある	Yes	58	34.5	63.8	1.7	41.4	34.5	24.1	41.4	32.8	25.9	77.6	19.0	3.4	12.5	87.5
		No	124	29.0	60.5	10.5	29.8	38.7	31.5	30.6	36.3	33.1	54.8	32.3	12.9	14.9	85.1
	楽しそう	Yes	30	43.3	56.7	0.0	53.3	33.3	13.3	66.7	23.3	10.0	53.3	43.3	3.3	11.8	88.2
		No	152	28.3	62.5	9.2	29.6	38.2	32.2	27.6	37.5	34.9	63.8	25.0	11.2	14.5	85.5
	自分に向いていそう	Yes	17	41.2	58.8	0.0	58.8	29.4	11.8	64.7	23.5	11.8	52.9	41.2	5.9	7.7	92.3
		No	165	29.7	61.8	8.5	30.9	38.2	30.9	30.9	36.4	32.7	63.0	26.7	10.3	14.9	85.1
	精神的に大変そう	Yes	94	34.0	60.6	5.3	34.0	38.3	27.7	27.7	38.3	34.0	63.8	29.8	6.4	15.5	84.5
		No	88	27.3	62.5	10.2	33.0	36.4	30.7	40.9	31.8	27.3	60.2	26.1	13.6	12.5	87.5
	体力的に大変そう	Yes	94	33.0	55.3	11.7	33.0	36.2	30.9	28.7	40.4	30.9	62.8	26.6	10.6	16.9	83.1
		No	88	28.4	68.2	3.4	34.1	38.6	27.3	39.8	29.5	30.7	61.4	29.5	9.1	10.7	89.3
その他	Yes	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0		
	No	181	30.9	61.3	7.7	33.7	37.0	29.3	34.3	34.8	30.9	61.9	28.2	9.9	14.3	85.7	

図表 53 介護についての授業などの経験 × 介護の仕事のイメージ【学生調査】  
 (5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

		n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容の 楽しさ	活資 格し やす さ	体 力的 負 担に つ いて	精 神 的 負 担に つ いて	給 与に つ いて	融 通 の 利 き や 時 間 の やす さ	働 き や す さ	業 界 だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体		500	3.76	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.22	3.06	
学校で介護についての授業を受けたことがある	Yes	93	4.14	4.04	3.11	3.97	2.63	2.70	2.84	2.94	3.05	3.53	3.29	
	No	407	3.67	3.53	2.77	3.40	2.61	2.63	2.70	2.75	2.79	3.15	3.00	
介護の現場でボランティアをしたことがある	Yes	72	4.03	3.99	3.08	3.86	2.94	3.00	3.00	3.10	3.25	3.67	3.39	
	No	428	3.71	3.57	2.79	3.45	2.56	2.58	2.68	2.73	2.77	3.14	3.00	
介護の現場で実習や職場体験・インターンシップをしたことがある	Yes	67	3.99	3.97	3.19	3.91	2.87	2.84	2.88	3.10	3.13	3.49	3.34	
	No	433	3.72	3.58	2.77	3.45	2.58	2.61	2.70	2.74	2.80	3.18	3.01	
上記のいずれも経験がない		212	3.86	3.62	2.63	3.50	2.47	2.52	2.59	2.62	2.68	3.13	2.96	
覚えていない		106	3.09	3.11	2.79	2.99	2.65	2.68	2.75	2.77	2.76	2.91	2.85	

図表 54 上記の経験の際に介護の仕事に対して受けた印象 × 介護の仕事のイメージ【学生調査】

(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

		n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容の 楽しさ	活資 格し やす さ	体 力的 負 担に つ いて	精 神 的 負 担に つ いて	給 与に つ いて	融 通 の 利 き や 時 間 の やす さ	働 き や す さ	業 界 だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体		500	3.76	3.63	2.83	3.51	2.61	2.64	2.72	2.79	2.84	3.22	3.06	
やりがいがある	Yes	52	4.23	4.23	3.06	3.96	2.71	2.71	2.94	2.94	3.12	3.73	3.36	
	No	130	3.93	3.82	3.09	3.75	2.78	2.78	2.82	3.01	3.05	3.42	3.25	
社会的意義がある	Yes	58	4.16	4.24	3.21	4.03	3.03	3.02	2.97	3.33	3.38	3.81	3.52	
	No	124	3.95	3.80	3.02	3.71	2.63	2.65	2.81	2.83	2.93	3.36	3.17	
楽しそう	Yes	30	4.10	4.20	3.83	4.17	3.77	3.60	3.80	3.90	3.87	3.93	3.92	
	No	152	4.00	3.89	2.93	3.74	2.56	2.60	2.67	2.81	2.91	3.42	3.15	
自分に向いていそう	Yes	17	4.24	4.18	4.18	4.24	4.18	4.06	3.88	4.12	3.94	3.88	4.09	
	No	165	3.99	3.92	2.97	3.77	2.61	2.63	2.75	2.87	2.98	3.47	3.20	
精神的に大変そう	Yes	94	4.14	3.95	2.79	3.90	2.40	2.44	2.63	2.69	2.74	3.35	3.10	
	No	88	3.89	3.93	3.40	3.72	3.14	3.11	3.10	3.31	3.42	3.67	3.47	
体力的に大変そう	Yes	94	4.10	3.88	2.73	3.76	2.22	2.31	2.40	2.48	2.72	3.29	2.99	
	No	88	3.93	4.00	3.45	3.88	3.33	3.25	3.34	3.53	3.44	3.74	3.59	
その他	Yes	1	3.00	2.00	1.00	4.00	2.00	2.00	1.00	5.00	2.00	5.00	2.70	
	No	181	4.02	3.95	3.09	3.81	2.76	2.77	2.87	2.98	3.08	3.50	3.28	

## エ. 「介護施設への訪問経験」の有無

介護施設への訪問経験があり、さらにその際にポジティブな印象（施設の雰囲気が明るい、施設が綺麗、施設職員が親切 等）を持った人は、そうでない人に比べて介護の仕事に「関心がある（もっと知りたい）と思う」や「介護の仕事就職先として魅力的だと思う」と回答した人の割合が高く、介護に対するイメージも良い。

図表 55 介護施設への訪問経験 × 介護への関心等【保護者調査】

	n数	Q8. 介護の仕事への理解度				Q9. 介護の仕事への関心				Q13. 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか			SCR5. こどもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の反応			Q3. 子どもに就いて欲しい業種	
		具体的な仕事内容を知っている	いは、具体的な仕事内容に	何となくイメージはある	まったく知らない	関心がある（もっと知りたいと思う）	関心はない（特に知りたいとは思わない）	どちらともいえない	どちらともいえない	思う	思わない	どちらともいえない	本人の希望であれば、積極的に探したいと思う	本人の希望がなければ、積極的に探したいとは思わない	本人の希望があつたとしても反対する	子どもに就いて欲しい業種に介護の仕事が含まれる	子どもに就いて欲しい業種に介護の仕事が含まれない
全体	500	93	290	117	64	271	165	42	273	185	184	205	111	17	305		
	-	18.6	58.0	23.4	12.8	54.2	33.0	8.4	54.6	37.0	36.8	41.0	22.2	5.3	94.7		
Q6. 介護施設などへの訪問経験	ある	82	47.6	51.2	1.2	45.1	30.5	24.4	36.6	32.9	30.5	63.4	26.8	9.8	90.5		
	ない	418	12.9	59.3	27.8	6.5	58.9	34.7	2.9	58.9	38.3	31.6	43.8	24.6	95.8		
Q7. 介護関係の施設・事業所を訪問した際に感じたことを教えてください。	施設の雰囲気が明るいと感じた	Yes	24	58.3	41.7	0.0	62.5	20.8	16.7	62.5	12.5	25.0	75.0	20.8	4.2	25.0	75.0
	No	58	43.1	55.2	1.7	37.9	34.5	27.6	25.9	41.4	32.8	58.6	29.3	12.1	2.3	97.7	
	施設が綺麗だと感じた	Yes	28	42.9	57.1	0.0	60.7	14.3	25.0	60.7	17.9	21.4	78.6	17.9	3.6	16.7	83.3
	No	54	50.0	48.1	1.9	37.0	38.9	24.1	24.1	40.7	35.2	55.6	31.5	13.0	5.1	94.9	
	施設の職員が親切だった、優しかった	Yes	36	52.8	47.2	0.0	47.2	30.6	22.2	50.0	25.0	25.0	77.8	16.7	5.6	17.2	82.8
	No	46	43.5	54.3	2.2	43.5	30.4	26.1	26.1	39.1	34.8	52.2	34.8	13.0	2.9	97.1	
	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	Yes	15	53.3	46.7	0.0	80.0	13.3	6.7	66.7	13.3	20.0	60.0	33.3	6.7	21.4	78.6
	No	67	46.3	52.2	1.5	37.3	34.3	28.4	29.9	37.3	32.8	64.2	25.4	10.4	6.1	93.9	
	施設の雰囲気が暗いと感じた	Yes	16	68.8	31.3	0.0	68.8	6.3	25.0	37.5	31.3	31.3	50.0	43.8	6.3	0.0	100.0
	No	66	42.4	56.1	1.5	39.4	36.4	24.2	36.4	33.3	30.3	66.7	22.7	10.6	12.2	87.8	
	施設が汚いと感じた	Yes	9	44.4	55.6	0.0	44.4	22.2	33.3	11.1	44.4	44.4	55.6	33.3	11.1	14.3	85.7
	No	73	47.9	50.7	1.4	45.2	31.5	23.3	39.7	31.5	28.8	64.4	26.0	9.6	8.9	91.1	
	介護の仕事は大変そうだと感じた	Yes	37	54.1	43.2	2.7	35.1	35.1	29.7	16.2	48.6	35.1	59.5	24.3	16.2	9.5	90.5
	No	45	42.2	57.8	0.0	53.3	26.7	20.0	53.3	20.0	26.7	66.7	28.9	4.4	9.5	90.5	
	その他	Yes	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	No	82	47.6	51.2	1.2	45.1	30.5	24.4	36.6	32.9	30.5	63.4	26.8	9.8	9.5	90.5	

図表 56 介護施設への訪問経験 × 介護の仕事のイメージ

【保護者調査】

(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容 の楽 しさ	活 かし やす さ 専門 知識 の	体 力的 負 担に つ いて	精 神 的 負 担に つ いて	給 与 に つ いて	融 通 の 利 き やす さ	勤 務 日 や 勤 務 時 間 の	働 き やす さ	業 界 だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	2.91		
介護施設への訪問経験がある	82	4.16	3.94	3.33	3.83	3.02	3.10	2.87	3.07	3.10	3.65	3.41		
介護施設への訪問経験はない	418	3.73	3.35	2.61	3.30	2.40	2.39	2.22	2.44	2.52	3.21	2.82		

図表 57 介護施設に訪問した際に受けた印象 × 介護の仕事のイメージ

【保護者調査】

(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やり がいの 大きさ	仕事 内容 の楽 しさ	活 かし やす さ 専門 知識 の	体 力的 負 担に つ いて	精 神 的 負 担に つ いて	給 与 に つ いて	融 通 の 利 き やす さ	勤 務 日 や 勤 務 時 間 の	働 き やす さ	業 界 だ と 思 う か	今 後 成 長 し て い く	総 合 ス コ ア
全体	500	3.80	3.45	2.73	3.39	2.51	2.50	2.33	2.54	2.61	3.28	2.91		
施設の雰囲気が明るいと 感じた	Yes	24	4.54	4.38	3.96	4.25	3.63	3.63	3.63	3.63	3.75	4.17	3.95	
	No	58	4.00	3.76	3.07	3.66	2.78	2.88	2.55	2.84	2.83	3.43	3.18	
施設が綺麗だと感じた	Yes	28	4.54	4.46	3.96	4.25	3.39	3.50	3.54	3.64	3.61	4.04	3.89	
	No	54	3.96	3.67	3.00	3.61	2.83	2.89	2.52	2.78	2.83	3.44	3.15	
施設の職員が親切だった、 優しかった	Yes	36	4.39	4.08	3.64	3.86	3.42	3.53	3.33	3.39	3.36	4.03	3.70	
	No	46	3.98	3.83	3.09	3.80	2.72	2.76	2.50	2.83	2.89	3.35	3.17	
介護職員の仕事は魅力的だ と感じた	Yes	15	4.20	4.13	4.00	4.20	3.73	3.80	3.80	3.60	3.67	4.00	3.91	
	No	67	4.15	3.90	3.18	3.75	2.87	2.94	2.66	2.96	2.97	3.57	3.29	
施設の雰囲気が暗いと感じ た	Yes	16	4.00	4.00	3.13	3.50	2.94	2.88	2.81	3.00	3.00	3.38	3.26	
	No	66	4.20	3.92	3.38	3.91	3.05	3.15	2.88	3.09	3.12	3.71	3.44	
施設が汚いと感じた	Yes	9	4.33	3.44	2.44	3.67	2.67	2.67	1.78	2.44	2.67	3.44	2.96	
	No	73	4.14	4.00	3.44	3.85	3.07	3.15	3.00	3.15	3.15	3.67	3.46	
介護の仕事は大変そうだと 感じた	Yes	37	3.95	3.70	2.86	3.59	2.70	2.70	2.27	2.49	2.51	3.27	3.01	
	No	45	4.33	4.13	3.71	4.02	3.29	3.42	3.36	3.56	3.58	3.96	3.74	
その他	Yes	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	No	82	4.16	3.94	3.33	3.83	3.02	3.10	2.87	3.07	3.10	3.65	3.41	

## ⑫介護職自身が介護の仕事に対して抱いているイメージ

介護職自身が介護の仕事に対して抱いているイメージは、年収や雇用形態、勤務先種別、職階、転職回数などによって以下のように異なっている。

- 年収が高い人ほど、体力的負担や精神的負担、給与に関して良いイメージを持っている。
- 正規職員および派遣職員は、契約職員やパートタイム職員に比べて、体力的負担や精神的負担、給与に関して良いイメージを持っている。
- 居宅介護支援事業所に勤務している人は、他の事業所に勤務している人に比べて、介護の仕事に対して良いイメージを持っている。
- 職階が高いほど、介護の仕事に対して良いイメージを持っている。
- 転職回数が1～2回の方は、転職回数が0回あるいは3回以上の方に比べて、体力的負担や精神的負担、給与に関して良いイメージを持っている。

図表 58 年収 × 介護の仕事のイメージ (入職後) 【介護職調査】  
(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと 思うか	総合ス コア
全体	1,000	3.7	3.6	3.4	3.5	3.0	3.0	3.0	3.4	3.4	3.4	3.3
100万円未満	64	3.6	3.5	3.3	3.5	2.9	2.8	3.0	3.4	3.3	3.2	3.3
100～200万円未満	135	3.8	3.7	3.3	3.7	2.8	2.8	2.8	3.3	3.3	3.3	3.3
200～300万円未満	157	3.5	3.4	3.1	3.4	2.8	2.7	2.6	3.2	3.2	3.3	3.1
300～400万円未満	208	3.6	3.6	3.3	3.5	3.0	2.9	2.8	3.2	3.2	3.3	3.2
400～500万円未満	116	3.7	3.7	3.5	3.5	3.2	3.2	3.1	3.5	3.5	3.5	3.4
500～600万円未満	84	4.0	3.8	3.7	3.8	3.5	3.4	3.4	3.6	3.6	3.6	3.6
600～700万円未満	41	3.9	3.9	3.7	3.8	3.3	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6
700～800万円未満	27	4.2	4.3	4.0	4.0	3.6	3.6	3.9	3.9	3.7	3.6	3.9
800万円以上	42	4.0	3.8	3.6	3.7	3.5	3.6	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7
回答しない	126	3.4	3.4	3.1	3.4	2.8	2.7	2.8	3.3	3.3	3.2	3.1

図表 59 雇用形態 × 介護の仕事のイメージ (入職後) 【介護職調査】  
(5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと 思うか	総合ス コア
全体	1,000	3.7	3.6	3.4	3.5	3.0	3.0	3.0	3.4	3.4	3.4	3.3
正規職員	703	3.7	3.6	3.4	3.5	3.1	3.0	3.0	3.3	3.4	3.4	3.3
契約職員(有期労働)	46	3.8	3.7	3.2	3.5	2.8	2.8	2.8	3.1	3.2	3.4	3.2
パートタイム職員(短時間労働)	216	3.7	3.7	3.3	3.6	2.8	2.8	2.9	3.5	3.4	3.3	3.3
派遣職員(派遣会社が雇用)	35	3.8	3.8	3.5	3.6	3.2	3.0	3.2	3.4	3.4	3.6	3.4

図表 60 勤務先の種別 × 介護の仕事のイメージ（入職後）【介護職調査】  
 (5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと 思うか
全体	1,000	3.7	3.6	3.4	3.5	3.0	3.0	3.0	3.4	3.4	3.4
施設系(特別養護老人ホームなど)	344	3.8	3.7	3.4	3.6	3.1	3.1	3.1	3.4	3.4	3.4
居住系(有料老人ホームなど)	142	3.6	3.6	3.2	3.5	2.8	2.8	2.7	3.3	3.3	3.3
通所系	147	3.5	3.6	3.3	3.5	2.9	2.9	2.8	3.3	3.3	3.4
訪問系	104	3.8	3.8	3.4	3.7	3.0	3.0	3.0	3.3	3.4	3.5
居宅介護支援事業所	45	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.1	3.2	3.4	3.5	3.5
医療関係	100	3.5	3.3	3.2	3.4	2.9	2.9	2.9	3.2	3.2	3.3
障害者・障害児福祉関係	89	3.7	3.6	3.5	3.5	3.0	2.9	3.1	3.4	3.4	3.3
その他	29	3.6	3.4	3.0	3.4	3.0	2.9	2.8	3.1	3.0	3.2

図表 61 職階・業務内容 × 介護の仕事のイメージ（入職後）【介護職調査】  
 (5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと 思うか	総合ス コア
全体	1,000	3.7	3.6	3.4	3.5	3.0	3.0	3.0	3.4	3.4	3.4	3.3
経営層	41	4.4	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0
管理職	105	4.1	4.0	3.8	3.7	3.5	3.4	3.4	3.5	3.6	3.6	3.7
主任・(サブ)リーダーなどの職場のまとめ役	139	3.7	3.7	3.6	3.7	3.1	3.1	3.1	3.5	3.5	3.5	3.4
一般職	666	3.5	3.5	3.2	3.5	2.9	2.8	2.8	3.2	3.2	3.3	3.2
その他	49	4.0	4.0	3.5	3.8	3.0	3.2	3.2	3.6	3.5	3.6	3.5
マネジメント(経営関連)	133	4.2	4.0	3.8	3.9	3.7	3.6	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8
現場でのチームマネジメント	175	3.9	3.9	3.7	3.7	3.4	3.4	3.3	3.5	3.5	3.6	3.6
他職員への指導	217	3.9	3.9	3.6	3.8	3.2	3.2	3.2	3.5	3.5	3.6	3.5
利用者のケアのマネジメント(ケアプラン・介護計画の作成等)	198	3.9	3.8	3.6	3.8	3.3	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5
利用者の介護	654	3.6	3.6	3.3	3.5	2.9	2.9	2.9	3.3	3.3	3.3	3.2
介護の周辺業務(介護助手など)	270	3.7	3.7	3.4	3.6	2.9	2.9	3.0	3.4	3.4	3.4	3.4
その他	76	3.7	3.6	3.4	3.6	2.9	2.9	2.7	3.4	3.4	3.2	3.3

図表 62 転職回数 × 介護の仕事のイメージ（入職後）【介護職調査】  
 (5 : 良い印象、4 : やや良い印象、3 : どちらでもない、2 : やや悪い印象、1 : 悪い印象)

	n数 (全体)	社会的 意義の 大きさ	やりが いの大 きさ	仕事内 容の楽 しさ	資格や 専門知 識の活 かしや すさ	体力的 負担に ついて	精神的 負担に ついて	給与に ついて	勤務日 や勤務 時間の 融通の 利きや すさ	働きや すさ	今後成 長して いく業 界だと 思うか	総合ス コア
全体	1,000	3.7	3.6	3.4	3.5	3.0	3.0	3.0	3.4	3.4	3.4	3.3
0回	280	3.7	3.6	3.3	3.5	2.9	2.9	2.8	3.4	3.3	3.4	3.3
1回	243	3.7	3.7	3.4	3.6	3.1	3.1	3.1	3.4	3.4	3.4	3.4
2回	172	3.8	3.8	3.6	3.7	3.2	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5
3回以上	305	3.6	3.5	3.2	3.5	2.9	2.9	2.9	3.2	3.2	3.3	3.2



## 2. 介護に関するテレビ番組調査

### (1) 調査概要

#### ①背景・目的

介護について触れているコンテンツ（テレビ番組、WEB記事等）の内容は様々であり、介護のイメージを向上させるものもあれば、反対に介護のイメージを低下させるものもある。魅力発信等事業において介護の仕事のイメージ向上を実現するためには、既に世間に広く浸透している情報・イメージを重ねて発信するよりも、まだ世間に知られていない介護の魅力や、世間が介護の仕事に対して抱いている誤解を解く情報を発信することが有用である。

そのため、魅力発信等事業で発信すべき内容を検討する際の情報整理を目的として、本事業外で世間一般に対して発信されている介護に関する情報にはどのようなものがあるのかを調査した。

#### ②調査の手法

本事業で実施したWEBアンケート調査において、「介護の仕事テーマとしたコンテンツと接触した経験」を調査したところ、触れたことがあるコンテンツとしてもっとも多く挙げられたものは「テレビ番組」であった。そのため、令和5年に放送されたテレビ番組のうち、放送内容に「介護」というキーワードが登場していた番組を調査対象として分析を実施した。

具体的には、株式会社ワイヤーアクションが提供しているテレビ番組情報検索サイト「TV出た蔵<sup>12</sup>」にて、「介護 2023」と検索し表示された上位100件のうち、①放映日が2023年でないもの、②重複分（同一日時・同一番組・同一内容のもの）を除いた97件を抽出し、放送日時・チャンネル・番組名・トピック・番組内容（概要）を整理した。

そのうち、「トピック」および「概要」について、①介護の中でもどのようなテーマが取り扱われていることが多いのか、②どのような文脈で介護が取り上げられていることが多いのかに着目の上、精読した。

図表 63 テレビ番組情報の抽出項目

項目	具体例
放送日時	2023年8月9日 13:00-13:30
チャンネル	テレビ朝日
番組名	徹子の部屋
トピック	マルシア 母が「脳梗塞」に…ブラジルで介護
番組内容 (概要)	マルシアさんの母が去年8月に脳梗塞で倒れてしまい、右半身が麻痺になり入院した。対応が早かったこともあり1週間の入院で済み、ブラジルで母の介護を2か月した。母は糖尿病も持っていて血圧も高く、検査もマルシアさんが行った。介護中の1番のストレスは、レストランで働く母に早朝から呼ばれることだった。頑張りすぎて倒れたこともあったという。現在、母はリハビリを週4回やっていて、立つのは難しい状態。母は植物が好きで、レストランの時間以外は植物に時間を費やしている。母が育てた植物の写真を公開した。

<sup>12</sup> TV出た蔵：<https://datazoo.jp/tvdatazoo>（最終閲覧：令和6年3月27日）



## (2) 調査結果

調査対象となった番組（97件）を図表 64に示す11カテゴリに分類した<sup>13</sup>。

分類の結果、もっとも多く取り扱われているテーマは、「新たな介護サービス・技術」（22件）であった。具体的な内容は、介護現場における最新技術の導入や介護施設の新しい在り方・新しい取組など多岐にわたるが、総じてポジティブな内容であることが多かった。

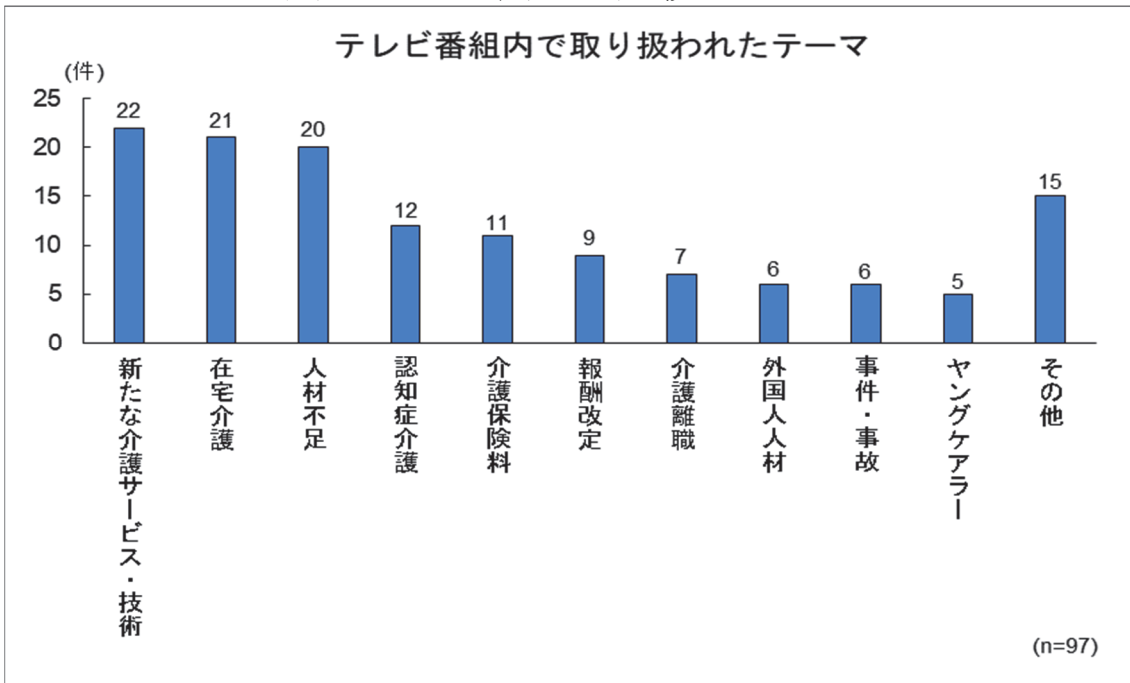
次に多く取り扱われていたテーマである「在宅介護」は、有名人や介護の当事者へのインタビューなど実体験を内容としているものが特に目立った。また、「介護離職」や「ヤングケアラー」の内容を同時に含んでいる場合も多く、介護の大変さや今後の課題などネガティブな印象を受けるものが多かった。

「人材不足」は、前述の「新たな介護サービス・技術」や「報酬改定（2024年度に介護報酬が現在より全体で1.59%引き上げられる方針）」、「外国人人材」の内容を同時に含んでいる場合が多く、人材不足解決に向けた施策や取組という趣旨で発信されていることが多い。

なお、「その他」については、介護に関連する映画の宣伝や新型コロナウイルス感染症下における介護、介護美容などが該当する。

また、番組全体で介護のみを取り扱っているケースは少なく、ニュースや情報番組内の一つのトピックとして取り上げられるケースが大多数であった。

図表 64 テレビ番組内で取り扱われたテーマ



<sup>13</sup> 1つの番組が複数テーマに該当する場合あり。

### (3) 調査結果からの考察

全体を通して、世間一般に対して発信されている介護に関する情報は、必ずしもネガティブな内容ばかりではなく、「新たな介護サービス・技術」などポジティブな内容も多かった。しかし、そのような内容の番組であっても、一般的に介護が抱えているとされている課題（介護人材不足や低賃金など）を前提とした構成となっていることが多い。このような内容が取り上げられること自体、依然として介護に対するイメージを改善する余地があるとも捉えられる。

また、介護者に焦点を当てた内容は、「在宅介護」「介護離職」「認知症介護」「ヤングケアラー」といったテーマで取り上げられることが多く、ポジティブな内容のものは少なかった。

これらのことを踏まえると、介護人材不足を解消していくためには、魅力発信等事業において介護の仕事に関する魅力発信を継続的に実施する必要があるといえる。

図表 65 テーマ別の番組概要（一例）

テーマ	番組名（トピック）	概要（一部抜粋）
人材不足	「NHKニュース おはよう日本」（働き手クライシス 命を支える訪問介護 “人手不足” 深刻）	・在宅介護など訪問介護をめぐる人手不足が深刻化してしまっている。厚生労働省によると有効求人倍率は介護施設での介護も3.79倍となってしまっているが、訪問介護に限ると15.53倍となっていて、背景には緊急時に1人での対応が求められることなどがあると見られ、難病や重度障害を抱える人の訪問介護も大きな問題となっている。
	ニュースLIVE！ ゆう5時（令和流！介護人材の獲得）	・ある事業所では入社後は先輩とペアになって現場にでて手厚いケアも受けられる。内定後は資格取得のサポートもしてくれるという。京都中心部から車で2時間の場所にある施設では立地がネックとなっている。そこで若手職員の採用強化チームを結成。自分がしてほしかった採用活動を企画した。こういうことを続けた結果、職説明会参加者が4人から500人に増えた。その他、元力士のセカンドキャリア採用や、保育園の併設など様々な取組が行われている。
報酬改定	報道特集（“限界がある”介護現場の苦悩）	・愛知・春日井市にある「デイサービス てとりん村」ではサービスの質を維持してきた結果、物価高や光熱費高騰で去年初めて赤字となった。介護職員の1か月の給料は全産業の平均に比べておよそ7万円低い。介護報酬は来年度に改定されるが、現場の状況を踏まえた額にしてほしいと岩月代表は訴える。
	S☆1（人材確保のため増額 介護報酬来年度から1.59%引き上げへ）	・介護サービスの公定価格「介護報酬」は3年に一度見直されているが、介護職員は賃金水準が低く増額が求められてきた。政府は来年度分の改定率を1.59%のプラスとする方針。
介護離職	NHKニュース おはよう日本（“介護離職させない” 対策迫られる企業）	・とある機械メーカーでは、今年から社会福祉士と顧問契約を締結し、親の介護についての意識してもらおうと定期的に勉強会を開催した。介護と仕事の両立に必要な知識や国の支援制度を紹介している。 また、とある家電量販店では、毎年数人のベテラン社員が介護離職しているという。そこで去年3月から労働組合の介護共済に対する補助を始めたという。
	首都圏情報 ネットドリ！（増えるビジネスケアラー 仕事と介護どう両立？）	・働きながら家族の介護を担う「ビジネスケアラー」は、2030年には318万人に上るとの推計が。2年後に2025年、団塊の世代がすべて後期高齢者になることで要介護者の急増が見込まれる「2025年問題」。これらの課題について考える。

テーマ	番組名（トピック）	概要（一部抜粋）
在宅介護	羽鳥慎一モーニングショー（過酷 おすぎとピーコ老老介護）	<ul style="list-style-type: none"> <li>双子タレントのおすぎとピーコについて、体調を崩したおすぎさんの介護のために同居していたというが、現在は別々の高齢者施設などで生活していることなどを女性セブンが報じた。同居時は老老介護の状態だったという。高齢社会に突入している日本にとって、高齢者とその家族に今過酷な現実が突きつけられているという。</li> </ul>
	家、ついて行ってイイですか？（終電後の池袋駅で「家、行ってイイ？」人並みの恋は諦めた…なぜ？涙のワケ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>はなちゃんは23歳のころから祖母を介護しているという。介護のため、会社を辞めて実家に戻ったという。家族の料理は毎日作っている。両親ははなちゃんが9歳の頃に離婚したという。人並みの恋愛はあきらめていると話した。自分は、大変だってアピールしているつもりはない、親をしょったことのない人の方が多いんだろう、だから大変に見えるんだろう、だが意外と軽いと話した。夢について聞くと、自分の家族が、私と家族でいてよかったって思っていてくれる人生であることだと話した。</li> </ul>
ヤングケアラー	FNSドキュメンタリー大賞（自助の国に生きる ヤングケアラー、その先に）	<ul style="list-style-type: none"> <li>18歳の佐藤謙太郎さんは難病を抱える母・仁美さんを介護しながら生活している。仁美さんは謙太郎さんが幼い頃に離婚し働きながら子どもを育ててきたが、2021年にALSと診断された。長女は就職のため引越し、謙太郎さんと2人で暮らしている。仁美さんは重度訪問介護制度を利用しヘルパーの派遣を受けているが、夜間帯と休日はヘルパーが見つからず謙太郎さんが介護と家事を担っている。母親の介護に戸惑うことや、母の言っていることが理解できず苛立ってしまうこともあるという。</li> </ul>
	JNN NEWS（「ヤングケアラー」を法律に明記し支援対象へ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤングケアラーについて、政府は支援の対象として法律に明記するため、来年の通常国会での法改正を目指していることがわかった。ヤングケアラーをめぐるのは、家族の介護や世話に追われ、学業や友人関係などに影響が出てしまうことが問題視されている。</li> </ul>
外国人人材	TBS NEWS（介護施設の現場トップに外国人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別養護老人ホーム「みなかぜ」で、ネパール人のチャウダリ・サロジさんが施設長に就任した。外国人が施設長になるのは全国的にも珍しい。介護業界の外国人は年々増加していて、在留資格「介護」で働く外国人が国内に約6,000人、特定技能外国人や技能実習生などを合わせると計46,000人に上る。</li> </ul>
	ゆうがたサテライト（外国人による訪問介護を検討）	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人による介護は入所や通院の介護施設などに限定され、自宅への訪問介護は解禁されていない。現場では人手不足から業務拡大を望む声があり、厚労省の有識者会議では年内に訪問介護解禁の可否を含め制度見直しの方向性を示す考え。</li> </ul>
介護保険料	イット！（税金Gメンvs悪質な滞納者 介護保険料払わず逆ギレも）	<ul style="list-style-type: none"> <li>きょう辞表を提出した神田憲次財務副大臣。辞任に追い込まれて注目を浴びた税金滞納の実態について調べた。実録！税金滞納 捜索の現場。近年介護保険料を滞納し、差し押さえ処分を受ける高齢者が増加しているという。</li> </ul>
	NHKニュース おはよう日本（65歳以上の介護保険料）	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険料について厚生労働省は年間所得420万円以上の高齢者を対象に来年度から引き上げることを決定した。もっとも高い320万円以上の区分を細分化して新たに420万以上や520万円以上など4段階設け各段階に応じてこれまでよりも高い保険料を負担してもらうという。</li> </ul>

テーマ	番組名（トピック）	概要（一部抜粋）
認知症介護	大下容子ワイド！スクランブル（松岡修造 全力応援NEWS 認知症の人「支える」ため何を？家族の向きあい方）	・松岡さんは、認知症の人の家族を支える活動をしている「認知症の人と家族の会」に訪れた。認知症の介護家族同士が悩みや苦しみを共有し、過去に介護経験のある参加者がアドバイスする集いを開催しているという。集いでは、「周囲に相談できず一人で抱え込んでしまう介護の悩みを、打ち明けることで楽になってほしい」という思いをコンセプトとしており、介護経験者はアドバイスを送り、参加した人たちは晴れやかな顔をしていた。
	NHKニュース7（「介護離職」防止対策）	・認知症対策を強化しようと、政府は当事者や家族らも加えた「認知症と向き合う幸齢社会実現会議」を設置し、議論を進めている。岸田総理は介護や看護を理由に仕事を辞める介護離職を防ぐ必要があるとして、来年の通常国会に必要な法律の改正案を提出することを目指し早急に検討を進めるよう関係閣僚に指示した。
新サービス・技術	NHKニュース おはよう日本（起こせ！化学変化 シェアハウス×介護）	・広島県東広島市に、介護の必要な高齢者を格安の家賃で住む若者が助けるシェアハウスが登場。月1万人の光熱費のみで暮らし、高齢者施設でアルバイトを行っている。住人は介護未経験で、専門スタッフの監修で配膳などの簡単な仕事、高齢者とのふれあいなどを担当しているという。
	スーパーJチャンネル Jの追跡（追跡 二刀流 “マッチョ介護士”の奮闘）	・マッチョ介護士を導入した丹羽悠介社長は、介護業界のイメージを変え多くの人材を集めたいという考えで介護施設とフィットネスの事業団クラブの融合をおこなっている。実業団所属の介護士たちは8時間の勤務時間のうち2時間を筋トレに充てることができ、プロテイン代月2万円や大会出場費用などが負担される。
事件・事故	NHKニュース7（介護施設での高齢者虐待 過去最多）	・高齢者が介護施設の職員などから虐待を受けている件数は昨年は856件明らかになり過去最多となった。虐待の要因として教育・知識・介護技術などに関する問題が56.1%、ストレス・感情コントロールの問題が23%となった。また家庭内での高齢者虐待も1万6669件確認され前年に比べ243件増えており要因として認知症の症状があったケース、介護疲れ、ストレスなどが挙げられる。
	DayDay.（訪問ヘルパー 財布から現金を…）	・8年前から車いすで生活する60歳男性は、去年から訪問ヘルパーによる現金抜き取りの被害を受けた。
その他	明日をまもるナビ（災害発生！介護サービスを続けるには？）	・今回のナビゲーターは鍵屋一さん。鍵屋さんいわく、皆防災のことは考えてはいるものの、その後のことを考えていないのが問題だという。そして今回注目したいのはBCP。まず安全な場所に逃げる防災計画とは違い、逃げた後どうするかについてまとめた計画である。国は介護事業者に対し、2024年3月末までに作成することを義務化している。内閣府が去年3月に公表した調査によると「医療・福祉」の分野で策定済みと回答したのは32.8%。そこで番組は策定の進んでいないある施設を訪問した。
	首都圏情報 ネットドリ！（広がる“無毛社会”！？～私たちと毛のこれから～）	・今回のテーマは利用者が増えているという脱毛サービス。近年は美容のためだけでなく、老後に備える介護脱毛にも注目が集まっている。介護脱毛については、専門家の永嶋昌樹会長は「介助の際に毛がある状態・ない状態でもプロにとっての負担はほとんど変わらない」と語っているという。

<参考：介護に関するドラマの調査結果>

参考として、介護に関する内容を取り扱ったドラマについても調査を行った。調査の結果は以下のとおりである。

図表 66 介護に関する内容を取り扱ったドラマ

作品名	概要
我がパラダイス (2023年)	・入居費用8,600万円の介護付き高級マンションで働く、看護師の朝子。つましい生活で母親の面倒を見る朝子にとって、そこは縁遠い世界でした。ダイニング係のさつき、受付係の邦子にとってもそれは同じこと。3人はそれぞれ自身の家族に介護問題を抱えていたのです。物語が進むごとに追い詰められていく3人は、ついに格差に立ち向かうことに……。果たして、安らかな老後は富める者にしか訪れないものなのでしょうか？
正体 (2022年)	・ある夫婦が殺された殺人事件の容疑者として逮捕され、死刑を宣告された鎬木慶一（亀梨和也）が、移送中に刑務官の隙をつき脱獄する。テレビなどマスメディアでは鎬木の脱獄が大きく報じられ、警察が全力で行方を追うも、鎬木を捕まえられずにいた。一方、事件の被害者夫婦の夫の母親である井尾由子（黒木瞳）は若年性認知症を患っており、事件のトラウマを抱えながら介護施設で療養している。やがて、鎬木は逃走しながらも潜伏する先々で名前や姿を変え、工事現場の作業員・野々村和也（市原隼人）やライター兼ディレクターの安藤沙耶香（貫地谷しほり）、痴漢の冤罪被害に遭った弁護士渡辺淳二（上川隆也）と出会い、彼らを窮地から救っていく。なぜ、鎬木は人々を救うのか——。野々村たちは鎬木が指名手配中の死刑囚だと気付いたとき、「彼は本当に殺人犯なのか？」と疑問を抱き始める。
俺の家の話 (2021年)	・プロレスラー・ブリザード寿として活躍する観山寿一のもとに、重要無形文化財・能楽の保持者である父が危篤であるとの知らせが届きます。急いで病院へと駆け込む寿一は、久しぶりに弟と妹に再会することに……。すると弟妹たちは、2年前に父との別れの挨拶は済ませていると、相続や遺産の話をはじめたのです。激昂した寿一は、二十八世観山流宗家を継ぐべくプロレスラーを引退します。父の介護や遺産相続を巡る家族バトルの行方はいかに！
母、帰る ～AIの遺言～ (2019年)	・“介護AI”が普及する近未来の地方都市を舞台に描くホームドラマ。母・ゆり（岸本加世子）の臨終間際、酒場にいた養父・誠二（奥田瑛二）を許せない直人（柳楽優弥）は、誠二との養子関係を解消しようと実家に帰ってくる。そこで直人はゆりが生前に自分の記憶を移植した“介護AI”と出会い、AIからあることを告げられる。
いつかこの恋を 思い出して きっと泣いてしまう (2016年)	・介護福祉士として大手介護施設で働くヒロインのラブストーリー。音（有村架純）が北海道のさびれた町で養父母と暮らす一方、福島出身の練（高良健吾）は東京で先輩にこき使われながら、へとへとになるまで働いていた。ある日、練は友人の晴太（坂口健太郎）が北海道で盗んできたというかばんから“音へ”と書かれた古い手紙を見つけ、持ち主に返さなければと強く感じ、北海道に向かう。
スクラップ・ アンド・ビルド (2016年)	・羽田圭介の芥川受賞作を柄本佑主演でドラマ化。仕事を辞めて無職となった健斗（柄本）は、同居する祖父（山谷初男）の介護を手伝うことに。しかし「もう死んだ方がよか」が口癖の祖父を見て、望みどおりしてやるのが幸せだと感じた健斗は、過剰なほど手厚く介護することで、祖父を弱らせようと決意する。
プレミアムドラマ ペコロス、 母に会いに行く (2013年)	・父の死後、少しずつ認知症が始まった母。症状から、母の中によみがえった父。それをいとおしく見つめて介護する息子。40歳で故郷・長崎にUターンした“ハゲちゃびん”漫画家ペコロスが、施設に暮らす認知症の母とのおかしくも切ない日々をつづった話題の漫画をドキュメンタリードラマ化。介護というどこか暗く直視したくない現実を、温かいタッチの絵と長崎弁で“ほっこり”そして“切なく”描く。
任侠ヘルパー (2009年)	・極道たちが組の次期幹部を懸けて老人介護に奮闘する。六本木地区貸元組長・彦一は詐欺で金を稼いでいた。ある日、暴力団の大幹部・鷹山を集め、次期幹部昇格を懸け、老人介護施設での実習を命じる。そんな中、彦一は小遣い目的で認知症のチヨの世話をすることに。

### Ⅲ. 国事業の評価

本章では、令和5年度に実施された魅力発信等事業（情報発信事業）について国事業全体の構造を整理するとともに、各活動において実施された自己評価の手法・内容および課題点を整理した。

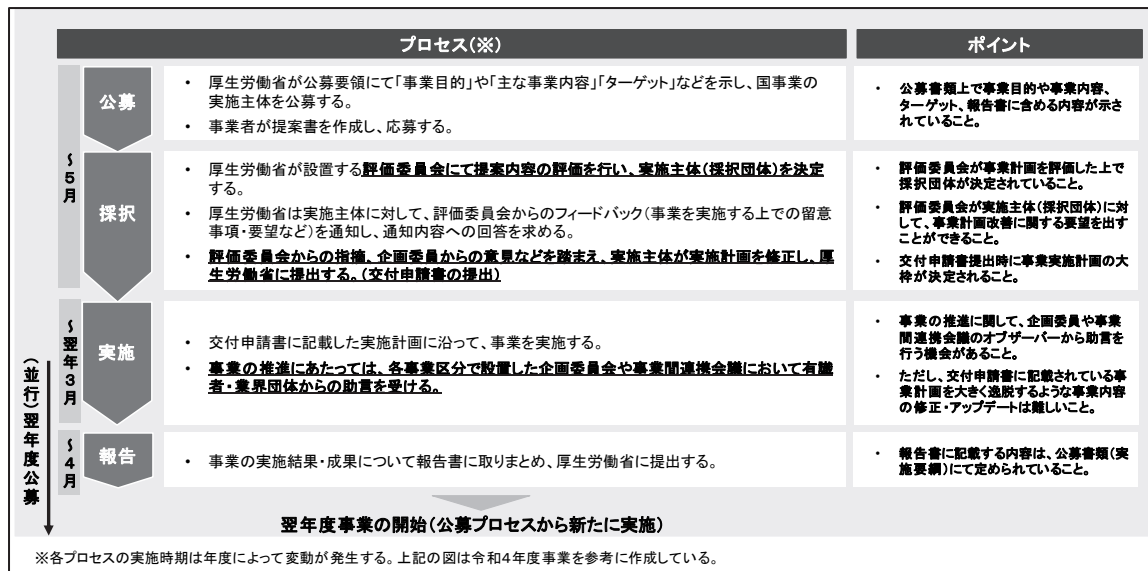
#### 1. 国事業の概要

魅力発信等事業は厚生労働省による介護人材確保対策の一環として実施されている事業である。同事業の前身は平成30年度に実施された「介護職のイメージ刷新等による人材確保対策強化事業」であり、令和元年度以降に事業名が「介護のしごと魅力発信等事業」と変更されてから約5年間にわたって継続的に実施されている。

魅力発信等事業は年度ごとに複数の事業で構成されており、アプローチするターゲットや発信内容などによって事業区分が定められ、これまでに様々な情報発信が行われてきた。

各年度における事業は図表 67の示すとおり、公募→採択→事業実施→報告という流れで進められる。各年度の採択事業者は評価委員会において決定され、事業内容は各実施主体が応募時に作成した提案書をベースとして採択後に再検討され、交付申請書提出の段階で概ね決定となる。そして事業実施期間には、事業間連携会議や企画委員会、オフトラック会議が開催され、実施主体間および実施主体-業界団体・職能団体間の情報共有・連携が図られる。事業終了後は各実施主体が事業の成果や課題を報告書として取りまとめ、厚生労働省に提出する。

図表 67 各年度における国事業の流れ



また、魅力発信等事業に関連する会議体としては「評価委員会」および「企画委員会」、「事業間連携会議」「オフトラック会議」の4つが存在する。各会議体の開催頻度、開催目的および参加者は以下のとおりである。

図表 68 魅力発信等事業に関連する会議体（令和5年度）

会議体の名称	開催頻度	開催目的	参加者
評価委員会	年1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>採択事業者を決定すること。</li> <li>採択事業者に対して伝えるべき、事業実施上の留意事項・要望などを検討すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有識者 (厚生労働省が人選)</li> </ul>
企画委員会 (事業区分ごとに設置)	年3～4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業内容について有識者から助言を受けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有識者 (各実施主体が人選)</li> </ul>
事業間連携会議	年3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施主体間および実施主体-業界団体・職能団体間の情報共有・連携を図ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業区分の実施主体</li> <li>業界団体・職能団体</li> <li>厚生労働省</li> </ul>
オフトラック会議 (※)	適宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施主体間での情報共有・連携を図ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業区分の実施主体</li> </ul>

※オフトラック会議は令和3年度より設置された。

## 2. 令和5年度国事業（情報発信事業）の事業内容・成果

令和5年度国事業（情報発信事業<sup>14</sup>）の評価を実施するための基礎情報を得るため、各実施主体が公表している資料および各実施主体へのヒアリング結果から得られた情報に基づいて事業内容・成果を整理した。

図表 69 本項において整理した項目

項目	内容
事業構造	• 事業の目的および事業区分の設定方法
情報発信の方法	• 事業の内容・使用された媒体
アウトカムの内容	• アウトカム・効果測定の結果

図表 70 国事業の内容・成果を取りまとめる際に用いた情報

年度	情報の取得元
令和5年度	• 「介護のしごと魅力発信等事業（事業間連携等事業）」が主催する事業間連携会議で各実施主体が用いた発表資料 <sup>15</sup> • 各実施主体へのヒアリング結果 <sup>16</sup>

<sup>14</sup> 魅力発信等事業には情報発信事業のほかに事業間連携等事業が存在するが、事業間連携等事業は対外的な情報発信を実施する事業ではなく実施主体間あるいは国-都道府県の情報共有などを主眼とした事業であることから評価対象には含めていない。

<sup>15</sup> 各事業の報告書は厚生労働省ホームページまたは各事業の実施主体のホームページにて公表される見込み。

<sup>16</sup> 本ヒアリングは事業間連携等事業（実施主体：PwCコンサルティング合同会社）と共同で実施した。



## (1) 事業構造

令和5年度事業は「イベント、テレビ、WEB等を活かした取組等を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること」を目的として実施されている。なお、「新たに」という文言は令和5年度から追加されたものである。この文言が追加された背景としては、令和4年度までに実施された魅力発信等事業において「イベント等を開催しても、もともと福祉・介護に関心がなかった人がどれだけ参加したのか曖昧だった」ことや「福祉・介護に関心がない人に対してリーチするには情報発信の方法に工夫が必要」といった課題感があったことが挙げられる。

事業内容によって情報発信事業と事業間連携等事業の2つの事業に分かれており、情報発信事業は3事業者が採択されている。また情報発信事業は令和4年度と異なり、全国へ向けた情報発信とWEBを活用した広報事業に分かれている。前者（全国に向けた情報発信）は「イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を行う事業」を、後者（WEBを活用した広報事業）は「WEB広告等を活用し、介護の日や福祉人材確保重点実施期間等の機会を捉えつつ、年間を通して広く国民に向けて広報を行う事業」である。

「事業間連携等事業」は令和4年度と基本的に同様の内容であり、国事業の実施主体間の連携だけでなく、都道府県との連携に係る取組が引き続き実施されている。

図表 71 事業構造（令和5年度）

#	事業名	実施主体名	事業目的(概要) ※実施要綱内の「事業区分及び各事業の主眼」より転載。
1-1	情報発信事業 (全国へ向けた情報発信)	(株)朝日新聞社	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの国民が、福祉・介護の仕事について<u>新たに</u>関心を持ち、理解を深めるとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を通じて、広く国民に向けた情報発信を行う事業。 (太字部分が令和4年度からの主な変更点)</li> </ul>
1-2		マガジンハウス(株)	
2	情報発信事業 (WEBを活用した広報事業) <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">新規の事業区分</span>	楽天グループ(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持つとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、WEB広告等を活用し、介護の日や福祉人材確保重点実施期間等の機会を捉えつつ、年間を通して広く国民に向けて広報を行う事業。</li> </ul>
3	事業間連携等事業	PwCコンサルティング (同)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信事業の実施主体が、他の実施主体や「都道府県等の地域単位で実施している魅力発信に係る取組」(以下「都道府県事業」という。)との連携を図ることなどにより、「介護のしごと魅力発信等事業」の事業効果の最大化を図ることを目的とする事業。</li> </ul>

## (2) 情報発信の方法・内容

いずれの実施主体もイベント開催（オンライン含む）が主な活動の1つとなっている。また、令和4年度に引き続き、WEB動画（YouTubeなど）やSNSを活用した情報発信が実施されている。

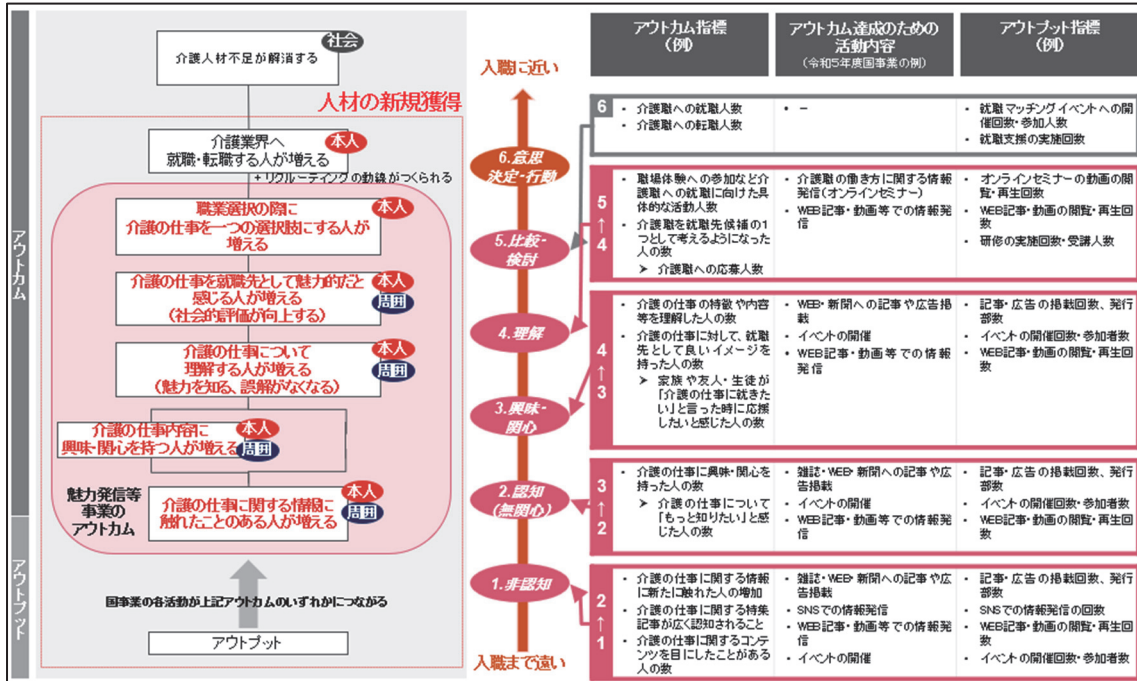
図表 72 情報発信の方法（令和5年度）

#	事業名	イベント	TV・ラジオ	新聞・雑誌	WEBサイト・記事	WEB動画	SNS	その他	主な活動
全国へ向けた情報発信	(株)朝日新聞社	◎ 4回	◎ TV1回(地上波)	◎ 新聞3回(毎日新聞 毎日新聞 朝日小学生新聞)	◎ 記事約5本 + サイト改修	◎ 約5本	○ 各種広報	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>【イベント】小学生向けワークショップ</li> <li>【イベント】セカンドキャリア働き方フェア</li> <li>【イベント】WORKOイベント</li> <li>【イベント】Reライフフェスティバル</li> <li>【WEB動画】PodとYouTube</li> <li>【WEBサイト】若年層向け回収</li> <li>【新聞】採録記事などの掲載</li> </ul>
	マガジンハウス(株)	◎ 8回	—	◎ 雑誌2回(anan, POPEYE)	◎ 記事17本	—	○ 各種広報	○ 書店などでの冊子配布 交通広告	<ul style="list-style-type: none"> <li>【イベント】anan FES</li> <li>【イベント】介護と福祉のしごと展</li> <li>【イベント】日本仕事百貨×「こここ」</li> <li>【雑誌】anan, POPEYE特集企画</li> <li>【WEB記事】「こここ」での連載など</li> <li>【その他】anan×POPEYE オリジナル冊子配布</li> </ul>
WEBを活用した情報発信	楽天グループ(株)	—	—	—	◎ ポータルサイト作成 記事5本	◎ 4本	◎ インフルエンサー タイアップ投稿	○ デジタル広告	<ul style="list-style-type: none"> <li>【WEBサイト】みんな就活アップ</li> <li>【WEB動画】ターゲット別動画</li> <li>【広告】デジタル広告配信</li> </ul>

※◎…実施した活動のうち、事業の中心を担うもの。○…左記「◎」の活動に付随して実施した活動。

※令和6年2月19日時点で実施予定のものを含む

図表 73 令和5年度国事業（情報発信事業）の活動と魅力発信等事業のロジックモデルの対応



※各アウトカムの右側についているワッペンはアウトカムの主語

- ①本人：就職する／している人（本人）が主語のもの
- ②周囲：就職する／している人の周囲が主語のもの
- ③社会：日本社会が主語のもの

### (3) 各活動のアウトプット・アウトカム

令和5年度国事業（情報発信事業）の各実施主体が行った活動について、事業間連携会議の発表資料およびヒアリング結果をもとに、アウトプットおよびアウトカムを整理した。

本報告書では概要のみを記載しているため、各事業の詳細は情報発信事業および事業間連携等事業の各実施主体が作成する事業報告書<sup>17</sup>を参照されたい。

図表 74 本項で整理した項目

No.	項目	主な記載内容
1	概要	<ul style="list-style-type: none"><li>各活動の内容</li><li>活動のターゲット</li><li>アプローチ方法（情報発信手法）</li><li>当初計画からの変更点</li></ul>
2	アウトプット	<ul style="list-style-type: none"><li>アウトプット指標</li><li>目標値</li><li>実際の結果 （目標達成したものは下線を付与）</li></ul>
3	アウトカム	<ul style="list-style-type: none"><li>アウトカム指標</li><li>測定方法</li><li>測定結果</li><li>アウトカム評価における課題点<sup>18</sup></li></ul>
4	実施主体による振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>実施主体の振り返りコメント （各活動の成果や課題など）</li></ul>

<sup>17</sup> 令和6年5月以降に各実施主体または厚生労働省のホームページで順次公開。

<sup>18</sup> アウトカムの価値判断基準については、各実施主体が事業を開始してから設定依頼をすることとなったため、未設定の活動が大半である。そのため、「価値判断基準が未設定であること」は個別の活動における課題点としては記載していない。

## ①株朝日新聞社

### A. トークショー「真夏の熱血！介護トーク」（イベント）

#### <概要>

「甲子園×介護」をテーマにしたトークショーを開催。後日、トークショーの様子を朝日小学生新聞に掲載し、全国に広く情報を発信した。また、甲子園球場内で配布される特別ガイドにも本イベントの広告を掲載した。

ターゲットは「若年層」、アプローチ方法は「イベント」および「新聞」である。

#### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	イベント参加者数	• 2回の合計で500人	• 2回の合計で約200人（目標-300人）
2	朝日小学生新聞の発行部数	• 200,000部	• 200,000部

#### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	参加者の満足度	• 参加者アンケート (n=65)	• イベントは面白かったか：「とても面白かった」「面白かった」（計83%）
2	参加者の介護の仕事に対する意識の変容	• 参加者アンケート (n=65)	• イベントを通じて「介護」という仕事へのイメージは変わりましたか：「とても良くなった」「良くなった」（計57%）、「良いままで変わらない」（22%）

(課題点)

✓ 特になし。

### <実施主体による振り返り>

- 夏の高校野球を主催する強みを生かし、全国から人が集まる場所でイベントを開催することにより、子どもたちやその親世代が介護に関心を持つきっかけを創出した。オープンスペースでの開催のため、事前応募に加えて当日立ち寄った方にも参加してもらうことで、無関心層にもアプローチする機会を作ることができた。

## B. YouTube×地上波×SNSを活用した動画拡散

### <概要>

高校生介護技術コンテストに出場する高校生に密着取材。取材の様子を部活応援メディア「ブカピ」のYouTube、地上波、SNSを使用して広範囲に発信した。

ターゲットは「若年層」、アプローチ方法は「WEB動画 (YouTube)」および「テレビ」「SNS」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	動画再生回数	• 100,000回	• <u>189,013回 (目標+89,013回)</u> (令和6年3月1日時点)

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「福祉・介護に関する社会的評価が高まる (イメージアップ)」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	動画の満足度	• 動画モニター視聴者へのアンケート調査等	• 測定結果未確定 (令和6年3月1日時点)
2	視聴者の介護の仕事に対するイメージの変容	• 動画モニター視聴者へのアンケート調査等	• 測定結果未確定 (令和6年3月1日時点) (主な質問事項：イベントが面白かったか、介護の仕事のイメージが変わったか等)

### (課題点)

- ✓ 事業年度末に調査結果の報告がなされる場合、同実施主体が設置する企画委員会とのタイミングが合わず事業に対する評価を得られないこと。

### <実施主体による振り返り>

- 介護についてのネガティブなイメージを払拭し、その魅力を若年層に向けて発信するため、若年層から人気のあるコンテンツを活用した施策だったが、想定を上回る視聴回数となった。
- 女性の視聴者、13～24歳の若年層が通常のタイアップと比較して高い結果となり、「介護のしごとの魅力」の若年層への発信に寄与した。

## C. ポータルサイト「これからのKAIGO」の若年層向け改修

### <概要>

既存のポータルサイトの中に、若者向けのタブを新設。将来の職業の選択肢になるよう、介護職に関する基本情報や、ロールモデルなどを紹介。WEB広告による誘導も行った。

ターゲット層は「若年層」、アプローチ方法は「WEBサイト」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	記事PV数	• 100,000PV	• <u>108,478PV (目標+8,478PV)</u> (令和6年3月1日時点)
2	動画再生回数	• 設定なし	• 104,046回 (令和6年3月14日時点)

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「介護の仕事への理解を深める人が増える」「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の4点である。なお、1点目のアウトカムの測定結果は、アウトカム#1（介護の仕事に関する情報に新たに触れた人の数）に加え、<アウトプット>に記載のとおりである。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	介護の仕事に関する情報に新たに触れた人の数	• コンテンツレポート	• 3月1日時点のPV数の内訳を年齢別に見ると、18歳～34歳の割合が53.8%と媒体平均(34.1%)を大きく上回り、若年層を中心に関心を集めた。
2	介護の仕事に対する意識の変容	• ブランドリフト調査	• 測定結果未確定 (令和6年3月24日時点)

(課題点)

- ✓ 事業年度末に調査結果の報告がなされる場合、同実施主体が設置する企画委員会とのタイミングが合わず事業に対する評価を得られないこと。

<実施主体による振り返り>

- 今年度新たにターゲットに設定した「若年層」に対し、ポータルサイトに「若年層タブ」を作り、5本のコンテンツを制作し格納し発信した。
- 高校生や大学生など若い世代の多くが「介護のしごと」にまだ距離感があると考えられる中、ロールモデルとなる介護の現場で働く若い世代の人たちのインタビューを紹介したことで、介護や福祉のしごとに触れる機会がなかったユーザーからも関心を集め、記事がしっかりと読まれたと考えられる。

D. WORKO!オンラインセミナー「自分らしく築くキャリア～ケアの仕事の可能性～」

<概要>

介護の仕事に対する興味関心の向上を目的とし、介護業界における、多様な働き方、仕事の魅力、やりがいを紹介するオンラインセミナーを開催。アーカイブ動画の視聴を促進するため、ミドル層をターゲットとした広告も実施した。なお、当初はフェス形式（他の事業者も一緒に複数コンテンツを提供する形式）の予定だったが、他の事業者が集まらなかった結果、単体でのウェビナー実施かつアーカイブ配信のみとなった。

ターゲットは「ミドル層（子育てを終えた層を含む）」、アプローチ方法は「WEB動画配信」および「WEBサイトでの記事掲載」である。

<アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	動画再生回数	• 200,000回	• <u>237,532回（目標+37,532回）</u>
2	採録記事PV	• 10,000PV	• <u>10,319PV（目標+319PV）</u>

<アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の3点である。なお、1点目のアウトカムの測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

なお、下記に記載の視聴後アンケートの回答者数（n数）および回答結果（測定結果）は中間報告時点（令和6年3月24日時点）のものである。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	介護の仕事に対する意識の変容	・ 視聴後アンケート （中間報告時点：n=32）	・ 視聴前と視聴後の介護の仕事への印象についての10段階評価では、セミナー視聴前は「悪い」評価の人が12人いたが、視聴後はほとんどの人が「良い」評価に転じる意識変容が見られた。
2	セミナー視聴者の介護職への就職意欲の向上	・ 視聴後アンケート （中間報告時点：n=32）	・ オンラインセミナーを視聴して、あなたは今後、介護の現場で働きたいと思うか： 「そう思う」「ややそう思う」（計78%）
3	セミナー参加者の職場体験などへの参加意欲の向上	・ 視聴後アンケート （中間報告時点：n=32）	・ 今後、地域の介護施設などの職場体験に参加したいと思うか： 「そう思う」「ややそう思う」（計81%）

（課題点）

- ✓ 事業年度末に調査結果の最終報告がなされる場合、同実施主体が設置する企画委員会とのタイミングが合わず事業に対する評価を得られないこと。
- ✓ アーカイブ動画再生回数（約23.8万回）と比較すると、視聴後アンケートの回答者数（n=32）が少なく、限られた視聴者の反応しか得られていないこと。

<実施主体による振り返り>

- ・ 当初はフェス形式（他の事業者も一緒に複数コンテンツを提供する形式）の予定だったが、他の事業者が集まらなかった結果、単体でのウェビナー実施かつアーカイブ配信のみとなった。再生回数はアウトプット目標を超えているものの、当初予定と比較すると付加価値に欠ける形にはなってしまった。
- ・ 中間報告のアンケートでは、ターゲットとなる40代、50代が回答者の約8割を占めた。さらに、介護・福祉の仕事に関わったことがない人が8割で、想定どおりの年代、介護未経験層に届けることができたと考える。別の業界からライフシフトした方の話に興味関心を示すコメントが多く見られ、多様な働き方に共感する声も寄せられた。



## E. セカンドキャリア働き方発見フェア（イベント）

### <概要>

40～50代の就職・転職活動を応援する「セカンドキャリア働き方発見フェア」にブースを出展。介護の仕事の魅力やキャリアプランに関するプレゼンテーションを実施。

ターゲットは「ミドル層（子育てを終えた層を含む）」、アプローチ方法は「イベント」である。なお、ブース相談者のうち、ブースに立ち寄る前から介護の仕事に「非常に興味があった」「関心があった」と回答した人は計69%である（n=39）。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	セミナー参加者数	・ 設定なし	・ 約30人
2	ブース参加・相談数	・ 設定なし	・ 39人

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	介護の仕事に対する就職先としての介護の仕事への関心度の変容	・ ブース相談者アンケート（n=39）	・ 就職先として福祉・介護業界への関心は変化しましたか:「非常に関心が高くなった」「関心が高くなった」（計72%）

#### (課題点)

- ✓ アウトプット指標の目標値が設定されないままに事業が進んでいったこと。

### <実施主体による振り返り>

- ・ セミナー、ブースともに、現在転職・就職活動中で介護の仕事に関心のある人が多く参加した。イベント全体を通してもう少し人数とアンケートの数を集められる工夫ができれば良かった。

## F. 「朝日新聞Reライフフェスティバル2024春」

### <概要>

大規模アクティブシニアコミュニティのリアルイベントにて、セカンドキャリアの選択肢となるよう、介護の魅力を伝えるセミナー「人生100年時代のライフシフト“好き”を生かして“社会”とつながる介護のしごと」を開催。イベント内容の採録記事を毎日新聞・朝日新聞に掲載した。また、アーカイブ動画の配信も行った。

ターゲットは「アクティブシニア」であり、実際のイベント参加者も50～60代が6割を占めた。アプローチ方法は「イベント」「WEB動画配信」「新聞」である。

### <アウトプット>

本活動の計画を設定した当初はオンライン実施を予定していたため、以下のアウトプット指標のうち「イベント全体の来場者数」および「セミナー参加者数」については、目標値を設定していなかった。

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	イベント全体の来場者数	・ 設定なし	・ 3,190人
2	セミナー参加者数	・ 設定なし	・ 約120人
3	アーカイブ動画再生回数	・ 100,000回 (令和6年3月末時点)	・ 76,767回(令和6年3月27日時点) (目標-23,233回)
4	新聞発行部数	・ 4,750,000部	・ 3,974,942部(令和6年3月27日時点) (目標-775,058部)

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「介護の仕事への理解を深める人が増える」「福祉・介護に関する社会的評価が高まる(イメージアップ)」の4点である。なお、1点目のアウトカムの測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。なお、下記に記載の回答者数(n数)および回答結果(測定結果)は令和6年3月24日時点のものである。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	介護の仕事に対する就職先としての関心度の変容	・ セミナー参加者アンケート (n=116)	・ セミナー前後で介護の仕事の印象が良くなったか:「さらに良くなった」「良くなった」(計69%)
		・ 新聞採録に関するJ-MONITOR調査	・ 測定結果未確定

(課題点)

- ✓ アウトカムのうち「介護の仕事への理解を深める人が増える」に対して明確に対応している指標がないこと。
- ✓ 事業年度末に調査結果の最終報告がなされる場合、同実施主体が設置する企画委員会とのタイミングが合わず事業に対する評価を得られないこと。

<実施主体による振り返り>

- 新聞とWEBを活用した告知によってセミナーの応募者数は2,149名となり、集客の成功とテーマへの関心の高さがうかがえた。
- 参加者は想定どおりの50代～60代が6割を占めた。また、セミナー参加者アンケートによるとライフシフトを現在考えている人が4割、過去に考えたことがある人が3割弱となり、テーマに関心の高い人が多く参加したと見られる。
- アンケートや満足度から、未経験者や介護に関する知識のない人に向けて、自分の好きなことや得意を生かし、社会に貢献できる介護の周辺業務を認知させることができたと考える。
- ブースの活用については、相談数をしっかりと把握できるアンケートの活用や、配布した「ライフシフト」のパンフレットだけでなく、「周辺業務」に特化したわかりやすい資料の提供があれば良かったと考え、課題が残った。

G. Facebookページを活用したコミュニティの関係強化

<概要>

Facebookページにて、コメント機能を追加し、介護の情報を発信。介護の情報に接する機会を増やすとともに、コミュニティメンバーの情報交換の場として役割を果たす。

ターゲットは「アクティブシニア」、アプローチ方法は「SNS」である。

<アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	リーチ数	• 10,000	• 測定結果未確定 (令和6年3月1日時点)

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「介護の仕事への理解を深める人が増える」の3点である。なお、1点目のアウトカムの測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	介護の仕事に対する意識の変容	• Facebookコミュニティ上でのアンケート調査	• 測定結果未確定 (令和6年3月24日時点)

#### (課題点)

- ✓ 事業年度末に調査結果の報告がなされる場合、同実施主体が設置する企画委員会とのタイミングが合わず事業に対する評価を得られないこと。

### <実施主体による振り返り>

- コンテンツの発信とリーチは目標を達成できる見通しだが、コミュニティ強化という点ではまだ課題が残る。

## ②株マガジンハウス

### A. anan FESトークイベント「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

#### <概要>

anan創刊50周年を記念し開始されたイベントにて、著名人による、介護の仕事に関するトークライブを実施。YouTubeでも配信。

ターゲットは「若年層」、アプローチ方法は「テレビ」「イベント」「WEB動画配信 (YouTube)」である。

#### <アウトプット>

当初はSNS LIVE参加数10,000人をアウトプット指標の目標として設定していたが、使用するSNSの仕様変更を受けて、アウトプット指標自体をライブ配信動画の視聴回数（アーカイブ含む）に変更した。令和6年3月7日時点の視聴回数は22,733回となっている。

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	動画視聴回数	• 設定なし	• 22,733回（令和6年3月7日時点）
2	SNS LIVE参加者数	• 10,000人	• 測定なし（SNSの仕様変更により測定を取り止め）

#### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
2	アーカイブ動画への高評価数	• 高評価数のカウント	• 673件（令和6年3月1日時点）

(課題点)

✓ 特になし。

#### <実施主体による振り返り>

- 当初、使用を予定していた SNS の仕様変更により LIVE 配信方法の変更が発生した。また、トークステージのアーカイブ動画が当該コンテンツ以外の内容も含まれていたため、介護のしごとの魅力発信にフォーカスした正確な測定に至らなかった。測定方法が課題として残る。

## B. 展示会「ケアするしごと展」

### <概要>

ananFESのサテライトイベントとして、anan×POPEYE×こここ共催の展示会イベントを開催。令和5年11月14日～30日には、巡回展を開催。当初はオンラインでの配信も予定していたが会場都合により取りやめとした。

ターゲットは「若年層（無関心層）」、アプローチ方法は「テレビ」および「イベント」である。テレビでは、取材対応を通じて展示会を開催した経緯や展示内容を説明した。<sup>19</sup>

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	来場者数	• 4,000人	• <u>計12,782人（目標+8,782人）</u> ➢ 渋谷：1,602人 ➢ 下北沢：11,180人 <sup>20</sup>

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	イベント参加者の介護の仕事に対する印象の変容	• イベント参加者アンケート（n=158）	• 展示会の接触前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。接触後は接触前に比べて、平均値が1.31（介護従事者を除くと1.55）ポイント上昇した。

また、アウトカムの中に「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」は含まれていないが、「『ケアするしごと展』をご覧になっていかがでしたか」という質問について、回答者のうち30.4%の人が「介護のしごとに興味を持った」、46.8%の人が「介護のしごとについてもっと知りたいと思った」、8.2%の人が「自身の仕事として検討してみたいと思った」と答えた。

(課題点)

✓ 特になし。

<sup>19</sup> 取材内容の詳細 <https://trendnewscaster.jp/caster/202311112362532/>（最終閲覧：令和6年3月27日）

<sup>20</sup> 展示会を出展した全体のイベント「ケアリングノーベンバー2023」の実施期間中における会場全体の来場者を、スマートフォンの位置情報を基に集計。

### <実施主体による振り返り>

- オンライン視聴は会場都合により実施しなかった。会場内での来場者の流動性が高いため、来場者数のカウントが困難だった。下北沢のBONUS TRACK<sup>21</sup>への巡回展も開催し、リアルの場での情報発信に寄与した。

## C. anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」

### <概要>

ananにて、介護・福祉に関する特集8ページを掲載。anan本誌で制作した記事内容をanan WEBに転載し、記事化。SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施した。

ターゲットは「若年層（無関心層）」、アプローチ方法は「雑誌」「WEB記事」「SNS」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	anan発行部数	• 134,519部	• <u>134,519部（目標±0）</u>
2	anan web PV数	• 45,000PV	• <u>55,610PV（目標+10,610PV）</u> （令和6年3月1日時点） • 46,353UU <sup>22</sup> （令和6年3月1日時点） （アウトプット指標ではないが、参考として測定）

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

媒体の性質上、記事を見た人の追跡は困難であったため、事業間連携会議に出席している業界団体・職能団体から介護従事者などの感想を取得した。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	ananの介護の仕事に関する特集記事が広く認知されること	• 定性情報の取得（事業間連携会議に出席している業界団体・職能団体より）	• 介護従事者から、介護の仕事に関する特集記事がananに掲載されたことで「介護現場の若手が鼓舞された」などの反響の声を多数取得した。

<sup>21</sup> 「BONUS TRACK」HP <https://bonus-track.net/>（最終閲覧：令和6年3月27日）

<sup>22</sup> ユニークユーザー数。一定期間内に特定WEBサイトを訪れた人の数であり、複数回訪問した人も1人とカウントする。

(課題点)

- ✓ アウトカムの2つ目「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」について、ターゲットである「若者層（無関心層）」の意識変容を測ることが困難であったこと。

<実施主体による振り返り>

- 媒体属性から無関心層への発信を実現するのみならず、従事者からの好反響が大きく、媒体力が活きた取組ができたと感じた。媒体の性質上、記事を見た人の追跡調査を実施することが難しいため、記事を見た後の意識変容・行動変容をどう把握するかが今後の検討課題である。

D. POPEYE特集「福祉ってこういうことだったんだ。」

<概要>

POPEYE（雑誌）にて、介護・福祉に関する特集8ページを掲載。POPEYE本誌で制作した記事内容をPOPEYE Webに転載し、記事化。SNSアカウントも活用し、情報拡散も実施した。

ターゲットは「若年層（無関心層）」、アプローチ方法は「雑誌」「WEB記事」「SNS」である。

<アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	POPEYE発行部数	• 86,333部	• <u>86,333部（目標±0）</u>
2	POPEYE web PV数	• 45,000PV	• 21,594PV（目標-23,406PV） （令和6年3月1日時点） • 18,358UU <sup>23</sup> （令和6年3月1日時点） （アウトプット指標ではないが、参考として測定）

<アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

<sup>23</sup> ユニークユーザー数。一定期間内に特定WEBサイトを訪れた人の数であり、複数回訪問した人も1人とカウントする。



媒体の性質上、記事を見た人の追跡は困難であったため、事業間連携会議に出席している業界団体・職能団体から介護従事者などの感想を取得した。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	POPEYEの介護の仕事に関する特集記事が広く認知されること	<ul style="list-style-type: none"> <li>定性情報の取得（事業間連携会議に出席している業界団体・職能団体より）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護従事者から、介護の仕事に関する特集記事がPOPEYEに掲載されたことで「介護現場の若手が鼓舞された」などの反響の声を多数取得した。</li> </ul>

(課題点)

- ✓ アウトカムの2つ目「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」について、ターゲットである「若者層（無関心層）」の意識変容を測ることが困難であったこと。

<実施主体による振り返り>

- 媒体属性から無関心層への発信を実現するのみならず、介護従事者からの好反響が大きく、媒体力が活きた取組ができたと感じた。媒体の性質上、記事を見た人の追跡調査を実施することが難しいため、記事を見た後の意識変容・行動変容をどう把握するかが今後の検討課題である。（1つ前の活動「C. anan特集『介護の現場でかなえる、私らしい働き方』」と同様の振り返り内容。）

## E. anan×POPEYE オリジナル冊子作成

### <概要>

「anan のタイアップ記事 8 記事」と「POPEYE のタイアップ記事 8 記事」を 1 冊にまとめたオリジナル冊子<sup>24</sup>を制作。anan FESや展示会の参加者に加え、全国の書店で若年層にターゲットを絞ったサンプリングを実施。

ターゲットは「若年層」、アプローチ方法は「冊子」「イベント」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	冊子配布数 (イベント配布分)	• 1,000部	• <u>1,000部 (目標±0)</u> ➤ イベント「ケアするしごと展」の会場である渋谷ストリームで配布。
2	冊子配布数 (書店配布分)	• 10,000部	• <u>10,000部 (目標±0)</u> ➤ 全国の31書店で配布。

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

2点目のアウトカムについては、冊子読者の追跡調査が困難であったため定量的な効果測定ができなかった。ただし、前述のCおよびDの活動（anan特集・POPEYE特集）と同様、介護従事者から本取組に対する好反響を多数取得している。

#### (課題点)

- ✓ アウトカムの2つ目「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」について、ターゲットである「若者層（無関心層）」の意識変容の測定が困難であったこと。

### <実施主体による振り返り>

- 介護の仕事の特集のみを抜き出した合本冊子のため、増刷依頼を多方面から受けている。

<sup>24</sup> 活動CおよびD（anan特集「介護の現場でかなえる、私らしい働き方」、POPEYE特集「福祉ってこういうことだったんだ。」）の特集を合本したもの

## F. こここ連載「自分らしく生きる」を支えるしごと～介護の世界を訪ねて～」

### <概要>

WEBマガジン「こここ」にて、福祉・介護の現場やそれに関わる人、当事者の連載記事を発信。ターゲットは「若年層」、アプローチ方法は「WEB記事」である。

### <アウトプット>

WEBのPV合計数は、目標の12万～15万PVに対し、96,824PVとなっている。<sup>25</sup>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	WEB記事PV数	• 120,000～150,000PV (記事15本の合計)	• 本報告書執筆時点では測定途中 ※13本目までの合計は96,824PV

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事への理解を深める人が増える」の2点である。なお、前者の測定結果についてはアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

後者については記事閲覧者の追跡調査が困難であったため、アウトカムの測定を行うことができなかった。

#### (課題点)

- ✓ アウトカムの2つ目「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」について、ターゲットである「若者層（無関心層）」の意識変容の測定が困難であったこと。

### <実施主体による振り返り>

- 媒体の性質上、記事を見た人の追跡調査を実施することが難しいため、記事を見た後の意識変容・行動変容をどう把握するかが今後の検討課題である。

<sup>25</sup> 令和6年2月末現在、Vol.15のうちのvol.13まで実施

## G. こここ×日本仕事百貨イベント「ケアするしごとバー」

### <概要ターゲット>

日本仕事百貨のイベント「しごとバー」と「こここ」のコラボイベント。リアルとオンラインのハイブリットで、5ヶ月連続開催した。ターゲットは「若年層（無関心層）」、アプローチ方法は「イベント（対面・オンライン）」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	参加者数（対面）	• 50～100人（5回計）	• 計71人（目標範囲内）
2	参加者数（オンライン）	• 500～1,000人（5回計）	• 計168人（目標範囲内）

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の2点である。なお、前者の測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	イベント参加者の介護の仕事に対する印象の変容	• イベント参加者アンケート（n=48）	• イベント参加前後での「介護のしごとに対する印象」を10段階で選択する方式で測定。参加後は参加前に比べて、平均値が1.96（介護福祉事業者を除くと2.29）ポイント上昇した。

また、アウトカムの中に「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」は含まれていないが、「ゲストの話聞いてどう感じましたか？」という質問について、回答者のうち27.5%が「介護のしごとに興味を持った」、35.3%が「介護のしごとについてもっと知りたいと思った」、13.7%の人が「自身の仕事として検討してみたいと思った」と答えた。

(課題点)

✓ 特になし。

### <実施主体による振り返り>

- 無関心層を対象にしたイベントのため、オンライン参加人数が予測不能であり、当初の目標を下回る結果となった。

## H. 交通広告

### <概要>

本活動は令和6年能登半島地震の影響によりテレビ番組での放映予定がなくなったため、交通広告へ変更したものである。

鉄道の交通広告枠を活用した情報発信であり、最終的な誘導先を「こここ」のWEBサイトとした。令和6年3月11日～17日に都営地下鉄線（浅草線、三田線、新宿線、大江戸線）、令和6年3月11日～24日にゆりかもめで動画を配信した。

ターゲットは「若年層（無関心層）」、アプローチ方法は「交通広告（動画放映）」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	CM映像接触者数	・ 設定なし	・ 本報告書執筆時点では未確定 (令和6年3月末までに確定見込み)

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の2点である。なお、前者の測定結果についてはアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	動画視聴者の介護の仕事に対する印象の変容	・ WEBアンケート調査 (n=1,000)	・ 本報告書執筆時点では未確定 (令和6年3月末までに確定見込み)

(課題点)

✓ 特になし。

### <実施主体による振り返り>

- ・ 令和6年能登半島地震の影響で当初予定していたテレビ広告が実施できなくなったが、交通広告に切り替えることで一定のアウトプットを維持できたと考えられる。

### ③(株)楽天グループ

#### A. WEBポータルサイトおよび動画コンテンツによる情報発信

「生き方に、寄り添うしごと “介護のしごと”」

##### <概要>

魅力発信等事業の情報を集約したポータルサイトを作成。ターゲットごとにページと訴求内容を分けて、情報を発信した。また、介護に対する理解促進と行動変容を目的とし、重点ターゲット（若年層、子育てを終えた層、転職・就職活動中の者、保護者・教員）に合わせた4種の動画を制作。4回に分けてWEBページ上にアップロードした。

ターゲットは「若年層」「子育てを終えた層」「転職・就活中の者」「保護者・教員」、アプローチ方法は「WEBサイト」および「WEB動画配信 (YouTube)」である。

##### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	記事PV数	• 500,000PV	• <u>1,814,414PV (目標+1,314,414PV)</u> (令和6年3月1日時点)
2	動画再生回数	• 1,000,000回	• <u>2,104,524回 (目標+1,104,524回)</u> (令和6年3月1日時点) ➤ 若年層向け：479,142回 ➤ 子育てを終えた層向け：592,353回 ➤ 転職・就活中の者向け：481,758回 ➤ 保護者・教員向け：551,271回

なお、ポータルサイト内に掲載された記事（介護職本人や介護職を目指す学生の声などを紹介する記事、計4本）がクリックされた回数はいずれの記事でも3,000回程度、各記事への滞在時間は約2分～2分半程度である。

また、介護の仕事の内容に関するFAQコーナーでは、「給与水準」に関する内容が約6千回ともっとも多くクリックされており、次いで「体力」や「離職率」が関心を集めていた。また、全国民を対象とした広告配信における検証でも「給与水準」のバナーをもっともクリック効率が高い結果となった。

表 1 FAQコーナーのアクセス解析結果

項目名	クリック数	閲覧者に関する分析結果
給与水準、実際どうなの？	5,997	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 25-34歳の層が多くを占める。</li> <li>✓ 65歳以上の滞在時間が一番長く、シニア層の興味関心が高い傾向がある。</li> <li>✓ 男女比、および性別別の滞在時間は概ね、1:1の割合となる。</li> </ul>
体力が心配。実際どうなの？	3,768	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 45-54歳の層が多くを占める</li> <li>✓ 35-44歳の滞在時間が一番長い、一分以上の長い滞在には繋がらなかった。</li> <li>✓ 女性の訪問者が多い結果となったが、滞在時間は30秒弱と性別差は無い。</li> </ul>
離職率、実際どうなの？	2,826	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 25-54歳の層が多くを占める。</li> <li>✓ 若者のPV数は少ないが、18-24歳の滞在時間が一番長かった。</li> <li>✓ 女性の方が多く、滞在時間に差はないが、平均滞在時間が長い傾向がある。</li> </ul>
ワークライフバランス、実際どうなの？	2,118	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 25-34歳の層が多くを占める。</li> <li>✓ 若者のPV数は少ないが、18-24歳の滞在時間が一番長かった。</li> <li>✓ 女性の訪問者が多い結果となったが、滞在時間は男性の方が長い傾向がある</li> </ul>
業界の安定感、実際どうなの？	1,731	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 35-44歳の層が多くを占める。</li> <li>✓ 65歳以上の滞在時間が一番長い、概ね滞在時間に差は無い傾向がある。</li> <li>✓ 男女比は1:1の割合となり、滞在時間は男性の方が長い傾向がある。</li> </ul>
最新技術活用、実際どうなの？	1,281	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 年齢は全体的に偏りがなく、18-24歳の若者層の割合がもっとも高い。</li> <li>✓ 35-44歳の滞在時間が一番長い傾向がある。</li> <li>✓ 女性の方が多く、滞在時間に関しても女性の方が長い傾向がある。</li> </ul>

## <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」および「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「介護の仕事への理解を深める人が増える」「福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の4点である。なお、1点目のアウトカムの測定結果についてはアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	事前/事後調査における介護仕事の認知度・理解度に対する意識の差	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インターネットでの施策展開（11月以降）の事前調査と事後調査（目標+5ポイント）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認知・理解の事前事後調査の差分：マイナス3.5ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事前：「認知・理解している」84.4%</li> <li>➢ 事後：「認知・理解している」80.9%</li> </ul> </li> </ul>
2	施策接触者/非接触者間での介護の仕事の魅力度に対する意識の差	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インターネットでの施策展開後（11月以降）の事後調査<sup>26</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施策接触者と非接触者の介護の仕事に対する魅力度の差分：マイナス19.7ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 施策接触者：「魅力的である」24.9%</li> <li>➢ 施策非接触者：「魅力的である」5.2%</li> </ul> </li> </ul>

<sup>26</sup> 事後調査の時点で、楽天グループ株式会社が実施した一連の施策に接触したことがあるかを質問した。その時点で既に楽天グループ株式会社の施策に接触した経験がある人を「接触者」、それ以外を「非接触者」と区別している。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
3	動画視聴前後での介護の仕事の魅力度に対する意識の変容	・ 同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策接触者の動画視聴前後の差分： プラス14.1ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 動画視聴前：「魅力的である」24.9%</li> <li>➢ 動画視聴後：「魅力的である」39.0%</li> </ul> </li> <li>・ 施策非接触者の動画視聴前後の差分： プラス12.1ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 動画視聴前：「魅力的である」5.2%</li> <li>➢ 動画視聴後：「魅力的である」17.3%</li> </ul> </li> </ul>
4	施策接触者の介護の仕事に対する意識変容・行動変容	・ 同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策接触者（n=643）の行動変容 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 介護の仕事を調べた。（17.6%）</li> <li>➢ 介護事業者のホームページにアクセスした。（12.4%）</li> <li>➢ 介護事業者に資料請求した。（5.4%）</li> </ul> </li> </ul>
5	施策接触者の介護の仕事の魅力度に対する意識の変容	・ インターネットでの施策展開（11月以降）の事前調査と事後調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ターゲット層の施策接触事前事後の差分： マイナス1.0ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 施策接触前：「魅力的である」11.5%</li> <li>➢ 施策接触後：「魅力的である」10.5%</li> </ul> </li> </ul>

(課題点)

✓ 特になし。

### <実施主体による振り返り>

- ・ 月初などの他の広告が集中する時期を避けたことで、他の広告に埋もれないよう情報を届けることができた結果、アウトプットを大きくできた。
- ・ 動画の再生数に比して高評価数は伸び悩む結果となった。その要因としては、高評価ボタンを押す傾向が高い若年層より年配の方が動画視聴者に占める割合が多かったこと、YouTubeチャンネルに対する固定ファン層がいなかったことが考えられる。
- ・ アウトカム#1（事前/事後調査における介護仕事の認知度・理解度に対する意識の差）について、因果関係は特定できていないが事前調査と事後調査の間に、介護に関するネガティブな報道があったことが差分要因の一部の可能性が考えられる。
- ・ アウトカム#4（施策接触者の介護の仕事に対する意識変容・行動変容）について、施策接触者の意識変容だけではなく、一定の行動変容についても把握することができたこと自体が成果と考えられる。
- ・ アウトカム#5（施策接触者の介護の仕事の魅力度に対する意識の変容）について、施策接触前後でマイナスの結果となった要因について、因果関係を特定できていないため基本的には不明であるが、事前調査と事後調査の間に、介護に関するネガティブな報道があったことが要因の一部の可能性が考えられる。



## B. 楽天みんな就とのタイアップ企画「介護のしごと体験記」

### <概要>

学生モニターによる介護施設の取材・職業体験を記事にし、就活口コミサイト「みんな就」に掲載。インフルエンサーからの発信も行い、SNSでの話題喚起も実施。

ターゲットは「若年層」、アプローチ方法は「WEBサイト」および「SNS」である。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	特集サイトPV数	• 30,000PV	• <u>31,010PV (目標+1,010PV)</u> (令和6年3月1日時点)

### <アウトカム>

本活動にて目指していたアウトカムは「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」である。本アウトカムの測定結果はアウトプットに関する記載と同様であるため割愛する。

(課題点)

✓ 特になし。

### <実施主体による振り返り>

- 目標自体を他の就活生向けサイトの平均的なPV数よりも高く設定していたにもかかわらず、目標の数値を達成できた点は成果と考えている。
- サイトにアクセスした人に対して、ログの分析・公表に関する許可を取る仕様にしていなかった結果、アウトカム分析ができなかった点は今後の課題である。

## C. 情報発信に係る効果検証（インターネット調査）

### <実施概要>

楽天グループ株式会社による情報発信事業の広報ターゲット層の「介護のしごとに関する意識・態度」の現状および変容把握と、広報施策の評価確認を目的としたインターネット調査を実施した。

アンケートでは、介護の仕事のイメージや認知度、就職意向、教員等の応援意向等について調査した。

### <アウトプット>

No.	アウトプット指標	当初の想定・目標	実際の結果
1	アンケート回収数	<ul style="list-style-type: none"><li>事前調査：800ss</li><li>事後調査：800ss</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>事前調査：1,700ss（目標+900ss） ※スクリーニング前50,803ss</li><li>事後調査：1,900ss（目標+1,100ss） ※スクリーニング前71,560ss</li></ul>

### <アウトカム>

本活動は情報発信を行うものではなく、アウトカムは「魅力発信施策を検討する第三者に向けた知見の共有」および「活動A（WEBポータルサイトおよび動画コンテンツによる情報発信『生き方に、寄り添うしごと“介護のしごと”』）・B（楽天みんな就とのタイアップ企画『介護のしごと体験記』）のアウトカムの測定」の2点である。

No.	アウトカム指標	測定方法	測定結果
1	魅力発信施策を検討する第三者に向けて知見を共有すること	<ul style="list-style-type: none"><li>事業報告書の公表ステータスの把握</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>今後公表見込み<sup>27</sup> （本事業の報告書執筆時点では測定不可）</li></ul>
2	活動A・Bのアウトカムを測定すること	<ul style="list-style-type: none"><li>活動A・Bのアウトカム評価実施状況の把握</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>測定完了 （詳細は活動A・Bの項目を参照）</li></ul>

（課題点）

✓ 特になし。

### <実施主体による振り返り>

- 特になし。活動A・Bのアウトカムの測定結果については、各活動の詳細を記載したページ（p.74, 77）を参照のこと。

<sup>27</sup> 楽天グループ(株)または厚生労働省のホームページにて公開される見込みである。

### 3. 国事業の実施主体に対する助言

令和5年度国事業（情報発信事業）の実施主体に対して、事業の効果評価を実施する際のポイントや効果評価を依頼している背景を伝えた。各実施主体に対して説明した内容は図表75、図表76のとおりである。

なお、各実施主体とのコミュニケーションは令和5年9月ごろに実施したため、主に9月以降に実施された活動について、可能な範囲でこれらのポイントを取り入れて効果評価を行うよう依頼した。

また令和6年3月頃に令和5年度国事業（情報発信事業）の実施主体との打合せの機会を設け、事業の効果評価の実施状況についてヒアリングするとともに、効果評価の結果の整理の仕方などについて助言を行った。

図表 75 効果評価を実施する際のポイント

## 効果評価を実施する際のポイント

### ①価値判断の基準を設定すること

- 効果評価の指標だけでなく、目標の達成度合いを判断するための価値判断の基準を設定することが望ましいとされています。

（価値判断基準の例）

- ✓ イベントの効果測定する際に、「イベントに参加者のうち、70%以上の人が『イベントによって介護の仕事に対する関心が高まった』と回答すること」を目標（価値判断基準）として設定した。
- ✓ 広告の効果測定する際に、「広告接触者のうち介護への関心が高い人の割合（%）が、広告非接触者よりも20ポイント以上高いこと」を目標（価値判断基準）として設定した。  
（広告接触者の介護への関心の高さが広告接触による効果なのかを判断するため、広告接触前の状態も調査することが望ましい）

### ②対照群の設定や前後比較の実施

- 活動の成果を正確に測るためには、コンテンツ接触前後での比較や、対照群（イベントに参加していない人や、コンテンツに接触していない人など）との比較を行うなど、「本当に今回の活動による効果なのか」が分かる方法で効果評価を行うことが望ましいとされています。

（調査手法の例）

- ✓ イベントに参加した人と参加していない人の両方にアンケートを実施し、回答結果を比較する。
- ✓ イベント参加者に対して、イベント参加前後でアンケートを実施し、回答結果を比較する。  
（事後アンケートのみの場合、「イベント参加によって介護の仕事への関心が高まったか」という質問にするなど、活動による効果なのか特定できるような工夫を行う。）

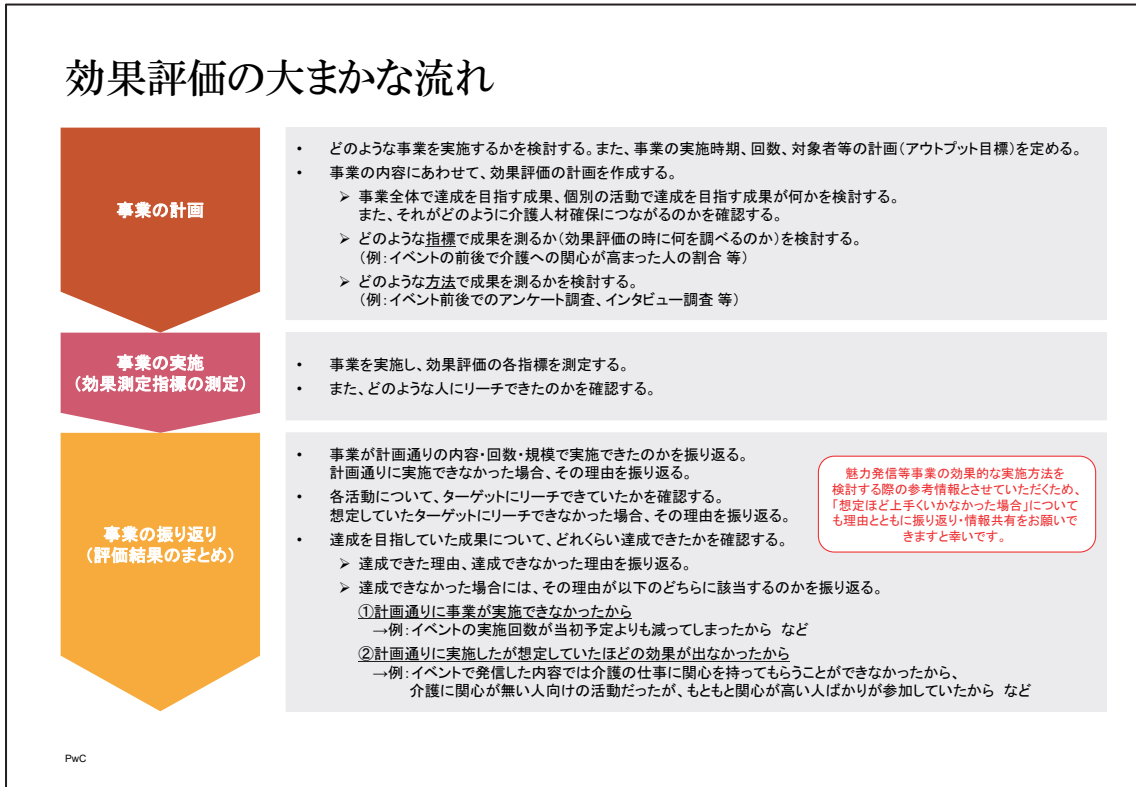
### ③ターゲットに対するリーチ度合いの測定

- 活動の振り返り際には「狙ったターゲットに対してアプローチができていたかどうか」や「ターゲットの母集団のうちどれくらいの人にアプローチできていたか」を確認することが望ましいとされています

（確認手法の例）

- ✓ 「介護に関心を持っていなかった人に新たに関心を持ってもらうこと」が目的のイベントにおいて、参加者の介護への関心有無（イベント申込時）をアンケート等で把握し、介護に関心を持っていなかった人が参加していたかどうかを確認する。  
（イベント参加後ではなく、イベント参加前の状況を把握することが重要です。）

図表 76 効果評価の大まかな流れ



## IV. 都道府県事業における評価のための基盤作り（手引きの作成）

---

本章では、都道府県が地域医療介護総合確保基金事業<sup>28</sup>（以下、「都道府県事業」とも記載する）を実施する上での基盤作りとして「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き～都道府県事業における評価・ロジックモデルの活かし方～」（以下、「手引き」）の作成について述べる。

### 1. 手引き作成の背景と目的

令和4年度に実施した「介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」（以下「令和4年度調査研究」）では、地域医療介護総合確保基金の令和3年度事業計画（47都道府県分）のうち「参入促進」に係る事業を対象として、アウトカム指標やアウトプット指標の調査を行った<sup>29</sup>。

調査の結果、「判断基準（定量的な目標値）が設定されていない」「アウトプット/アウトカムではない指標を設定している」「事業内容にかかわらず、アウトカムを介護分野への就労人数とする傾向にある」など、評価指標の設定や評価指標に基づく効果測定を十分に行っていない都道府県事業が散見された。そのため、令和4年度調査研究の事業報告書では「都道府県職員がプログラム評価やロジックモデルの考え方を学び、事業評価について理解を深めることのできる機会を増やすことが望ましい。」との提言がなされている。

令和4年度調査研究でも述べられているように、魅力発信等事業は継続的に実施していくことで効果が望める性質の事業だといえる。事業を継続しながら施策および事業内容をより効果的なものへと改善していくためには、事業が目指す成果とその達成指標や判断基準を適切に定め、実際の実施結果・測定結果と照らし合わせながら事業を振り返り、改善点等を洗い出すことが望ましい。この一連の動作が、事業評価の考え方である。

上記を踏まえ、都道府県における評価基盤を整えることを目的として、都道府県職員が事業評価の基礎的な知識について理解を深める際の拠り所となるような「手引き」を作成することとした。

---

<sup>28</sup> 地域医療介護総合確保基金事業は、平成26年度に設置された消費税増収分等を活用した財政支援制度。7つの対象事業があるうち、「V 介護従事者の確保に関する事業」について調査した。

<sup>29</sup> 令和4年度調査研究では、アウトプット指標、アウトカム指標以外にも事業内容・事業ターゲットの内訳や事業予算規模についても調査・分析を行った。報告書は以下のPwCのHPに掲載されている。

(<https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/track-record/assets/pdf/health-promotion-business2023-01.pdf>)

(最終閲覧：令和6年3月27日)

## 2. 手引きの概要

今年度事業において作成した手引きの概要は以下のとおり。

図表 77 手引きの概要

項目	内容
想定読者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護人材確保分野（特に魅力発信等事業）に関わる自治体職員</li><li>・ 役職としては、事業担当職員（主査級）の方から介護人材確保対策全般の統括役（課長級）の方まで幅広い読者を想定</li></ul>
目指す成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 読者に「評価がなぜ大切なのか、何に役立つのか」を理解してもらうこと（詳細は「3. 手引き作成のプロセスと工夫」で記載）</li><li>・ 読者が直接アウトカム、中間アウトカム、最終アウトカムという段階的なアウトカムの考え方を理解できるようになること</li></ul>
タイトル	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き ～都道府県事業における評価・ロジックモデルの活かし方～</li></ul>
章立て	<ol style="list-style-type: none"><li>4. はじめに：都道府県事業の成功のかぎ</li><li>5. 事業の設計段階から役に立つ「評価」という方法論</li><li>6. 事業の進行フェーズごとの「やることリスト」</li></ol>

## 3. 手引き作成のプロセスと工夫

はじめに事務局で企画案と企画案に基づく手引きの案を作成し、計7回の会議（研究会4回・WG3回）およびメールでのやりとりで委員・厚生労働省との相談を重ね、段階的に更新をかけた。以下では、手引きが目指す成果や想定読者の設定、届け方の工夫について述べる。

### <手引きが目指す成果の設定と成果を達成するための工夫>

評価分析事業では「自治体職員が評価の知識を身に付け、目標に対して適切なアウトプット/アウトカムを設定し、妥当な評価デザインを設計できるようになること」を都道府県に向けた取組の最終目標としている。しかし、令和4年度調査研究によって都道府県によって取組状況が大きく異なることが判明したため、今年度の活動のみで上記目標を達成することは難しいことが想定された。

そのため今年度作成する手引きが目指す成果として、

- (1) 読者が、評価はなぜ大切なのか、何に役立つのかを理解すること
- (2) 読者が、直接アウトカム、中間アウトカム、最終アウトカムという段階的なアウトカムの考え方を理解すること

の2点を設定した。

上記の成果を達成するため、用語中心に語ることを避け、専門的な用語を平易な言葉に書き下すなどの工夫を行った。また評価の考え方を解説するにあたり、介護の仕事の魅力発信というテーマに沿った具体例などを記載したことも一般的に市販されている事業評価の手順書と比較した際の特徴といえる。

### <想定読者の設定と想定読者に合った内容とするための工夫>

本章では、都道府県が地域医療介護総合確保基金事業（以下、「都道府県事業」とも記載する）を実施する上での基盤作りとして「介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き～都道府県事業における評価・ロジックモデルの活かし方～」（以下、「手引き」）の作成について述べる。

1. 手引き作成の背景と目的」で記したように、手引きは都道府県における評価基盤を整えることを目的としている。そのため、主な想定読者として自治体職員を想定した。

自治体職員にとって分かりやすい内容とするための工夫として、作成過程で都道府県職員へのヒアリングを行ったことが挙げられる。過年度の介護のしごと魅力発信等事業において関わりのあった都道府県の職員数名に手引きの企画案を説明した上でヒアリングを行ってフィードバックをいただき、自治体職員にとっての分かりやすさを向上させるためのヒントを得た。具体的には、自治体職員の事業評価への理解度を踏まえた難易度設定や、自治体にとって役立つ情報・要素について相談をした。さらに、このヒアリング内容をインプットとして、事業評価に取り組む都道府県の事例について「ロジックモデルの活用」「評価への予算配分」「事業者とのコミュニケーション」「効果測定の大切さへの実感」という観点でまとめ、コラムとして掲載した。コラムを読んだ読者が必要に応じて当該自治体に連絡をとり、相談等ができるよう、コラムの題材とした都道府県名を明記している。

加えて、三重県で開催したロジックモデル作成支援イベント（「4. 令和5年度 事業間連携等事業内での手引きの活用と改善」で後述）の中で手引き案を使用し、その際に県職員や社会福祉協議会職員の方から受けたフィードバックを反映した。

また、章立てのうち、実際の評価実施方法を解説するパートである3章は、事業の進行フェーズに沿って取りまとめ、自治体職員が実務に取り入れやすい構成としている。

### <届け方の工夫>

完成した手引きは、PwCコンサルティング合同会社のホームページにて公開予定である。手引きを自治体の方に知ってもらい、読んでいただくための工夫として、令和5年度「介護のしごと魅力発信等事業 事業間連携等事業」（以下「事業間連携等事業」）における「事業間連携会議」で、オブザーバー出席をしている都道府県向けに手引きを紹介した。

## 4. 令和5年度 事業間連携等事業内での手引きの活用と改善

「手引きを活用した都道府県事業における評価のための基盤作りを実践する場」および「手引きへの自治体視点からのフィードバックを得る場」として、今年度弊社が実施している事業間連携等事業にてロジックモデル作成支援イベントを実施した。

### <開催概要>

本イベントは、事業間連携等事業において令和5年9月1日に開催した「介護のしごと魅力発信サミット」（以下「サミット」）から発展した取組である。サミットの事後アンケートにおいて、延長イベントに参加希望を示した都道府県の中から、実施時期などを考慮し1都道府県（三重県）で開催することとした。開催概要は図表 78のとおり。

図表 78 自治体向けロジックモデル作成支援イベントの概要

目的	① 地域における介護人材確保のアウトカムとアウトカム達成の手段を明確にすること ② アウトカムの測定方法や達成の基準を定め、次につながる効果的な評価をできるようにすること。 ③ 今後、他地域で同様のワークショップを展開することを見据え、進め方のノウハウを蓄積すること。
参加者	・ 三重県庁職員3名（課長1名、班長1名、主査1名） ・ 三重県社会福祉協議会職員5名（課長1名、課長補佐1名、主任2名、主事1名）
開催日程	令和6年1月15日（月）13:00～17:00
開催方法	対面開催
会場	三重県 吉田山会館
実施自治体の考え方	魅力発信サミットの事後アンケートにおいて、延長イベントに参加希望を示した都道府県の中から1都道府県に協力を依頼した。

### <スケジュール>

具体的な当日のスケジュールは図表 79のとおり。冒頭、手引きの暫定版を用いてロジックモデルや評価デザイン、ロジックモデル作成時における留意点などを説明した上でロジックモデルの作成を行った。ロジックモデル作成に際しては、事務局（PwCコンサルティング合同会社）がファシリテーターを担った。意見交換の時間では、イベントへの感想や改善



点に加え、手引きの中で役立つと感じた内容や、理解しづらかった内容について聞き取りを行った。

図表 79 自治体向けロジックモデル作成支援イベントの当日スケジュール

時刻	概要	詳細	主な話し手
12:30	集合	—	—
12:30-13:00	挨拶・設営	—	PwC
13:00-13:30	導入	・ 弊社準備資料をもとに、参加者内でロジックモデル・評価デザインの内容や本日のゴールを説明し、認識を共有しました。	PwC
	現状のご確認	・ 貴県の介護保険事業計画等を参考に、貴県の介護のしごとをとりまく現状や目標、取組内容を確認しました。	PwC
13:30-14:30	ロジックモデル作成①	・ 最終アウトカム、中間アウトカム、直接アウトカムの合意を目指しました。各種アウトカムをどのような内容にすべきか、付箋などを使いながら参加者で話し合いました。	三重県様 三重県社協様
14:30-14:40	休憩	—	—
14:40-15:40	ロジックモデル作成②	・ 各種アウトカムの達成に必要な活動・アウトプットの合意を目指しました。アウトカム達成のためにどのような活動(事業)が考えられるか(新規・既存問わず)話し合いました。	三重県様 三重県社協様
15:40-15:50	休憩	—	—
15:50-16:50	評価デザイン作成	・ 合意した各種アウトカム・活動の①評価指標、②判断基準、③測定方法、④測定時期を整理・検討しました。(時間の都合上、最終アウトカム・中間アウトカムと、一部の直接アウトカムの評価デザインを検討の対象としました。	三重県様 三重県社協様
16:50-17:00	休憩	—	—
17:00-17:40	意見交換	・ 本日のイベントに参加して感じた改善点等に関する意見交換を行いました。	三重県様 三重県社協様 PwC
17:40-17:50	後片づけ	—	—
17:50	解散	—	—

### <参加者アンケート結果>

イベントの効果測定等を目的として、イベント参加者8名を対象にアンケート調査を実施した。手引きを活用したイベントへの需要等を考察するため、調査結果を以下のとおり掲載する。

#### 【事業実施に向けたモチベーションの高まり】

「イベントの参加により、「介護人材の参入促進」に係る事業の実施に向けたモチベーションが高まったか」について尋ねた結果、図表 80のとおり、「やや高まった」「とても高まった」が合わせて75.0%（6名）、残る2名は「あまり高まらなかった」と回答した。

図表 80 「介護人材の参入促進」に係る事業の実施に向けたモチベーションが高まったか

回答	回答数(人)	割合(%)
とても高まった	2	25%
やや高まった	4	50%
あまり高まらなかった	2	25%
全く高まらなかった	0	0%
全体	8	100%

### 【アウトカムへの理解】

「イベントの参加により、直接アウトカム・中間アウトカム・最終アウトカムの考え方を理解できたか」について尋ねた結果、図表 81のとおり、「とても理解できた」(62.5%。5名)がもっとも多く、「やや理解できた」(37.5%。3名)が続いた。

図表 81 直接アウトカム・中間アウトカム・最終アウトカムの考え方を理解したか

回答	回答数(人)	割合(%)
とても理解できた	5	62.5%
やや理解できた	3	37.5%
あまり理解できなかった	0	0.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
全体	8	100.0%

### 【施策目的に基づく活動への理解】

「イベントの参加により、施策目的に基づく活動とはどのようなものか(アウトカムから逆算した活動の考え方)を理解したか」について尋ねた結果、図表 82のとおり、「とても理解できた」および「やや理解できた」(各50.0%。4名)となった。

図表 82 施策目的に基づく活動とはどのようなものか理解したか

回答	回答数(人)	割合(%)
とても理解できた	4	50.0%
やや理解できた	4	50.0%
あまり理解できなかった	0	0.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
全体	8	100.0%

### 【評価デザインの仕方への理解】

「イベントへの参加を通して、評価デザインの仕方(①評価指標、②判断基準、③測定方法、④測定時期の設定)について理解したか」について尋ねた結果、図表 83のとおり、「やや理解できた」「とても理解できた」が合わせて75.0%(6名)、残る2名は「あまり理解できなかった」と回答した。

図表 83 評価デザインの仕方について理解したか

回答	回答数(人)	割合(%)
とても理解できた	2	25.0%
やや理解できた	4	50.0%
あまり理解できなかった	2	25.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
全体	8	100.0%

### 【知識の活用意向】

「今後、都道府県事業の仕様書を作成する際に、イベントで学んだ知識を部分的にでも取り入れたいと感じるか」について尋ねた結果、図表 84のとおり、「やや感じる」（75.0%、6名）がもっとも多く、「とても感じる」（25.0%、2名）が続いた。

図表 84 都道府県事業の仕様書を作成する際に、イベントで学んだ知識を部分的にでも取り入れたいと感じるか

回答	回答数(人)	割合(%)
とても感じる	2	25.0%
やや感じる	6	75.0%
あまり感じない	0	0.0%
全く感じない	0	0.0%
全体	8	100.0%

### 【「理解が難しい」と感じた内容】

イベントの中で、特に理解が難しいと感じた内容について尋ねた結果、図表 85のとおり、「最終/中間/直接アウトカムの設定」、「アウトプット指標、アウトカム指標の設定」、「判断基準の設定」（各50.0%、4名）の回答がもっとも多く、「ロジックモデルを策定したあとの活用方法」（37.5%、3名）が続いた。

図表 85 イベントの中で、特に理解が難しいと感じた内容（複数回答）

回答	回答数(人)	割合(%)
ロジックモデルを作成する意義	0	0.0%
ロジックモデル策定の一連の流れ・手順	0	0.0%
最終/中間/直接アウトカムの違い	1	12.5%
最終/中間/直接アウトカムの設定	4	50.0%
アウトカム達成のために必要な活動の設定	1	12.5%
アウトプットとアウトカムの違い	0	0.0%
アウトプット指標、アウトカム指標の設定	4	50.0%
評価指標と判断基準の違い	1	12.5%
判断基準の設定	4	50.0%
ロジックモデルを策定したあとの活用方法	3	37.5%
難しい内容はなかった	1	12.5%
その他	1	12.5%
全体	8	100.0%

### 【理解が難しいと感じた理由】

イベントの中で理解が難しいと感じた理由については、図表 86に抜粋したとおりである。

アウトカム評価基準の設定について、「中間/直接アウトカムの区別ができないため、アウトカムの設定が難しい」という意見や、「介護人材不足の将来を踏まえると、評価基準を設定するのが難しい」という回答が集まった。

また、ロジックモデル作成後の実践について、「進行役はプログラム評価の知識を身に付けている必要があるため、手引きだけでは実践までは難しいのではないか」や「ロジックモデル策定者が異動している可能性があり、実践まで繋げられるか分からない」などの回答が集まった。

図表 86 理解が難しいと感じた理由（自由記述）

<p><b>○アウトカムの設定について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終アウトカムはなんとなく決まるが、中間、直接アウトカムがどちらなのか判断が難しい。</li> <li>・設定したアウトカムで「ほんとうに最終アウトカムが実現できるのか？」と考えると何層にもなる。</li> <li>・最終アウトカムは介護人材の解消に〇〇したが、魅力発信事業に〇〇何人貢献できるか、区別できたのが良かった。</li> </ul> <p><b>○評価基準について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の判断基準の測定方法にバリエーションが少ない。</li> <li>・介護人材不足の状況は今後ますます悪化してくると考えられるため、判断基準を設定するのが難しい。</li> </ul> <p><b>○自治体内でのロジックモデル作成・実践について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PwC様がスムーズに進行して下さったが、進行役にはプログラム評価への知識が必要であり、色々な場面でマニュアルを用いて即使えるかというところはどうだろうか？</li> <li>・魅力発信事業は遠い将来に向けて実施する性質であり、PDCAを回すにしろ、ロジックモデル策定者は異動している可能性が考えられる。</li> <li>・評価をすること事態が難しいため、概念としては分かるが、実践が難しいと思った。</li> <li>・出たアイデアや意見が、どう動いて、どう関連するのか、理解が追いつけなかった。</li> </ul>
---

### 【「役に立つ」と感じた内容】

イベントの中で、特に役立ちそうだと感じた内容について尋ねた結果、図表 87のとおり、「ロジックモデル策定の一連の流れ・手順」（75.0%。6名）がもっとも多く、「最終/中間/直接アウトカムの設定」（25.0%。2名）が続いた。

図表 87 イベントの中で、特に役立ちそうだと感じたのはどの内容か（複数回答）

回答	回答数(人)	割合(%)
ロジックモデルを作成する意義	1	12.5%
ロジックモデル策定の一連の流れ・手順	6	75.0%
最終/中間/直接アウトカムの違い	1	12.5%
最終/中間/直接アウトカムの設定	2	25.0%
アウトカム達成のために必要な活動の設定	1	12.5%
アウトプットとアウトカムの違い	0	0.0%
アウトプット指標、アウトカム指標の設定	2	25.0%
評価指標と判断基準の違い	0	0.0%
判断基準の設定	1	12.5%
ロジックモデルを策定したあとの活用方法	0	0.0%
役立ちそうだと感じた内容はなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	12.5%
全体	8	100.0%

## 【その他意見・感想】

ロジックモデル作成支援イベントの内容・運営検討につながる意見や感想は図表 88に抜粋したとおり。

図表 88 ロジックモデル作成支援イベントに関する主な意見・感想（自由記述）

- ・これを自分たちでもやりたいが、ファシリ、まとめ役がとてできるとは思えないと感じた。一方、県社協は事業(活動)ありきのため、最終アウトカムからの逆算が難しい。
- ・本日のイベントを通して仕様書作成に活かしたい。

意見交換のパートでは「都道府県では様々な人材確保事業に取り組んでいる中、各事業が互いにどう結び付いているのか、積みあがっているのかを体系的に整理できた」といった声があった。特に予算要求時、財政当局へ事業の必要性や期待される効果を説明する際に活用できるとの見方が示された。また「実際に評価を行うことで事業の改善にもつながると思う」といった趣旨の意見も聞かれた。こういったイベント形式での支援は、自治体職員にとってその後実際の実務に活かせる見込みがあるという点で、一定の需要があると考えられる。

「図表 86 理解が難しいと感じた理由（自由記述）」や「図表 88 ロジックモデル作成支援イベントに関する主な意見・感想（自由記述）」の回答内容からは、ロジックモデル作成を通じて課題整理や事業計画の検討を行う場合、ファシリテーターがプログラム評価の知識を身に着けている必要があるため、自治体が独力で取り組むハードルは高いことが窺われる。

## V. まとめ・考察

### 1. 国事業について（継続して実施すべき点と次年度以降に向けた改善点）

#### （1）国事業の実施目的（アウトカム）

魅力発信等事業は国の介護人材確保施策の一環として実施される事業であり、介護人材確保施策の中で「介護の仕事に魅力を感じる人を増やす」という役割を担うものである。そのため、魅力発信等事業全体としての最終目的（最終アウトカム）は、次ページのロジックモデルに示すように「職業選択の際に介護の仕事が一つの選択肢になること」であると考えられる。

また、本事業において実施したアンケート調査では、「介護の仕事が就職先として魅力的だと思う」と回答した人の割合は学生で19.0%、保護者では8.4%に留まっていることから、介護の仕事のイメージ向上は介護人材確保を推進する上での継続的に取り組むべき重要な課題である。

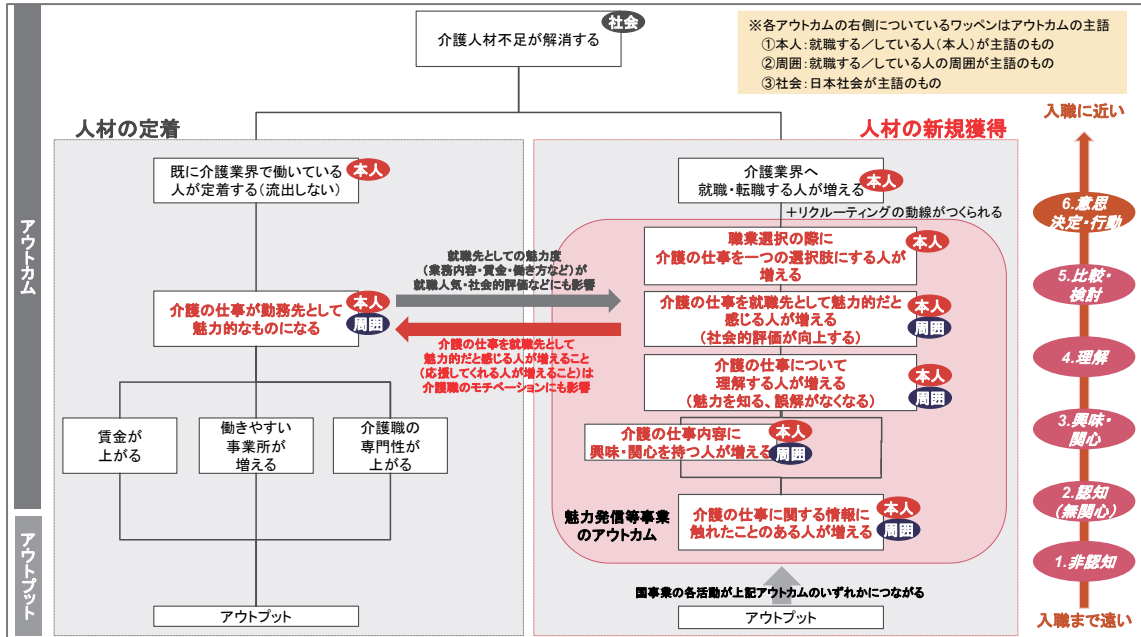
なお、このロジックモデルでは、「介護の仕事について理解すること」が「介護の仕事が就職先候補の一つにすること」につながると示しているが、実際には介護の仕事を理解した人全員が介護の仕事が就職先候補の一つに入れるわけではなく、介護の仕事の内容や勤務状況などを総合的に加味した上で他の業界を就職先候補とする（介護の仕事は就職先候補にしない）ということも想定される。就職先選定にあたっては殆どの方が他業界との比較を行うため、介護業界への入職者を増やすためには魅力発信だけでなく、介護の仕事自体の就職先としての魅力を向上させること（ロジックモデルの左半分に係る取組の実施）も重要である。

魅力発信等事業を実施する必要性および魅力発信等事業において発信すべき内容を検討するにあたって、令和5年に放送されたテレビ番組を調査したところ、発信されている情報は必ずしもネガティブな内容ばかりではなく、ポジティブな内容も多かった。しかし、一見するとポジティブな内容を発信している番組であっても、一般的に介護業界が抱えているとされている課題（介護人材不足や低賃金など）を前提とした内容になっているものが多い。このように介護業界のネガティブなイメージを前提とした情報発信がなされていることは、介護の仕事の魅力の向上の妨げになっている可能性があるといえる。また、介護する側に焦点を当てた内容の番組では、「在宅介護」「介護離職」「認知症介護」「ヤングケアラー」といったテーマが取り上げられていることが多く、ポジティブな内容のものは少なかった。これらのことを踏まえると、介護人材不足を解消していくためには、魅力発信等事業において介護の仕事に関する魅力発信・イメージ向上を継続的に実施する必要があるといえる。

<国事業のロジックモデル>

国事業のロジックモデルは次のように整理できる。なお、国事業では各実施主体が行う活動によってアウトカムが異なるため、本ロジックモデルはアウトカムに焦点を当てて作成している。

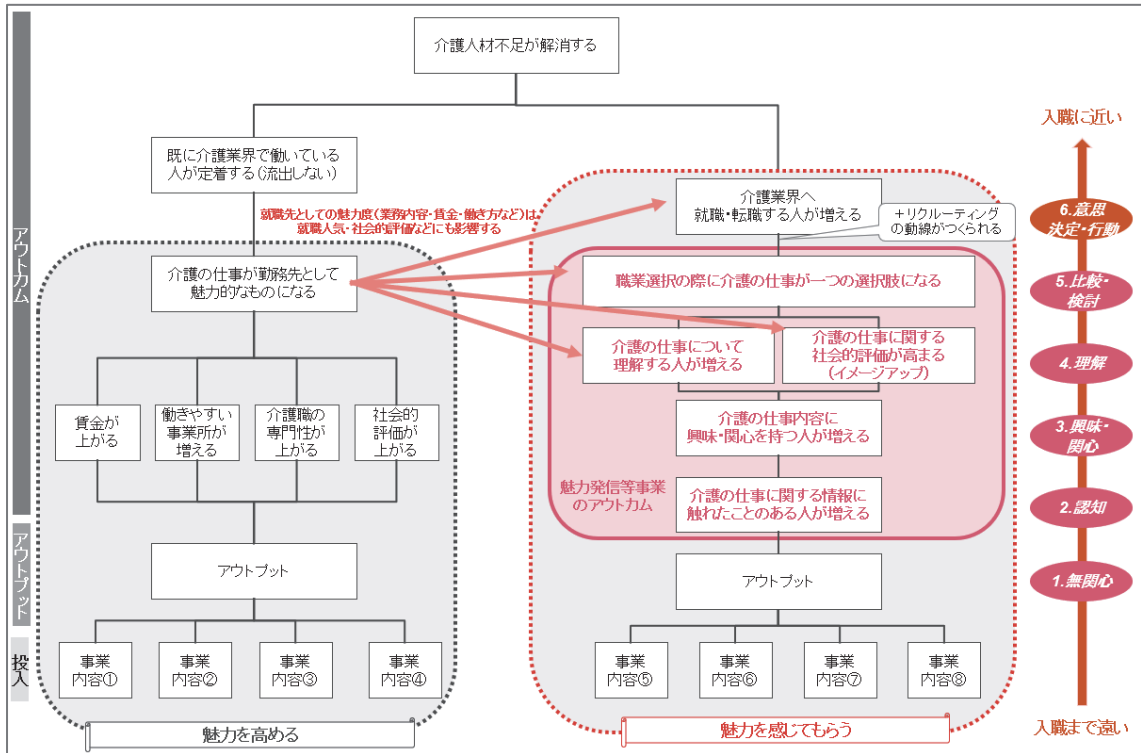
図表 89 介護人材確保に係るロジックモデル（令和5年度版）  
（令和4年度版からの更新点は図表 90に記載）



図表 90 令和4年度版ロジックモデルからの更新点

- 各アウトカムの主語が分かるよう、主語を表現するワッペンを追加した。
- 国事業の各活動とアウトカムの関連性について追記した。
- ロジックモデルの左側（人材の定着）と右側（人材の新規獲得）の関係性に一部追記を行った。
- 「社会的評価が高まる」というアウトカムを具体化し、「介護の仕事を就職先として魅力的だと感じる人が増える（＝魅力を知る、誤解がなくなる）」に変更した。
- 介護に対する情報に触れることでネガティブイメージが払拭されるようなケースの場合、「興味・関心を持つこと」は就職先として魅力的だと感じるための必須条件にはならない可能性があるため、「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」と「介護の仕事を就職先として魅力的だと感じる人が増える（＝魅力を知る、誤解がなくなる）」を直接つなぐ線を追加した。

図表 91 参考：介護人材確保に係るロジックモデル（令和4年度版）





## (2) 国事業の内容

### ① ターゲット設定

#### A. ターゲット設定の前提となる考え方

魅力発信等事業全体の最終アウトカムは「職業選択の際に介護の仕事が一つの選択肢になること」であるが、魅力発信等事業内で実施する各活動のアウトカムは、当該活動がターゲットとする人物が介護の仕事についてどのように認識しているか、介護の仕事との接点を持っているか否か、などを踏まえて個別に設定することが望ましい。

なお、下記図表 92のとおり、ある人物が介護の仕事に対してどのような認識・接点を持っているのかは、「①介護の仕事を知っていない段階」から「⑥介護業界への入職の意思を固めている段階」までの6つに大別できるため、これらを意識したアプローチを実施することが有効だと考えられる。

今年度の魅力発信等事業（情報発信事業）の事業目的は「イベント、テレビ、WEB等を活かした取組等を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること」であり、「①介護の仕事を知っていない段階」と「②介護の仕事を知っているが無関心な段階」がメインターゲットとなる。

活動の成果を確実に出すためには、ターゲット層によってコンテンツを変えることはもちろん、各ターゲット層の特徴（介護の仕事への関心度合いなど）を踏まえながら発信方法や使用媒体を検討することが重要である。

なお、魅力発信等事業のターゲットには「介護の仕事に就く可能性のある本人」だけでなく「介護の仕事に就く可能性のある人物の周囲の人々（保護者や教職員など）」も含まれる。前頁のロジックモデル内に掲載している中間アウトカムのうち、「介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「介護の仕事への理解する人が増える」「介護の仕事に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」については、就職する本人と周囲の両方に関するアウトカムであるが、「職業選択の際に介護の仕事が1つの選択肢になる」および「介護業界へ就職・転職する人が増える」は就職する本人のみに関するアウトカムである。

図表 92 介護の仕事に対する認識・接点の段階

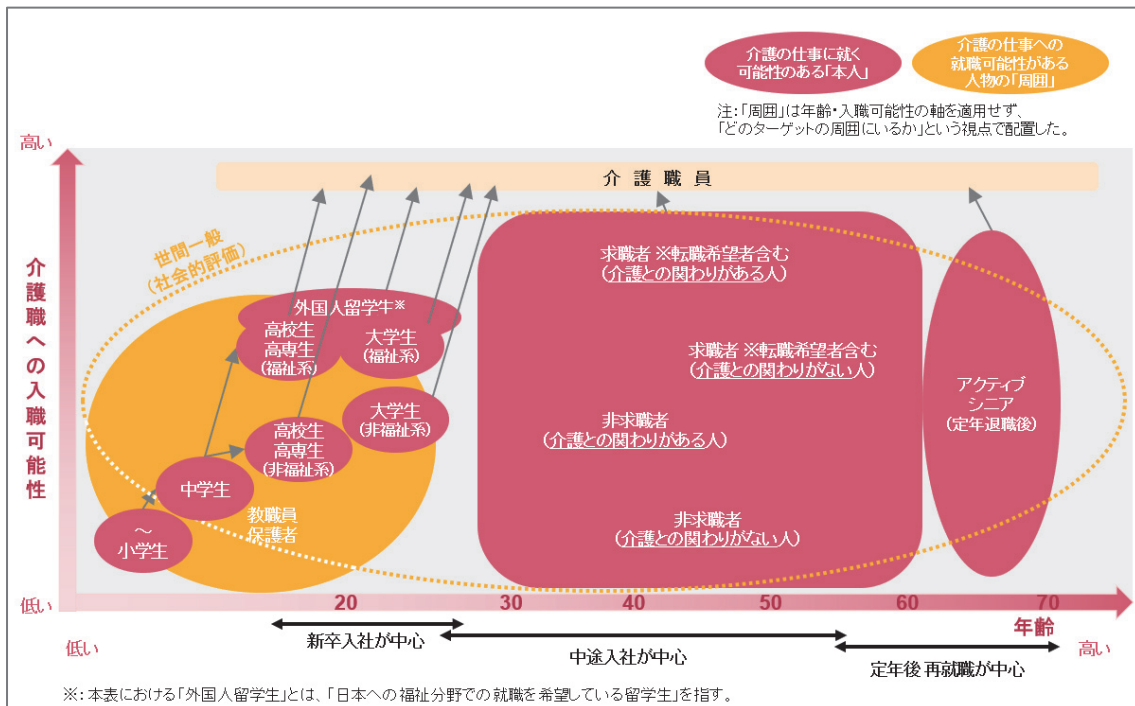
#	介護の仕事への認識・接点	情報収集の姿勢
⑦	介護の仕事を知っていない段階	介護に関する情報収集に対して受動的
⑧	介護の仕事を知っているが無関心な段階	
⑨	介護の仕事に興味・関心がある段階	介護に関する情報収集に対して能動的
⑩	介護の仕事を理解している段階	
⑪	介護業界への入職を検討し、他業界と比較している段階	
⑫	介護業界への入職の意思を固めている段階	

下図は、横軸を年齢、縦軸を介護職への入職可能性として魅力発信等事業におけるターゲット（介護職）のイメージを整理したものである。

年齢や就業状態、介護への関心度合い、個人の価値観などによって「気になる情報」や「介護の仕事に魅力を感じるポイント」は異なることから、事業を効果的に実施するためには、活動ごとにターゲットを設定し、そのターゲットの特徴を踏まえた上で活動を設計することが望ましい。

さらに、ターゲットを設定する際には想定されるターゲットの規模等を勘案し、より大きな成果につながると考えられるターゲットを優先的なアプローチ先として設定することも一案である。そして前述のとおり、介護の仕事に対してどのような認識・接点を持っている人をターゲットとするのかという点は活動内容・発信内容を検討する際の大きなポイントとなる。

図表 93 魅力発信等事業におけるターゲットのイメージ



## B. 重点的にアプローチすべきターゲット層

WEBアンケート調査の結果では、学生・保護者の2～3割が「介護の仕事について、全く知らない」と回答している。また、「介護との関わりや介護への関心はない」と回答した人がいずれの年齢層でも過半数を超えており、多くの人が「①介護の仕事を知っていない段階」あるいは「②介護の仕事を知っているが無関心な段階」にいることが窺われる。

以上を踏まえ、魅力発信等事業において最終アウトカム（職業選択の際に介護の仕事が一つの選択肢になること）を達成するためには、まず上記①②の段階にいる人（無関心層）にアプローチし、介護の仕事の認知度の上昇や、興味・関心の向上を狙うことが重要だと考えられる。

今年度の国事業では事業目的として「多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること」が掲げられていた。新たに関心を持ってもらうためには無関心層へのアプローチが必要となるが、無関心層である人は介護の仕事テーマとしたコンテンツに対して自ら積極的に触れることは少ないと考えられる。そのため、無関心層にリーチするためには、既存のプラットフォームを利用した大規模な情報発信や広告掲載を行うなど情報発信の方法に工夫が必要となる。

本事業において実施したWEBアンケート調査で「子どもが『介護の仕事に就きたい』といった場合の親の反応」を調査したところ、スクリーニング回答者のうち61.4%が否定派であることが明らかになった。情報発信事業（楽天グループ株式会社）が実施した調査では、保護者よりも教員の方が「応援したい」と回答した人が60%強と保護者よりも約20pt程度多いことが明らかとなったが、それでも反対派が一定程度存在するという点において保護者・教員が介護の仕事に対して抱いているイメージを改善する余地は大きいといえる。

## C. 今年度の国事業におけるターゲット設定の状況

今年度の国事業（情報発信事業）では実施主体によって以下のようなターゲット設定がなされており、いずれも「①介護の仕事を知っていない段階」や「②介護の仕事を知っているが無関心な段階」が主要ターゲットであった。また、朝日新聞社と楽天グループの事業では、保護者や教員など実際に就職する人の周囲の人をターゲット・サブターゲットとした活動が存在した。

- 朝日新聞社：若年層（小学生～30代）、ミドル層（40～50代）、アクティブシニア（60歳以上）
- マガジンハウス：20～30代の福祉介護無関心層、福祉・介護関心層（福祉を学ぶ学生など）
- 楽天グループ：若者層、子育てを終えた層、転職・就職活動中の者、保護者・教員

また前述のように今年度の事業目的では、無関心層に対してアプローチすることに重点が置かれていたため、無関心層にアプローチするための工夫として各実施主体において以下のような取組がなされていた。

- 介護の仕事に関するブックレットを書店で（書籍購入者に）配布する。
- 多数の人（特に無関心層）が多く通りがかる場所で展示を行う。
- 既存の大規模イベントに相乗りする形で介護の仕事に関するイベントを実施する。
- 全国紙や人気雑誌、地上波など読者・視聴者が多い媒体で情報発信を行う。
- 多数の媒体でWEB広告を配信する。
- 広告配信が多数実施される時期（月初など）を避けて情報を発信する。

## ② 情報発信の方法・コンテンツ

### A. 効果的だと考えられる情報発信の方法およびコンテンツ

#### <発信方法>

WEBアンケート調査の結果から「介護との関わりや介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の方が介護の仕事に対して良いイメージを持っていること」が明らかとなった。さらに、情報発信事業（楽天グループ株式会社）が実施した調査でもコンテンツ接触者は非接触者に比べて、介護の仕事を魅力的だと感じていることが分かった。これを踏まえると、今後も介護の仕事に関する魅力発信等事業発信を広範囲かつ継続的に実施することが重要であるといえる。特に、これまで介護との関わりがなく関心も無い層にも届くようにアプローチすることで介護の仕事との接点を作りだすことが望ましい。なお、今年度の調査結果では介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の割合は3割弱に留まっており、コンテンツ接触経験が無い人（あるいは接触したことを覚えていない人）が約7割であること明らかになったため、より広範囲かつ頻回に情報発信を行うことが魅力発信等事業において必要である。

#### <コンテンツ（発信内容）>

情報発信事業（楽天グループ株式会社）で実施したバナー広告についての検証では、給与水準に関するイラストのバナーがもっともクリック効率が良かった。さらにホームページ上のコンテンツにおいても給与水準のクリック回数をもっとも多く、給与水準について関心を持つ人が多いことが明らかとなった。

さらにWEBアンケート調査の結果からは「介護に関する授業を受けた経験や介護施設への訪問経験があり、そこでポジティブな印象を抱いた層は、介護の仕事に対して関心が高い/介護の仕事に対して良いイメージを持っていること」も明らかになった。これまでも国事業・都道府県事業では小中学校への出前講座や職場体験が行われており、今後も上記事業を

行う効果は一定あると考えられる。例えば、国事業において都道府県が利用できるコンテンツ作りや広報を実施し、都道府県事業で実際に出前授業や職場体験を実施するなど、国と都道府県が効果的に役割分担・連携をすることでより効果的に全国に活動を広げることが可能となる。都道府県でこれらの活動を実施することで、多くの地域住民に参加してもらうことが可能になるだけでなく、各地域の介護事業所や福祉人材センター等と地域住民との接点を構築することができると考えられる。

介護職の業務は中核業務から補助業務まで幅広く、働き方も様々であるため、国事業において広く社会に対して情報を発信する際には、介護職に関する特定の側面だけが伝わって誤った認識を抱かれてしまうことがないように、一口に介護職と言っても職種・職務内容・勤務形態等の多様性があることを示し、情報の受け手がそれぞれの環境や志向に合った働き方を見つけられるような工夫をすることが重要である。

## B. 今年度の国事業における情報発信およびコンテンツの内容・課題

介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものとしては、介護職・学生・保護者のいずれにおいても「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」(21.0%、19.0%、28.2%)がもっとも多く、次いで、学生では「親族から聞いた話」が16.2%、保護者・介護職では「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が17.8%、26.8%であった。

今年度の国事業では、現役介護職が仕事について語るイベント等の開催、芸能人や学生が介護施設で現場を体験する様子を紹介する動画の作成・公開が行われていることから、情報発信の方法としては一定の妥当性があるといえる。ただし、あくまで方法論であり具体的な発信内容によって成果の出方は異なると考えられるため、各活動における効果測定の結果を参照しながら効果的な発信内容が何かを引き続き探っていくことが重要である。

また、介護職や親族から実際に話を聞いた経験や身近な人が介護を受けている様子を見た経験など、個人の身の回りの実体験が介護の仕事に関する良いイメージの形成に効果的である一方で、一度の情報発信で大規模な集団にリーチできるという点ではテレビ・新聞などのマスメディアの活用やWEBを通じた大規模な情報発信なども有用だと推測される。

ただしWEBアンケート調査の結果では、介護の仕事をテーマとしたコンテンツに触れた経験がある人の割合は28.6%に留まっており、コンテンツ別にみると「テレビ番組」が17.2%、「新聞記事・広告」が10.1%、「WEB記事」が9.5%であった。介護の仕事の認知度向上、興味・関心の向上を狙うためには、無関心層へのリーチ数を伸ばすことが今後の課題である。

### (3) 国事業の効果評価の在り方

#### ①今年度の国事業における効果評価の成果と課題

過去の国事業では、評価に係る指標の測定方法として「イベント等の参加者/コンテンツ接触者に対する事後アンケート調査」を採用しているケースが多くみられたが、上記のように比較対象を設定しない方法では活動の成果を正確に測ることは困難である。そのため、今年度は本事業において情報発信事業の各実施主体に効果評価のポイント（図表 75、p. 79）を伝え、可能な範囲で効果評価のデザインに反映して欲しい旨を説明した。

また厚生労働省では、国事業（情報発信事業）の公募時に応募者に対し、「企画提案書内に記載されている各事業がどのようなアウトカムに結びつくのかを示す様式<sup>30</sup>」の提出を義務付けた。当該様式では予め設定されたアウトカム<sup>31</sup>が示されており、実施主体は各アウトカムに紐づく活動内容およびアウトカム達成のための具体的取組を記載する必要があった。

これらの取組により、情報発信事業の効果評価の妥当性の向上が図られたと考えられる一方、アウトカム指標の設定、価値判断基準の設定など、いくつかの課題が残った。各課題の詳細については以下のとおりである。

#### <アウトカム指標の設定>

今年度の国事業（情報発信事業）では、事業に応募する段階で各活動が想定しているアウトカムを厚生労働省に提出する必要があったため、各活動が何を指すのかが一定程度明らかになった状態で各事業をスタートすることができた。

国事業の実施要領でも「アウトカムの測定指標や測定方法を設定し、これに沿って事業の自己評価を行う」とされているが、事業の成果を測定する段階（2～3月）に各実施主体へヒアリングを実施したところ、アウトカム指標の設定がなされないまま事業が進行していたケースや、応募時に設定したアウトカムの内容と対応していない効果評価を実施しているケースがあることが明らかとなった。

図表 94 国事業の実施要項にて示されている内容<sup>32</sup>

<p>④事業の効果の分析等 事業実施に当たっては、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課及び事業間連携等事業の実施主体と協議の上、アウトカムの測定指標や測定方法を設定し、これに沿って実施事業の自己評価を行うとともに、事業間連携等事業等で実施する事業全体の効果分析の取組に協力するなど、<u>個々の事業及び全体の事業効果の最大化に向け取り組むこと。</u>自己評価にあたっては、事業実施における課題を整理するとともに、企画委員等の専門的・技術的助言も参考にし、課題解決に向けた分析・考察を加えること。</p>
--

#### <アウトカム指標に係る価値判断基準の設定>

<sup>30</sup> 応募時に提出する書類のうち、別記4「実施事業におけるアウトカム（成果）の設定について」が該当。

<sup>31</sup> 予め示されていたアウトカムは「①介護の仕事に関する情報に触れたことのある人が増える」「②介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」「③介護の仕事への理解を深める人が増える」「④福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」の4つである。また、応募事業における活動が上記①～④の4つのアウトカムのいずれにも該当しないが、これらと同等またはそれ以上の効果を生み出すと考えられるアウトカムがあれば、応募者にてアウトカムおよびそれに対応する活動を追加することも可能とされていた。

<sup>32</sup> 厚生労働省「介護のしごと魅力発信等事業 実施要領」の「4 事業内容」より抜粋。

実施主体へのヒアリングの際に、複数の実施主体より「価値判断基準はどのように設定すれば良いのか」という質問が寄せられたほか、価値判断基準を設定しないまま事業結果の取りまとめに進んだ活動が散見された。

#### <コンテンツ接触者の追跡が難しい活動の評価（アウトカム指標の測定）>

大規模な集団にリーチすることを目的とした活動などを中心として、雑誌やWEB動画などで情報発信を行った場合に、コンテンツ接触者を追跡して意識変容や行動変容を測ることが難しいといった課題が挙げられた。また、記事や動画内でアンケート調査への回答依頼を実施した場合でも「コンテンツ接触者数に比べて回答者数が極端に少ない」や「コンテンツに対して好意的な感想を抱いた人が回答しやすいことが想定される（結果にバイアスがかかっている懸念が生じる）」などの課題が残った。

#### <効果評価に係る期間・工数等の確保>

基本的に実施主体は、年度末までに事業自体（情報発信の活動）を完遂することを第一目標としている。そのため、特に事業の推進が難航した場合などに、事業を振り返りながら成果や課題を取りまとめるための期間・工数が確保できなくなり、各アウトカムの達成状況の振り返りや課題解決に向けた分析・考察などの実施が不十分になってしまうことがある。

#### <プロセス評価の実施>

各実施主体は企画提案書を提出して採択された後、厚生労働省に対して正式な実施計画を提出する。原則として各実施主体は実施計画に記載した内容を完遂する必要があり、何らかの理由で計画変更や活動の削減をせざるを得ない場合は事前に厚生労働省と協議をすることとされている。

しかし事業の結果を報告する際には、成果を示すことに比重が置かれ、事業内容そのものや効果評価の方法などが実施計画書に記載のものと異なった場合でも、「計画どおりに実施できなかったこと」や「計画どおりに実施できなかった理由」は記載から漏れていることがある。

魅力発信等事業全体の知見の蓄積という観点では、想定していた成果が出なかった場合に原因が「実施上の失敗」であるのか「理論上の失敗」であるのかを見極めることが事業改善において重要であるため、各実施主体においてプロセス評価の実施が十分でないケースがあることは課題の一つである。

## ②より良い効果評価を実施するためのポイント

### <効果評価の必要性に関する関係者理解の促進>

魅力発信等事業は介護の仕事に無関心な層にアプローチして長期的に意識変容・行動変容を促す性質のものであるため、継続的に実施していくことで効果が望める事業である。そのため、施策および事業内容を継続的に改善するための評価を行う必要がある。また、魅力発信等事業は国の財源を用いた事業であることから、事業実施者の説明責任（アカウンタビリティ）を果たすためにも評価を実施し、その成果を明らかにすることが求められる。

実施主体が事業の正当化の手段として評価を用いることなく、企画・推進・改善活動の円環の中の活動として評価を実施するためには、関係者自身が評価の必要性・意義を理解し、「個別の事業・活動だけでなく、施策全体を改善するために評価を実施している」という認識を持つことが重要となる。また、評価について議論する際には、単なる方法論の検討に留まらず、事業の背景にある問題意識やニーズを踏まえて取り組むことができているのかについても議論することが望ましい。

### <効果評価において「躓きやすいポイント」への早期介入>

本事業内における各実施主体とのコミュニケーションにより、アウトプットとアウトカムの違い、アウトカム指標の設定、価値判断基準の設定など実施主体が「つまづきやすいポイント」が明らかとなった。この内容や効果評価の意義を実施主体に対して説明することで効果評価の質が向上すると考えられる。しかし前項でも述べたように、各実施主体は事業自体（情報発信の活動）を完遂することを第一目標としており、効果評価への取組は劣後してしまう傾向がある。このことから、採択される事業者が決まった後は速やかにコミュニケーションをとり、正式な事業計画を立てる段階で効果評価の進め方についても具体的な方針を詰めておくことが重要である。また、効果評価の際に何を振り返れば良いのか、そして最終的に効果評価の結果としてどのような項目を整理して欲しいのかについても事業冒頭で認識合わせを実施することで、効果評価に対する意識の向上を図ることができる。

さらに、効果評価のポイントを説明する際には「～を設定・検討して欲しい」とだけ伝えるのではなく、なぜそれが求められているのかを丁寧に説明し、効果評価の意義に対する理解を深めてもらうことも重要である。例えば、価値判断基準の設定の場合、単に目標値を設定すれば良いというわけではなく、当初想定していた成果に対しての達成度を測り、達成できた理由/できなかった理由を振り返って事業の成功・改善の鍵を見つけることが目的である。

また、魅力発信等事業の効果評価における課題として、大規模情報発信等においてコンテンツ接触者を追跡した調査が難しいという点が挙げられている。追跡調査の代替案としては、「モニターを使って調査する方法」や「企画委員会・事業間連携会議の委員からコメントを得る方法」が考えられるほか、結果的に十分な効果測定が難しかったとしても、その活動に効果があると考えた理由やエビデンスなどを事業報告書に記載することが重要である。



これらの点についても事業冒頭で実施主体に対して助言しておくことが望ましい。〈魅力発信等事業全体としての知見の蓄積〉

国事業を継続的に改善していくためには、各年度での評価（短期的評価）に加え、複数年度を見据えた長期的な評価が必要である。特に、介護の仕事に対するイメージが向上したか否かなどの認識の変容を測るだけでなく、「実際に介護の仕事に関する情報収集の頻度が高まったか」や「就職活動をしたか」など行動の変容も測定する場合は、ターゲットの追跡や測定項目の定点観測等、長期的な視点での評価の必要性が高まる。

なお、本事業のアウトカム指標である「職業選択の際に介護の仕事を選択肢の1つとして考える人の数」は、本事業だけでなく国内の雇用状況や介護保険制度の動向などにも影響される。そのため、アウトカムの達成状況については、これらの状況・動向を踏まえた上で調査研究事業などにおいて継続的に検証することが考えられる。

## 2. 都道府県事業について（継続して実施すべき点と次年度以降に向けた改善点）

### （1）都道府県における事業評価の現状と課題

「IV. 都道府県事業における評価のための基盤作り（手引きの作成）」の「1. 手引き作成の背景と目的」でも述べたように、都道府県によって評価に対する意識や理解度には差がみられており、評価指標の設定や評価指標に基づく効果測定を十分に行えていない都道府県も少なくない。令和4年度調査研究で実施された都道府県事業に関するアンケート結果では、介護のしごと魅力発信に関連する事業を実施する上での課題として8割超の都道府県が「事業の成果を測定することが難しい」と回答しており、事業評価のニーズは感じているが具体的な手法が分からないという状況にあることが窺われる。

令和4年度の調査研究によれば、アウトプットやアウトカムという概念の理解がまだ十分でない自治体担当者が事業成果の測定指標を設定した場合「判断基準（定量的な目標値）が設定されていない」あるいは「アウトプット/アウトカムではない指標を設定している」といった事態が生じていることも分かっている。また、事業内容に関わらず、都道府県はアウトカムを「介護分野への就労人数」とする傾向にある。

令和3年度の都道府県事業計画においては「介護分野への就労人数」をアウトカムとしている事業が多かったが、アウトカムは事業内容に応じて設定されるべきものであり、介護人材確保施策の一環として実施している事業であっても、すべての事業において画一的に介護分野への就労人数をアウトカムとするべきではない。例えば、小学生向けの出前授業や広く一般を対象とした広報など、介護分野への就労に対して間接的・長期的に影響を及ぼすような事業については、最終的なゴールである「介護分野への就労」につながる前の中間的なゴールとして、「介護の仕事に対するイメージの向上」や「介護の仕事への関心の向上」など、事業内容によって明確に影響を及ぼすことができる指標を当該年度のアウトカムとして設定することが望ましい。

令和4年度の調査研究では、国事業と都道府県事業との役割分担に関する提言もされている。全国的な情報発信が可能な国事業では「①介護の仕事を認知していない段階」にいる人を「②介護の仕事を認知しているが無関心な段階」に、あるいは「②介護の仕事を認知しているが無関心な段階」にいる人を「③介護の仕事に興味・関心がある段階」に移行させるような活動に注力し、地域資源を活かして実際の職場紹介を実施すること等が可能な都道府県事業では「③介護の仕事に興味・関心がある段階」にいる人を「④介護の仕事を理解している段階」や「⑤介護業界への入職を検討し、他業界と比較している段階」に移行させるような活動に重点を置くことが望ましいと整理された。都道府県事業では比較的人職可能性が高い人々を主なターゲットとする事業に注力できると良いとは言え、地域の住民向けに介護の魅力を伝えるイベント等も実施している。介護人材確保の一環である魅力発信等事業では、魅力を発信するという活動が、すぐには「介護人材の確保」という最終的なゴールにつながらないことがあり、魅力発信等事業が介護人材確保にどのようにつながっていくのかを考えるためには、アウトカムを何段階かに分けて設定することがポイントとなる。そのため、アウトカム指標は必ずしも「介護分野への就労人数」とはならず、事業に合った指標の設定が必要である。また、都道府県の弱みには「人事異動の多い自治体職員が事業計画を立てるため、介護職やマーケティング、評価分析についての知見が不足している可能性がある点」が挙げられていた。

上記のような状況を改善するための解決策として、令和4年度調査研究の報告書では「都道府県職員がプログラム評価やロジックモデルの考え方を学び、事業評価について理解を深めることのできる機会を増やすことが望ましい」との考え方が示された。

## (2) 手引きが果たす役割

本事業で作成した手引きは、まさに「(1) 都道府県における事業評価の現状と課題」で挙げた「都道府県職員がプログラム評価やロジックモデルの考え方を学び、事業評価について理解を深めることのできる機会」に資するものである。手引きの中では、自治体における事業の進行フェーズに沿った評価実施方法を簡潔に取りまとめた。具体的には、主に以下の内容を取り扱った。

図表 95 手引きが取り扱う内容

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• ロジックモデルを作成する意義</li> <li>• ロジックモデル策定の一連の流れ・手順</li> <li>• 最終/中間/直接アウトカムの違い</li> <li>• 最終/中間/直接アウトカムの設定</li> <li>• アウトカム達成のために必要な活動の設定</li> <li>• アウトプットとアウトカムの違い</li> <li>• アウトプット指標、アウトカム指標の設定</li> <li>• 評価指標と判断基準の違い</li> <li>• 判断基準の設定</li> <li>• 作成したロジックモデルの活用方法</li> </ul> |
|--|

本手引きの位置づけ・特色として、現在一般に公開されている評価に関する手引書は、難しい言葉で書かれているものも多い中で、介護人材確保というテーマを取り上げ、評価に馴染みのない自治体職員でも理解しやすくまとめたという点が挙げられる。

加えて「魅力発信」に関する事業は介護人材確保に至るまでの道のりが長く、自治体にとって事業の達成目標（アウトプット指標・アウトカム指標）をどのように設定するべきか、という点が悩みの種となっていた。そういったテーマ特有の課題に応える形で事業評価について解説することができたことは「介護のしごと魅力発信等事業 評価分析事業」内で作成した手引きの成果の1つといえる。

当初設定していた成果である、自治体職員が（1）評価はなぜ大切なのか、何に役立つのかを理解すること、（2）直接アウトカム、中間アウトカム、最終アウトカムという段階的なアウトカムの考え方を理解すること、の2点を達成するための知識を手引き内で体系的に取りまとめることができた。令和4年度調査研究の報告書上でその必要性が指摘されていた「都道府県職員がプログラム評価やロジックモデルの考え方を学び、事業評価について理解を深めることのできる機会」を、手引きの作成と、三重県で開催したロジックモデル作成支援イベントでの手引きの活用・改善により実行したフェーズが令和5年度の本事業であった。ただ、三重県のロジックモデル作成支援イベント参加者の意見からは、都道府県において評価の基盤を整えるためにはまだ課題が残っていることが窺われる。詳細について、「（3）今後、都道府県における評価の基盤をさらに整えるために必要なアプローチ」で後述する。

### **（3）今後、都道府県における評価の基盤をさらに整えるために必要なアプローチ**

今後、都道府県における評価の基盤をさらに整えるために必要なアプローチとして「手引きを教材として用いた自治体向け研修の実施」が考えられる。

今年度作成した手引きでは、ロジックモデルの作り方や評価指標・判断基準の設定の仕方など、事業評価において基礎的かつ重要な内容を整理した。研究会・WG委員やヒアリングに協力いただいた自治体からは「読みやすく、評価の基礎が理解できる内容となっている」とコメントがあった一方、三重県で開催したロジックモデル作成支援イベント後の意見交換では、参加者である県職員や社会福祉協議会職員から「手引きを読むだけでは、その後すぐに手を動かしてロジックモデルの活用を実践することは難しいと感じた」や「今日のイベントのように参加者が最初に評価についての知識をインプットし、参加者間で認識を合わせる段取りが必要」「ロジックモデル作成のためのファシリテーションを、自分たちでできるか自信がない」といった趣旨の声があった。自治体において評価が浸透し、事業改善のためのPDCAを自律的に行えるようになるまでの初期支援として、評価に関する知見を持つ第三者が本事業で作成したような手引きを教材としながら、実践型（ワークショップ型）の研修形式で評価についてのレクチャーを行うことや、ロジックモデル作成・評価デザイン検討のための議論のファシリテーターを評価に関する有識者が務めることの必要性は高いと考えられる。

なお、「手引きを教材とした、自治体における研修」は重要である一方、少人数での丁寧なコミュニケーションが必要となるため、一度に支援対象とする自治体の数は絞ることが望ましいと考えられる。そのため自治体が独力でロジックモデルを活用した事業計画を練りたいと考えた際の補助ツールとして、並行して地域別・課題別にロジックモデルのひな型を作成し、都道府県に配布することも一案である。

ロジックモデルは自治体における事業活動が最終的な成果につながるまでの因果関係を論理的に図式化したものであり、目的達成にあたっての課題とその課題を解決するために必要な活動を洗い出すためのツールである。また、必要な活動に優先順位をつけることにも役立つ。加えて、ワークショップ等で関係者が集ってロジックモデルを作成することは、関係者間でのコミュニケーションの場の創出につながり、協力体制を構築するという点においても意義がある。ただし、課題を洗い出すためには、ロジックモデル作成の前段として、過去に取り組んできたあるいは現在取り組んでいる事業の整理や、事業に携わっている関係者の分析等の現状把握が必要となる。

また、ロジックモデル作成後には、課題解決を図るための手段を具体化し、実行することが必要となる。そのため、自治体が事業評価の考え方をを用いて実際に事業の計画や改善を実行できるようになるためには、研修・ワークショップを何段階かに分けて行うことが望ましいと考えられる。実際に三重県で実施したロジックモデル作成支援イベントでは、参加者から「作成したロジックモデルを実際の事業計画にどう反映するかについても、助言が必要だ」との意見が聞かれていた。

第一段階として必要なのは「自治体の現状把握」と「ロジックモデル作成を通じた解決すべき課題の整理・必要な取組の可視化」となる。今年度三重県で開催したロジックモデル作成支援イベントのように、直近で取り組んでいる介護人材確保関連の事業内容の整理や、ロジックモデルの基礎となる事業評価の知識・考え方の解説、ロジックモデル作成のためのファシリテーションによる議論の促進などにおいて、第三者が支援をすることが考えられる。このとき、ロジックモデルを作成すること自体が目的とならないよう、作成後にどう活用するのかという視点も合わせて啓発することが重要となる。参加者としては、事業を統括する自治体の他にも、自治体の実情に応じて実際に事業実行を担う受託者、介護人材を求めている介護事業所などの施設職員、ハローワーク職員などの関係者を集めることが想定される。

このような第三者によるファシリテーション補助付きのイベントへの参加機会をより多くの自治体に提供するためには、全国で地域ブロックごとにイベントを開催することなどが考えられる。また、今年度作成した手引きの中に、自治体職員自身がファシリテーターを務める場合のコツなどについて追記することも一案である。

さらにその後は、ロジックモデルで整理した状況をもとに、自治体ごとのニーズに応じて実行に向けた支援を行うことが望ましい。例として、財政当局への予算要求資料の作成や、事業の仕様書の作成などが考えうる。

なお、都道府県における評価の基盤を整えていくためには、都道府県内での評価に関する考え方の変化を促すことも重要となる。上記のような研修を取り入れるにあたっては、都道

府県職員が事業評価の価値を理解し、評価を内発的に実施するための動機づけが行われることが望ましい。具体的には、アウトカムの測定によって事業の失敗が可視化されることを恐れず、失敗点は次年度以降に改善できる点であると前向きに捉え、組織として事務的な事業評価からプログラム評価へ移行するという決断をすることが必要となる。そのためには、行政が取り組んだ事業を中立的な立場で評価・公開している自治体を先進事例として発信することも一案だと考えられる。



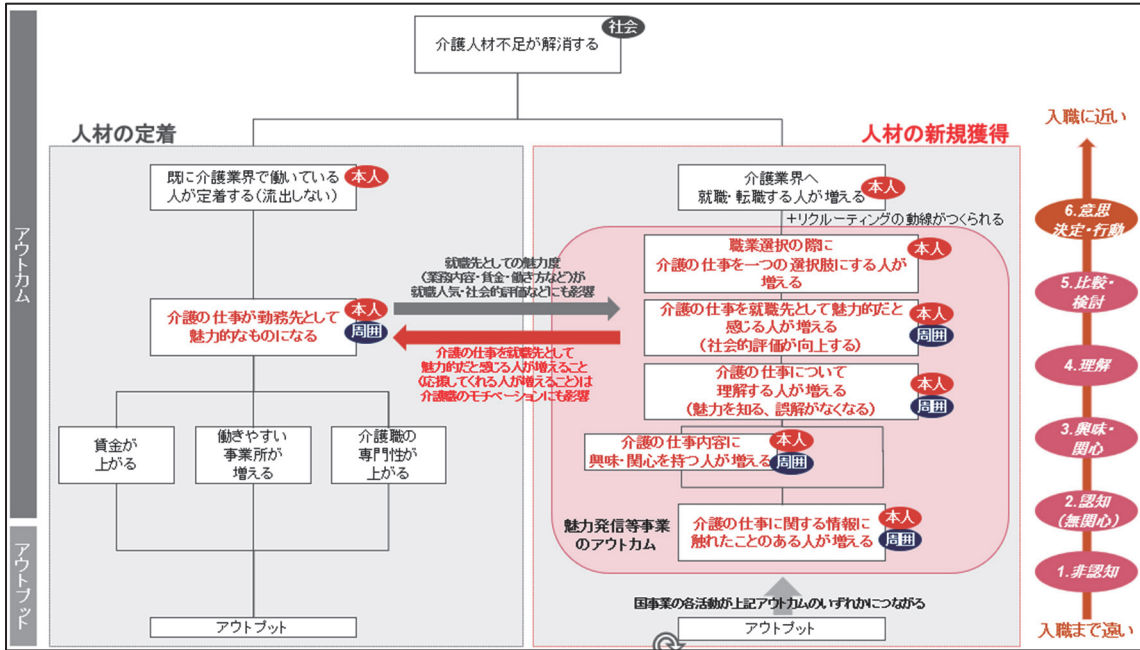
**付属資料**





# 付属資料 1. 介護人材確保に係るロジックモデル

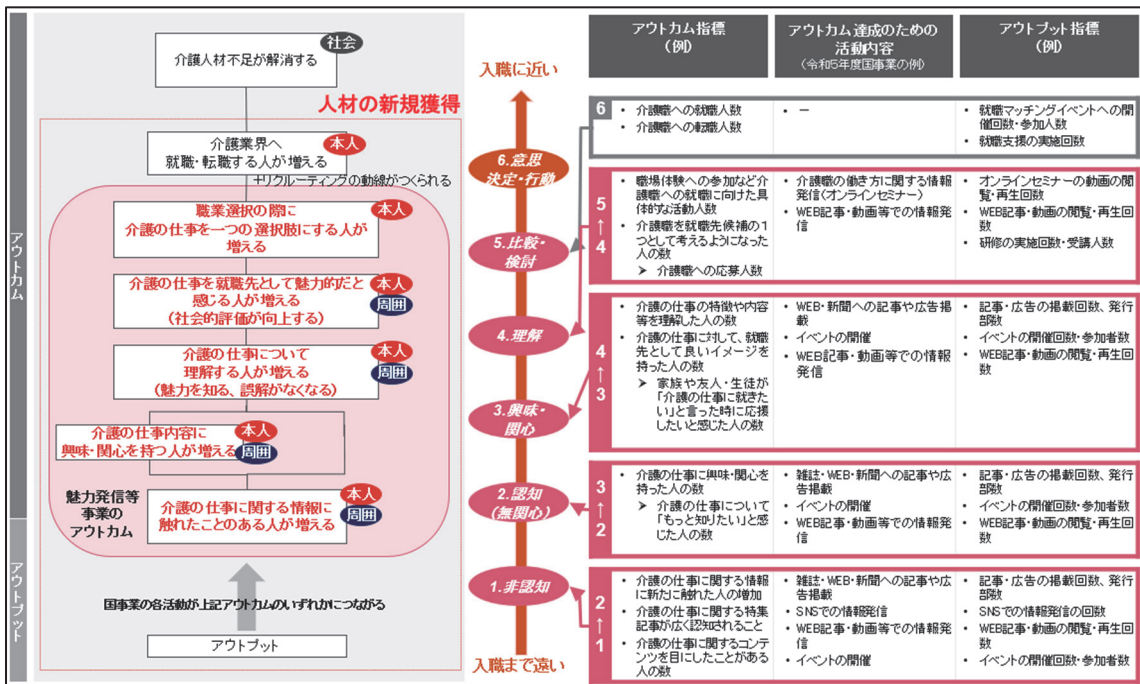
図表 1 介護人材確保に係るロジックモデル



※各アウトカムの右側についているワッペンはアウトカムの主語

- ①本人：就職する／している人（本人）が主語のもの
- ②周囲：就職する／している人の周囲が主語のもの
- ③社会：日本社会が主語のもの

図表 2 令和5年度国事業（情報発信事業）の活動と魅力発信等事業のロジックモデルの対応



## 付属資料 2. 介護の仕事に関するアンケート調査結果

### 1. 調査概要

介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析するため、介護職及び学生・保護者を対象としたWEBアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施概要は以下の通りである。

図表 3 介護の仕事に関するアンケート調査 実施概要

実施目的		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 魅力発信等事業の評価、今後の魅力発信等事業・都道府県事業の戦略策定に関する検討に活用する。</li> </ul> </li> </ul>
調査対象	スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査会社に登録しているモニター (36,000人)</li> </ul>
	本調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職 (1,000人) ※回答時点で「現在、介護をしている」と回答された方。</li> <li>学生 (500人) ※回答時点の職業について「学生」と回答された方。</li> <li>保護者 (1,000人) ※回答時点で「就職前の子どもが1人以上いる」と回答された方。</li> </ul>
調査時期		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年年10月</li> </ul>
主な調査項目	スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業、年齢、子どもの有無</li> <li>介護との関わり</li> <li>子どもが「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか</li> </ul>
	介護職	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤続年数、雇用形態、勤務している事業所の種類、業務内容、保有資格</li> <li>介護の仕事のイメージ (入職前/入職後)、介護の仕事を選んだ理由、介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事/「嫌だ」と感じる事</li> <li>子どもが「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか、介護の仕事に友人に勧めたいと思うか</li> </ul>
	学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職先として考えている業界・興味がある業界とその理由、就職先選びの際に重視すること</li> <li>介護の仕事について、どれくらい知っているか</li> <li>介護の仕事に対するイメージ、良いイメージの形成に影響を与えたもの</li> </ul>
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが就職する際に気になること (上位5つ)</li> <li>介護の仕事について、どれくらい知っているか</li> <li>介護の仕事に対するイメージ、良いイメージの形成に影響を与えたもの</li> </ul>

## 2. 調査結果

### (1) スクリーニング調査

図表 4 職業

Q1	あなたのご職業について、最も当てはまるものをお選びください。	R5	R4
		(Q1)	(Q1)
1	会社員(正社員)	38.5%	37.4%
2	会社役員・経営者	1.6%	1.6%
3	パート・アルバイト	17.3%	17.1%
4	専業主婦・主夫	12.0%	14.0%
5	自営業	6.0%	6.0%
6	公務員	3.0%	2.9%
7	学生(中学生)	0.3%	0.4%
8	学生(福祉系の高校生)	0.1%	0.1%
9	学生(上記以外の高校生、高専生)	1.3%	1.2%
10	学生(福祉系の専門学校生、短大生、大学生、大学院生)	0.5%	0.7%
11	学生(上記以外の専門学校生、短大生、大学生、大学院生)	1.7%	1.9%
12	無職	15.1%	14.2%
13	その他	2.7%	2.6%
	全体	36000	35873

図表 5 子ども(就職前)の人数

Q2	子ども(就職前)の人数について、お答えください。就職前のお子さんがいらっしゃらない場合は「0(ゼロ)」を入力してください。								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R5 (Q2)	36000	36000	18035	0.50	0.937	0	20	0
	R4 (Q2)	35873	35873	18695	0.52	0.961	0	20	0

図表 6 子ども(就職前)の人数

NQ2T1	子ども(就職前)の人数について、お答えください。就職前のお子さんがいらっしゃらない場合は「0(ゼロ)」を入力してください。	R5	R4
		(NQ2T1)	(NQ2T1)
1	0人	70.7%	69.6%
2	1人	13.9%	14.5%
3	2人	11.7%	15.9%
4	3人	3.0%	
5	4人以上	0.8%	
	全体	36000	35873

図表 7 介護との関わり

Q3	あなたと介護との関わりについて、以下から当てはまるものを全てお選びください。	R5 (Q3)	R4 (Q3)
1	現在、介護の仕事をしている	3.5%	3.4%
2	過去に介護の仕事をしたことがある	3.3%	3.2%
3	介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	3.3%	3.2%
4	介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	2.4%	2.5%
5	介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	1.4%	1.3%
6	介護の現場で実習、職場体験インターンシップなどを行っている(したことがある)	1.9%	1.9%
7	介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	2.6%	2.8%
8	自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	9.5%	10.0%
9	自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	6.3%	6.7%
10	自分が介護される立場である(だったことがある)	0.8%	0.7%
11	親や家族などの介護のことに関心がある	12.1%	11.8%
12	自分の介護のことに関心がある	7.6%	7.5%
13	その他	0.3%	0.3%
14	該当するものはない(介護との関わりや介護への関心はない)	65.8%	65.5%
	全体	36,000	35,873

図表 8 介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験

Q4	介護の仕事テーマとしたコンテンツに接触した経験について、以下から当てはまるものを全てお選びください。	R5 (Q4)	R4 (Q4)
1	介護の仕事テーマとしたイベントに参加したことがある	3.1%	4.9%
2	介護の仕事テーマとしてテレビ番組を観たことがある	17.2%	45.7%
3	介護の仕事テーマとしたラジオ番組を聴いたことがある	2.8%	5.3%
4	介護の仕事テーマとした新聞記事・広告を見たことがある	10.1%	22.5%
5	介護の仕事テーマとした雑誌記事を見たことがある	6.0%	11.6%
6	介護の仕事テーマとしたWEB記事を見たことがある	9.5%	19.0%
7	介護の仕事テーマとしたWEB動画を見たことがある	5.2%	8.4%
8	その他	0.3%	0.6%
9	介護の仕事テーマとしたコンテンツに触れたことはない	71.4%	13.9%
10	エラー	0.0%	0.2%
	全体	36,000	35,873

図表 9 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q5	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。 (お子さんがいらっしゃらない方は、「もしも子どもがいたら」と仮定してご回答ください。)	R5	R4
		(Q5)	
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	38.8%	N/A
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	41.0%	N/A
3	本人の希望があったとしても反対する	20.2%	N/A
	全体	36,000	N/A

図表 10 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応  
(就職前の子どもが1人以上いる人のみ)

Q5	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5	R4
		(Q5)	
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	38.6%	N/A
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	42.4%	N/A
3	本人の希望があったとしても反対する	19.0%	N/A
	全体	10,544	N/A

## (2) 介護職調査

図表 11 配偶者の有無

Q1	配偶者の有無を教えてください。 (事実婚や同性パートナーを含みます)	R5 (Q1)	R4 (Q1)
1	現在、配偶者がいる	59.5%	59.0%
2	現在、配偶者はいない	40.5%	41.0%
	全体	1,000	1,000

図表 12 現在の年収

Q2	現在の年収を教えてください。	R5 (Q2)	R4 (Q2)
1	100万円未満	6.4%	9.1%
2	100～200万円未満	13.5%	14.1%
3	200～300万円未満	15.7%	17.0%
4	300～400万円未満	20.8%	20.0%
5	400～500万円未満	11.6%	14.2%
6	500～600万円未満	8.4%	7.9%
7	600～700万円未満	4.1%	3.4%
8	700～800万円未満	2.7%	1.6%
9	800万円以上	4.2%	2.5%
10	回答しない	12.6%	10.2%
	全体	1,000	1,000

図表 13 現在の職場の勤続年数

Q4t1N	現在の職場の勤続年数を教えてください。(小数点第1位まで)								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R5(Q4t1N)	1,000	1,000	7419	7.42	6.719	0	40	5
	R4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

図表 14 介護の仕事に従事した年数(通算)

Q4t2N	介護の仕事に従事した年数(通算)を教えてください。(小数点第1位まで)								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R5(Q4t2N)	1,000	1,000	9578	9.58	7.438	0	42	9
	R4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

図表 15 介護以外の仕事に従事した年数(通算)

Q4t3N	介護以外の仕事に従事した年数(通算)を教えてください。(小数点第1位まで)								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R5(Q4t3N)	1,000	1,000	8829	8.83	10.348	0	53	5
	R4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

図表 16 現在の職場の勤続年数

Q4t1sa	現在の職場の勤続年数を教えてください。(小数点第1位まで)	R5 (Q4t1sa)	R4 (Q5)
1	1年未満	5.1%	10.5%
2	1～3年未満	22.3%	16.8%
3	3～5年未満	14.9%	18.2%
4	5～10年未満	25.8%	23.8%
5	10年以上	31.9%	30.7%
	全体	1,000	1,000

図表 17 介護の仕事に従事した年数 (通算)

Q4t2sa	介護の仕事に従事した年数(通算)を教えてください。(小数点第1位まで)	R5 (Q4t2sa)	R4 (Q20)
1	1年未満	6.7%	8.9%
2	1～3年未満	13.1%	13.2%
3	3～5年未満	9.9%	12.7%
4	5～10年未満	24.1%	25.2%
5	10年以上	46.2%	40.0%
	全体	1,000	1,000

図表 18 介護以外の仕事に従事した年数 (通算)

Q4t3sa	介護以外の仕事に従事した年数(通算)を教えてください。(小数点第1位まで)	R5	R4
1	1年未満	23.9	N/A
2	1～3年未満	13.9	N/A
3	3～5年未満	9.5	N/A
4	5～10年未満	16.3	N/A
5	10年以上	36.4	N/A
	全体	1,000	N/A

図表 19 雇用形態

Q5	現在の雇用形態を教えてください。	R5 (Q5)	R4 (Q6)
1	正規職員	70.3%	68.5%
2	契約職員(有期労働)	4.6%	5.1%
3	パートタイム職員(短時間労働)	21.6%	24.0%
4	派遣職員(派遣会社が雇用)	3.5%	2.4%
	全体	1,000	1,000

図表 20 事業所の種類

Q6	現在勤務している事業所の種類を教えてください。	R5 (Q6)	R4 (Q7)
1	施設系(特別養護老人ホームなど)	34.4%	37.2%
2	居住系(有料老人ホームなど)	14.2%	14.3%
3	通所系	14.7%	14.7%
4	訪問系	10.4%	9.6%
5	居宅介護支援事業所	4.5%	5.7%
6	医療関係	10.0%	10.1%
7	障害者・障害児福祉関係	8.9%	6.8%
8	その他	2.9%	1.6%
	全体	1,000	1,000

図表 21 職位・職階

Q7	現在の職場での職位・職階を教えてください。	R5 (Q7)	R4 (Q8)
1	経営層	4.1%	2.6%
2	管理職	10.5%	12.3%
3	主任・(サブ)リーダーなどの職場のまとめ役	13.9%	11.9%
4	一般職	66.6%	69.9%
5	その他	4.9%	3.3%
	全体	1,000	1,000

図表 22 業務内容

Q8	現在の業務内容を教えてください。	R5 (Q8)	R4 (Q9)
1	マネジメント(経営関連)	13.3%	15.0%
2	現場でのチームマネジメント	17.5%	21.3%
3	他職員への指導	21.7%	24.6%
4	利用者のケアのマネジメント(ケアプラン・介護計画の作成等)	19.8%	N/A
5	利用者の介護	65.4%	66.7%
6	介護の周辺業務(介護助手など)	27.0%	22.1%
7	その他	7.6%	7.9%
	全体	1,000	1,000



図表 23 保有資格等

Q9	保有資格等(業務に関連するもの)を教えてください。	R5 (Q9)	R4 (Q10)
1	介護に関する入門的研修	12.7%	11.3%
2	介護職員初任者研修(またはホームヘルパー2級)	33.6%	33.1%
3	介護福祉士実務者研修	19.5%	16.6%
4	生活援助従事者研修	6.5%	5.1%
5	社会福祉主事任用資格	11.4%	12.8%
6	介護福祉士	44.2%	42.9%
7	認定介護福祉士	4.0%	3.2%
8	介護支援専門員(ケアマネジャー)	13.1%	12.9%
9	社会福祉士	7.1%	7.5%
10	理学療法士(PT)	4.0%	3.0%
11	作業療法士(OT)	3.6%	3.3%
12	言語聴覚士(ST)	2.2%	1.5%
13	精神保健福祉士	2.0%	2.3%
14	正看護師	7.9%	8.4%
15	准看護師	3.9%	3.2%
16	保健師	2.5%	1.8%
17	保育士	3.3%	2.7%
18	その他	3.2%	3.0%
19	特になし	10.9%	12.7%
	全体	1,000	1,000

図表 24 介護の仕事を選んだ理由

Q10	介護の仕事を選んだ理由を教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R5 全体 (Q10)	R4 全体 (Q11)					R4 全体 (Q11)	R4 全体 (Q11)				
			1 とてもあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらでもない	4 あまりあてはまらない	5 あてはまらない		5 とてもあてはまる	4 ややあてはまる	3 どちらでもない	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
Q10S1	社会的な意義が大きい仕事だと思ったから	1,000	22.4%	33.2%	29.9%	8.2%	6.3%	1000	20.1%	38.1%	26.6%	9.7%	5.5%
Q10S2	やりがいのある仕事だと思ったから	1,000	22.6%	40.4%	25.4%	6.5%	5.1%	1000	23.7%	42.8%	23.0%	6.2%	4.3%
Q10S3	人の役に立つ仕事だと思ったから	1,000	24.3%	38.7%	27.1%	5.1%	4.8%	1000	26.9%	41.9%	22.1%	5.1%	4.0%
Q10S4	資格や専門知識を活かすことができる仕事だと思ったから	1,000	19.8%	38.1%	29.8%	6.9%	5.4%	1000	21.5%	40.2%	28.0%	6.1%	4.2%
Q10S5	自分に向いている仕事だと思ったから	1,000	18.8%	33.6%	35.3%	6.5%	5.8%	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q10S6	自分にもできる仕事だと思ったから	1,000	17.0%	41.9%	33.1%	3.9%	4.1%	1000	19.7%	43.2%	28.8%	5.0%	3.3%
Q10S7	ワークライフバランスを確保しながら働ける業界だと思ったから	1,000	14.2%	29.2%	40.4%	9.3%	6.9%	1000	12.9%	32.4%	39.1%	8.6%	7.0%
Q10S8	今後成長していく業界だと思ったから	1,000	14.9%	33.6%	38.2%	8.0%	5.3%	1000	17.2%	36.1%	35.1%	6.6%	5.0%
Q10S9	雇用不安の少ない業界だと思ったから	1,000	17.0%	37.1%	35.4%	5.6%	4.9%	1000	18.8%	40.4%	30.6%	6.5%	3.7%
Q10S10	家族など身近な人が介護の仕事に就いていたから	1,000	12.4%	23.1%	33.8%	13.6%	17.1%	1000	13.7%	22.8%	30.8%	15.8%	16.9%
Q10S11	高齢者と接するのが好きだから	1,000	15.9%	27.9%	40.3%	8.2%	7.7%	1000	15.9%	30.5%	37.3%	9.7%	6.6%

図表 25 介護の仕事を選んだ理由（その他）（主なものを抜粋）

- 求人が多かったから。
- 給料が良かったから。
- 資格が取りやすかったから。
- 体を動かしたかったから。
- 自分の家族の介護をして、仕事としてもやってみたいと思ったから。
- 親の介護の準備として専門の知識と技術が欲しかったから。
- 年齢的に雇用してくれるところが他に見つからなかったから。
- 

図表 26 現在の職場（勤務先）を選んだ理由

Q12	現在の職場（勤務先）を選んだ理由を教えてください。（各項目について当てはまるものを1つ選んでください）	R5 全体 (Q12)	R4 全体 (Q13)										
			5	4	3	2	1						
			とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	
Q12S1	通勤に便利だから	1,000	29.3%	33.8%	25.2%	6.4%	5.3%	1,000	28.9%	31.6%	23.7%	8.9%	6.9%
Q12S2	給与が良かったから	1,000	12.8%	27.9%	36.6%	13.7%	9.0%	1,000	12.0%	29.1%	33.2%	15.7%	10.0%
Q12S3	キャリアアップ・スキルアップができるから	1,000	12.1%	21.9%	43.0%	14.1%	8.9%	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q12S4	勤務時間に融通が効きそうだったから	1,000	17.2%	31.4%	36.4%	9.4%	5.6%	1,000	17.8%	32.0%	33.1%	11.1%	6.0%
Q12S5	休暇を取りやすそうだったから	1,000	13.1%	29.1%	39.9%	11.2%	6.7%	1,000	14.0%	29.0%	37.1%	13.7%	6.2%
Q12S6	職場の雰囲気・人間関係が良さそうだったから	1,000	14.8%	31.0%	41.2%	7.3%	5.7%	1,000	14.9%	31.1%	39.2%	9.6%	5.2%
Q12S7	福利厚生が整っているそうだったから	1,000	13.1%	28.5%	41.1%	10.0%	7.3%	1,000	12.2%	28.0%	39.9%	12.3%	7.6%
Q12S8	経営が安定しているそうだったから	1,000	12.2%	30.9%	41.0%	9.9%	6.0%	1,000	12.6%	30.3%	43.0%	9.2%	4.9%
Q12S9	知人や友人が在籍していたから	1,000	10.9%	19.1%	36.2%	11.7%	22.1%	1,000	13.2%	21.1%	31.4%	12.6%	21.7%

図表 27 現在の職場（勤務先）を選んだ理由（その他）  
（主なものを抜粋）

- 実習でお世話になったから。
- 専門学校で紹介されたから。
- 探している時期に丁度募集をしていたから。
- 転職エージェントからの薦め
- 未経験歓迎だったから。
- 友達の紹介
- グループホームに就職したかったから

図表 28 現在の職場（勤務先）を知ったきっかけ

Q14	現在の職場（勤務先）を知ったきっかけを教えてください。	R5	R4
		(Q14)	(Q15)
1	親族や知人の紹介	31.3%	35.6%
2	就職情報サイト	26.5%	21.8%
3	勤務先のWEBサイト	18.3%	15.6%
4	合同企業説明会	11.2%	8.7%
5	新聞、折込チラシ、フリーペーパー	12.2%	11.6%
6	人材紹介会社（転職エージェント等）	14.7%	13.0%
7	職業安定所（ハローワーク）	23.2%	24.5%
8	その他	5.9%	5.3%
	全体	1,000	1,000

図表 29 現在の職場（勤務先）を知ったきっかけ（その他）  
（主なものを抜粋）

- アプリからさがした。
- 以前の職場
- 学校からの紹介
- 近所にあったので
- 実習先だった。

図表 30 介護業界内での転職回数

Q15	介護業界内での転職回数を教えてください。								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R5(Q15)	1,000	1,000	1992	1.99	2.238	0	25	1
	R4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

図表 31 介護業界内での転職回数

NQ15T1	介護業界内での転職回数を教えてください。	R5	R4
1	0回	28.0%	N/A
2	1回	24.3%	N/A
3	2回	17.2%	N/A
4	3回以上	30.5%	N/A
	全体	1,000	N/A

図表 32 働いたことがある業種

Q16	これまでに働いたことがある業種を教えてください。	R5	R4
		(Q16)	(Q17)
1	農業, 林業	5.1%	5.1%
2	漁業	2.4%	1.9%
3	鉱業, 採石業, 砂利採取業	2.1%	1.5%
4	建設業	6.1%	4.6%
5	製造業	15.2%	14.2%
6	電気・ガス・熱供給・水道業	2.0%	2.2%
7	情報通信業	3.9%	2.6%
8	運輸業, 郵便業	4.2%	5.1%
9	卸売業, 小売業	7.9%	7.7%
10	金融業, 保険業	4.4%	3.9%
11	不動産業, 物品賃貸業	1.6%	1.6%
12	学術研究, 専門・技術サービス業	2.9%	2.0%
13	宿泊業, 飲食サービス業	10.6%	9.8%
14	生活関連サービス業, 娯楽業	7.5%	5.2%
15	教育, 学習支援業	3.9%	3.9%
16	医療, 福祉(介護の仕事)	46.9%	59.2%
17	医療, 福祉(介護の仕事以外)	19.3%	20.9%
18	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	1.3%	2.9%
19	サービス業(他に分類されないもの)	17.5%	13.2%
20	公務(他に分類されるものを除く)	4.3%	2.5%
21	その他	3.0%	2.7%
	全体	1,000	1,000

図表 33 勤務したことがある事業所の種類 (介護関係)

Q17	これまでに勤務したことがある事業所の種類(介護関係)を教えてください。	R5	R4
		(Q17)	(Q18)
1	養護老人ホーム	12.7%	14.1%
2	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	29.5%	24.9%
3	介護老人保健施設	17.5%	17.1%
4	介護医療院・介護療養型医療施設	8.9%	7.9%
5	ケアハウス	6.4%	4.8%
6	通所介護(デイサービス)	27.2%	26.5%
7	通所リハビリテーション(デイケア)	7.8%	7.2%
8	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	12.2%	11.3%
9	訪問介護、訪問リハビリテーション	13.1%	12.0%
10	有料老人ホーム	16.0%	15.1%
11	サービス付き高齢者向け住宅	9.0%	7.6%
12	居宅介護支援事業所	8.4%	8.8%
13	その他	12.4%	13.2%
	全体	1,000	1,000

図表 34 経験したことがある業務（介護関係）

Q18	これまでに経験したことがある業務（介護関係）を教えてください。	R5 (Q18)	R4 (Q19)
1	マネジメント（経営関連）	14.2%	N/A
2	現場でのチームマネジメント	20.3%	N/A
3	他職員への指導	30.5%	N/A
4	利用者のケアのマネジメント（ケアプラン・介護計画の作成等）	24.6%	N/A
5	利用者の介護	71.2%	85.7%
6	介護の周辺業務（介護助手など）	32.6%	28.7%
7	その他	6.2%	7.9%
	全体	1,000	1,000

図表 35 現在の転職意向の有無

Q19	現在の転職意向の有無を教えてください。	R5 (Q19)	R4 (Q21)
1	転職活動をしている（情報収集等を行っている）	20.5%	21.7%
2	転職を検討している（情報収集等は始めている）	25.5%	24.6%
3	転職は考えていない	54.0%	53.7%
	全体	1,000	1,000

図表 36 転職を検討している理由（上位5つまで）

Q20	現在転職を検討している理由を教えてください。（上位5つまで）	R5 (Q20)	R4 (Q22)
1	仕事にやりがいを感じないから	26.7%	30.7%
2	負担の大きい仕事だから	41.3%	N/A
3	自分の資格・スキルを生かすことができないから	24.1%	18.8%
4	通勤が不便だから	17.4%	N/A
5	給与が低いから	45.7%	51.4%
6	勤務時間に融通が利かないから	12.6%	N/A
7	休暇が取りにくいから	20.2%	N/A
8	職場の人間関係が悪いから	18.7%	35.2%
9	勤務環境に不満があったから	19.3%	37.1%
10	企業・事業所の理念が合わないから	10.2%	22.2%
11	会社の将来性・安定性に不安があるから	13.3%	21.6%
12	雇用形態（正社員／契約社員／派遣社員）を変えたいから	7.2%	10.4%
13	定年を迎えた、または契約期間が満了となるから	3.5%	3.2%
14	結婚や出産等の環境の変化がある（あった）から	7.0%	8.9%
15	配偶者の転勤等により、勤務地を変えたいから	2.2%	5.0%
16	その他	2.8%	3.9%
	全体	460	463

図表 37 転職先として考えている業種

Q21	転職先として考えている業種を教えてください。	R5	R4
		(Q21)	(Q23)
1	医療, 福祉(介護の仕事)	49.3%	47.7%
2	医療, 福祉(介護の仕事以外)	27.4%	34.6%
3	農業, 林業	4.3%	6.5%
4	漁業	4.1%	4.8%
5	鉱業, 採石業, 砂利採取業	3.3%	2.6%
6	建設業	4.6%	5.0%
7	製造業	8.0%	8.9%
8	電気・ガス・熱供給・水道業	3.3%	3.2%
9	情報通信業	5.4%	3.2%
10	運輸業, 郵便業	4.3%	4.3%
11	卸売業, 小売業	4.8%	3.0%
12	金融業, 保険業	2.8%	1.7%
13	不動産業, 物品賃貸業	3.0%	1.7%
14	学術研究, 専門・技術サービス業	3.0%	3.7%
15	宿泊業, 飲食サービス業	6.3%	6.0%
16	生活関連サービス業, 娯楽業	10.0%	7.3%
17	教育, 学習支援業	6.1%	5.2%
18	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	4.8%	5.4%
19	サービス業(他に分類されないもの)	10.0%	10.2%
20	公務(他に分類されるものを除く)	2.2%	2.6%
21	その他	0.9%	0.2%
22	特に決めていない	10.0%	8.2%
	全体	460	463

図表 38 転職先選びの際に重視すること(上位3つまで)

Q22	転職先選びの際に重視することを教えてください。 (上位3つまで)	R5	R4
		(Q22)	(Q24)
1	通勤に便利なこと	45.4%	44.9%
2	給与が良いこと	58.3%	59.2%
3	キャリアアップ・スキルアップができること	22.6%	17.7%
4	勤務時間に融通が効くこと	20.9%	23.1%
5	休暇が取りやすいこと	31.5%	29.6%
6	職場の雰囲気・人間関係が良いこと	35.2%	32.0%
7	福利厚生が整っていること	18.0%	16.6%
8	経営が安定していること	10.4%	9.7%
9	知人や友人が在籍していること	1.5%	0.9%
10	その他	0.4%	0.4%
	全体	460	463



図表 39 介護業界で働くことを考え始めた時期

Q23	介護業界で働くことを考え始めた時期を教えてください。	R5 (Q23)	R4 (Q25)
1	中学生以下の時	5.8%	7.8%
2	高校生・高専生の時	15.5%	17.5%
3	専門学校生・短大生・大学生・大学院生の時(就職活動より前)	12.5%	11.1%
4	専門学校生・短大生・大学生・大学院生の時(就職活動を始めた後)	9.3%	9.0%
5	就職後(転職先として介護業界で働くことを検討した)	56.9%	54.6%
	全体	1,000	1,000

図表 40 介護業界で働くことを考え始めたきっかけ

Q24	介護業界で働くことを考え始めたきっかけを教えてください。	R5 (Q24)	R4 (Q26)
1	身近な人の介護をしたこと、見たこと	30.7%	33.1%
2	身近に介護の仕事をしている人がいたこと	25.9%	25.9%
3	職場体験・インターンシップなどで介護施設を訪問したこと	17.9%	17.0%
4	介護に関する授業を受けたこと	17.5%	15.9%
5	新聞や雑誌、インターネット等で介護の仕事について知ったこと	17.0%	19.1%
6	その他	15.1%	12.8%
	全体	1,000	1,000

図表 41 介護業界で働くことを考え始めたきっかけ (その他)  
(主なものを抜粋)

- ハローワークの紹介
- 求人で見つ
- 知人の紹介

図表 42 介護の仕事に対するイメージ (入職前に抱いていたイメージ)

Q25	介護の仕事に対して、入職前に抱いていたイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R5 全体 (Q25)						R4 全体 (Q27)					
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い		とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い
Q25S1	社会的意義の大きさ	1,000	22.5%	36.1%	37.2%	2.8%	1.4%	1,000	22.1%	39.1%	33.7%	3.4%	1.7%
Q25S2	やりがいの大きさ	1,000	21.6%	38.5%	34.3%	3.8%	1.8%	1,000	20.9%	42.9%	29.5%	5.0%	1.7%
Q25S3	仕事内容の楽しさ	1,000	12.7%	30.6%	42.9%	9.3%	4.5%	1,000	10.6%	30.0%	41.6%	11.9%	5.9%
Q25S4	資格や専門知識の活かしやすさ	1,000	17.0%	33.9%	42.1%	5.0%	2.0%	1,000	16.5%	41.0%	36.5%	3.6%	2.4%
Q25S5	体力的負担について	1,000	10.4%	23.1%	39.8%	16.2%	10.5%	1,000	11.6%	21.4%	34.5%	19.8%	12.7%
Q25S6	精神的負担について	1,000	10.7%	21.6%	41.8%	16.8%	9.1%	1,000	10.7%	22.2%	35.9%	19.0%	12.2%
Q25S7	給与について	1,000	8.4%	23.3%	40.1%	17.7%	10.5%	1,000	7.8%	20.6%	38.7%	19.6%	13.3%
Q25S8	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	1,000	11.2%	28.8%	46.1%	9.3%	4.6%	1,000	11.8%	30.0%	43.2%	10.8%	4.2%
Q25S9	働きやすさ	1,000	11.2%	28.0%	48.3%	8.4%	4.1%	1,000	11.4%	30.6%	44.6%	9.9%	3.5%
Q25S10	今後成長していく業界だと思うか	1,000	13.3%	34.5%	44.2%	5.1%	2.9%	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q25S11	人の役に立つことができるかどうか	1,000	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1,000	11.1%	29.1%	42.2%	12.3%	5.3%
Q25S12	休暇の取りやすさ	1,000	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1,000	11.4%	30.6%	44.6%	9.9%	3.5%

図表 43 介護の仕事に対するイメージ（入職後に感じたイメージ）

Q26	介護の仕事に対して、現在（入職後に）持っているイメージを教えてください。（各項目について当てはまるものを1つ選んでください）	R5 全体 (Q26)	1	2	3	4	5	R4 全体 (Q28)	1	2	3	4	5
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い		とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い
Q26S1	社会的意義の大きさ	1,000	20.6%	36.1%	36.3%	4.4%	2.6%	1,000	21.7%	36.1%	34.3%	5.7%	2.2%
Q26S2	やりがいの大きさ	1,000	18.4%	37.8%	35.5%	4.5%	3.8%	1,000	20.8%	41.6%	29.7%	5.3%	2.6%
Q26S3	仕事内容の楽しさ	1,000	12.7%	31.1%	41.3%	9.1%	5.8%	1,000	12.5%	29.6%	40.2%	10.5%	7.2%
Q26S4	資格や専門知識の活かしやすさ	1,000	15.4%	35.1%	40.8%	5.9%	2.8%	1,000	16.1%	38.5%	37.4%	5.5%	2.5%
Q26S5	体力的負担について	1,000	10.9%	22.7%	36.4%	16.7%	13.3%	1,000	10.1%	22.0%	30.9%	20.8%	16.2%
Q26S6	精神的負担について	1,000	10.1%	22.0%	36.8%	18.4%	12.7%	1,000	9.7%	22.6%	30.5%	20.1%	17.1%
Q26S7	給与について	1,000	8.9%	23.3%	37.5%	16.9%	13.4%	1,000	8.8%	21.5%	34.5%	19.2%	16.0%
Q26S8	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	1,000	12.9%	32.7%	38.3%	9.6%	6.5%	1,000	11.2%	29.7%	39.7%	12.5%	6.9%
Q26S9	働きやすさ	1,000	12.6%	31.1%	41.6%	8.3%	6.4%	1,000	11.1%	29.8%	39.8%	13.0%	6.3%
Q26S10	今後成長していく業界だと思うか	1,000	12.5%	30.4%	43.7%	7.6%	5.8%	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q26S11	人の役に立つことができるかどうか	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1,000	23.2%	41.6%	29.8%	3.3%	2.1%
Q26S12	休職の取りやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1,000	10.6%	29.0%	37.0%	14.9%	8.5%

図表 44 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

Q27	介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R5 (Q27)	R4 (Q29)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	26.8%	28.2%
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	28.2%	32.6%
3	親族から聞いた話	14.8%	13.0%
4	知人・友人から聞いた話	13.1%	16.2%
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	12.1%	10.9%
6	介護に関するイベント	10.5%	9.0%
7	介護に関するテレビ番組	12.8%	14.2%
8	介護に関するラジオ番組	5.5%	3.5%
9	介護に関する新聞記事・広告	6.0%	7.2%
10	介護に関する雑誌記事	5.2%	5.8%
11	介護に関する書籍・漫画	5.1%	5.5%
12	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	7.1%	5.4%
13	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	6.2%	5.2%
14	介護に関する映画	3.4%	2.5%
15	その他	1.2%	1.0%
16	わからない	11.8%	10.3%
17	介護の仕事に対して良いイメージは持っていない	18.7%	15.3%
	全体	1,000	1,000

図表 45 介護の仕事をしている中で「良かった」と感じること（介護の仕事の魅力だと思うこと）

Q29	介護の仕事をしている中で「良かった」と感じること（介護の仕事の魅力だと思うこと）を教えてください。（各項目について当てはまるものを1つ選んでください）	R5 全体 (Q29)	1	2	3	4	5	R4 全体 (Q32)	1	2	3	4	5
			とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない		とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
Q29S1	社会的意義が大きいこと(社会の役に立てること)	1,000	21.0%	39.3%	32.0%	4.7%	3.0%	1,000	21.3%	40.1%	29.5%	6.1%	3.0%
Q29S2	やりがいがあること	1,000	20.3%	39.3%	31.4%	5.5%	3.5%	1,000	21.5%	39.6%	29.1%	6.4%	3.4%
Q29S3	利用者や利用者の家族から感謝されること	1,000	22.7%	36.5%	33.3%	4.5%	3.0%	1,000	23.7%	38.8%	29.5%	5.3%	2.7%
Q29S4	仕事内容自体が楽しいこと	1,000	13.5%	32.9%	40.5%	7.9%	5.2%	1,000	13.6%	31.8%	38.2%	10.2%	6.2%
Q29S5	資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられる)こと	1,000	16.4%	34.4%	39.7%	6.2%	3.3%	1,000	15.5%	36.5%	35.2%	8.2%	4.6%
Q29S6	給与が良いこと	1,000	9.8%	19.7%	39.8%	16.7%	14.0%	1,000	8.7%	21.1%	35.9%	18.0%	16.3%
Q29S7	勤務日や勤務時間に融通が利くこと	1,000	14.1%	31.5%	38.5%	8.8%	7.1%	1,000	11.9%	29.5%	39.4%	12.0%	7.2%
Q29S8	未経験でも始めやすいこと	1,000	15.8%	35.8%	36.7%	7.7%	4.0%	1,000	15.8%	36.9%	36.1%	7.2%	4.0%
Q29S9	就職先・転職先が見つかりやすいこと	1,000	16.8%	37.0%	38.7%	4.5%	3.0%	1,000	17.5%	36.8%	36.4%	6.1%	3.2%
Q29S10	休職が取りやすきこと	1,000	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1,000	13.0%	29.6%	36.0%	13.2%	8.2%
Q29S11	人の役に立てること	1,000	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1,000	23.9%	40.4%	28.0%	5.2%	2.5%



図表 46 介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事  
(介護の仕事の魅力だと思うこと) その他

- キャリアアップできること。
- 親を介護する時の参考になること。
- 同世代以外の人と関わりを持つことができ、人生経験が長い方の貴重なお話を聞けること。

図表 47 介護の仕事をしていて特に辛かったこと、「嫌だ」と感じる事

Q31	介護の仕事をしていて特に辛かったこと、「嫌だ」と感じる事を教えてください。	R5	R4
		(Q31)	(Q34)
1	利用者や利用者の家族とのコミュニケーションが大変なこと	38.5%	40.2%
2	入浴介助や排泄介助などの業務が体力的にきついこと	39.2%	42.0%
3	職場の雰囲気や人間関係が良くないこと	33.4%	33.8%
4	給与が良くないこと	50.2%	50.0%
5	勤務時間が長いこと、残業が多いこと	22.2%	25.7%
6	夜勤があること	16.8%	17.7%
7	その他	2.3%	2.6%
8	特になし	12.8%	9.9%
	全体	1,000	1,000

図表 48 介護の仕事に就いていることを誇りに感じているか否か

Q32	介護の仕事に就いていることを誇りに感じていますか。	R5	R4
		(Q32)	(Q35)
1	誇りに感じる	41.7%	43.3%
2	誇りに感じてはいない	26.8%	26.0%
3	どちらともいえない	31.5%	30.7%
	全体	1,000	1,000

図表 49 介護の仕事に就いていることを誇りに感じる／感じてはいない理由  
(主なものを抜粋)

Q32 の回答	その理由
誇りに感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会に貢献のできる仕事だから。</li> <li>• 現代社会において、無くてはならない職業だから。</li> <li>• 専門性がある仕事だから。</li> <li>• 誰にでもできるようでできない職種だと思うから。</li> <li>• 日々感謝されるありがたみを感じられるから。</li> <li>• 人の役に立てていると実感できるから。</li> </ul>
誇りに感じてはいない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本的に誰でもできる仕事なので。</li> <li>• 社会的地位が低い仕事と感じるから。</li> <li>• 体力的、精神的にきついうえに給料も少ないから。</li> </ul>

図表 50 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q34	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q34)	R4 (Q39)
1	積極的に勧めたいと思う	N/A	9.5%
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う (R4: 本人が興味を持っているならば勧めたいと思う(止めない))	48.0%	61.8%
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える (R4: 本人の希望があったとしても一度止める)	39.4%	19.7%
4	本人の希望があったとしても反対する (R4: 本人の希望があったとしても止めるように説得する)	12.6%	9.0%
	全体	1,000	1,000

図表 51 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応の理由  
(主なものを抜粋)

Q34 の回答	その理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的に重要な仕事だから。</li> <li>やりがいと生きがいをみつけることができる仕事であるから。</li> <li>以前に比べて給与水準も上がってきており、社会的に需要が増えている仕事だから。</li> <li>慢性的に人手不足だから。</li> </ul>
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も健闘したほうが良いのではないか」と伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力もいるし、精神的にもきつい仕事だから。</li> <li>やりがいはあるが、家族を養うには給料が少ないから。</li> <li>本当に介護の仕事が好きでないと出来ない仕事だから、軽々しく勧めすることは出来ない。</li> </ul>
本人の希望があったとしても反対する	<ul style="list-style-type: none"> <li>給料が安い一方することが多くて割に合わないから。</li> <li>身体的、精神的に大変なので。</li> </ul>

図表 52 インターネット利用端末の種類

Q36	インターネット利用端末の種類	R5 (Q36)	R4 (Q41)
1	スマートフォン	90.3%	92.5%
2	パソコン	43.7%	43.1%
3	タブレット型端末	18.7%	19.0%
4	テレビ	30.7%	32.8%
5	家庭用ゲーム機	14.7%	13.9%
6	携帯電話・PHS(スマートフォン除く)	5.0%	4.7%
7	その他	0.1%	-
8	インターネットは利用していない	1.9%	0.5%
	全体	1,000	1,000

図表 53 インターネット利用端末の利用目的

Q37	インターネット利用端末の利用目的	R5 (Q37)	R4 (Q42)
1	電子メールの送受信	62.1%	67.0%
2	ホームページやブログの閲覧、書き込み又は開設・更新	38.5%	39.8%
3	ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の利用	54.0%	55.9%
4	業務目的でのオンライン会議システムの利用	16.6%	13.5%
5	動画投稿・共有サイトの利用	26.8%	31.5%
6	オンラインゲームの利用	17.9%	20.6%
7	情報検索	33.5%	32.9%
8	eラーニング	9.8%	10.3%
9	オンライン診療の利用	5.8%	5.3%
10	商品・サービスの購入・取引	32.3%	36.0%
11	金融取引	17.6%	16.8%
12	デジタルコンテンツの購入・取引	13.5%	11.6%
13	インターネットオークション、フリーマーケットアプリによる購入・取引	22.6%	25.4%
14	電子政府・電子自治体の利用	8.0%	6.5%
15	その他	1.8%	1.3%
	全体	981	995

(3) 学生調査

図表 54 配偶者の有無

Q1	配偶者の有無を教えてください。(事実婚や同性パートナーを含みます)	R5 (Q1)	R4
1	現在、配偶者がいる	4.0%	N/A
2	現在、配偶者はいない	96.0%	N/A
	全体	500	N/A

図表55 学部・学科

Q2	現在通っている学部・学科を教えてください。	R5 (Q2)	R4 (Q2)
1	普通科	69.4%	69.8%
2	福祉系の学科	4.6%	4.0%
3	保健・医療系の学科	10.6%	9.4%
4	その他	15.4%	16.8%
	全体	500	500

図表 56 学年

Q3	現在の学年を教えてください。								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R5(Q3)	500	500	1,255	2.51	1.142	1	6	3
	R4(Q3)	500	500	1,266	2.53	1.164	1	7	3

図表 57 学年

NQ3T1	現在の学年を教えてください。	R5 (NQ3T1)	R4 (NQ3T1)
1	1年生	22.6%	22.0%
2	2年生	27.4%	28.0%
3	3年生	31.4%	30.2%
4	4年生以上	18.6%	19.8%
	全体	500	500

図表 58 就職先として考えている業界・興味がある業界

Q4	就職先として考えている業界・興味がある業界を教えてください。	R5 (Q4)	R4 (Q4)
1	農業, 林業	1.4%	2.6%
2	漁業	0.8%	0.4%
3	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.8%	0.6%
4	建設業	2.2%	2.0%
5	製造業	6.8%	4.2%
6	電気・ガス・熱供給・水道業	2.0%	1.0%
7	情報通信業	5.2%	5.2%
8	運輸業, 郵便業	1.8%	3.0%
9	卸売業, 小売業	3.2%	4.8%
10	金融業, 保険業	3.8%	3.8%
11	不動産業, 物品賃貸業	1.2%	1.6%
12	学術研究, 専門・技術サービス業	3.6%	4.8%
13	宿泊業, 飲食サービス業	4.0%	3.6%
14	生活関連サービス業, 娯楽業	3.6%	4.4%
15	教育, 学習支援業	7.4%	8.0%
16	医療, 福祉(介護の仕事)	4.6%	5.0%
17	医療, 福祉(介護の仕事以外)	13.4%	16.6%
18	複合サービス事業(郵便局・農業協同組合など)	2.4%	2.0%
19	サービス業(他に分類されないもの)	7.0%	6.8%
20	公務(他に分類されるものを除く)	8.8%	7.6%
21	その他	3.8%	3.8%
22	特に考えていない	47.0%	45.6%
	全体	500	500

図表 59 上記の業界を就職先として考えている・興味がある理由

Q5	1つ前の質問で選んだ業界について、なぜその業界に興味があるのかを教えてください。	R5 (Q5)	R4 (Q5)
1	社会的意義が大きそうだから	23.4%	21.0%
2	社会的な評価が高そうだから	8.3%	14.0%
3	やりがいがありそうだから	41.9%	44.9%
4	人の役に立てそうだから	34.0%	37.1%
5	仕事内容自体が楽しそうだから	23.4%	30.1%
6	資格や専門知識を活かすことができそう(身に付けられそう)だから	24.2%	30.1%
7	体力的負担が軽そうだから	5.3%	6.6%
8	精神的負担が軽そうだから	4.9%	8.1%
9	給与が良さそうだから	23.8%	22.1%
10	勤務時間に融通が利きそうだから	7.5%	7.7%
11	休暇が取りやすそうだから	6.4%	11.0%
12	未経験でも始めやすそうだから	8.7%	8.8%
13	就職しやすそうだから	9.4%	10.3%
14	その他	2.6%	2.9%
	全体	265	272

図表 60 就職先選びの際に重視すること（上位5つまで）

Q6	就職先選びの際に重視することを教えてください。 (上位5つまで)	R5 (Q6)	R4 (Q6)
1	社会的意義が大きいこと	17.2%	11.6%
2	社会的な評価が高いこと	12.4%	7.8%
3	やりがいがあること	43.8%	30.8%
4	人の役に立てること	31.4%	19.6%
5	仕事内容自体が楽しいこと	34.2%	31.8%
6	資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられる)こと	20.6%	20.2%
7	体力的負担が軽いこと	16.0%	15.8%
8	精神的負担が軽いこと	21.2%	25.6%
9	給与が良いこと	42.4%	45.2%
10	勤務時間に融通が利くこと	19.0%	20.0%
11	休暇が取りやすいこと	27.6%	30.0%
12	未経験でも始めやすいこと	11.6%	14.0%
13	就職しやすいこと	19.0%	17.6%
14	その他	2.0%	2.2%
	全体	500	500

図表 61 就職先選びの際に特に参考とする情報源（上位3つまで）

Q7	就職先選びの際に特に参考にする(参考にしたい)情報を教えてください。(上位3つまで)	R5 (Q7)	R4 (Q7)
1	親族の意見	41.4%	28.0%
2	学校の先生の意見	30.0%	25.2%
3	学校の就職課やキャリアサポートセンターの意見	29.6%	31.8%
4	知人・友人の意見	26.0%	25.0%
5	新卒向けの就職情報サイト	28.0%	33.0%
6	個別の企業・各種団体等のホームページ	25.2%	29.2%
7	合同企業説明会	16.4%	22.4%
8	その他	2.0%	3.4%
	全体	500	500

図表 62 介護の仕事に対する理解度

Q8	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R5 (Q8)	R4 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	17.0%	14.0%
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	52.8%	57.6%
3	まったく知らない	30.2%	28.4%
	全体	500	500

図表 63 学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたりした経験の有無

Q9	学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたことがありますか。	R5 (Q9)	R4 (Q9)
1	学校で介護についての授業を受けたことがある	18.6%	20.8%
2	介護の現場でボランティアをしたことがある	14.4%	10.8%
3	介護の現場で実習や職場体験・インターンシップをしたことがある	13.4%	8.6%
4	上記のいずれも経験がない	42.4%	46.2%
5	覚えていない	21.2%	19.2%
	全体	500	500

図表 64 上記のような体験をした際に介護や介護の仕事について受けた印象

Q10	そういった体験をした時、「介護」や「介護の仕事」についてどのような印象を受けましたか。	R5 (Q10)	R4
1	やりがいがある	28.6%	N/A
2	社会的意義がある	31.9%	N/A
3	楽しそう	16.5%	N/A
4	自分に向いていそう	9.3%	N/A
5	精神的に大変そう	51.6%	N/A
6	体力的に大変そう	51.6%	N/A
7	その他	0.5%	N/A
	全体	182	N/A

図表 65 就職イベント等における「介護の仕事」への接触経験の有無

Q11	就職イベント等で「介護の仕事」に関する説明を聞いたり、見たりしたことはありますか。	R5 (Q11)	R4 (Q11)
1	学内の就職イベント等で聞いたり、見たりしたことがある	13.4%	13.8%
2	学外の就職イベント等で聞いたり、見たりしたことがある	20.4%	17.0%
3	就職イベント等で「介護の仕事」に関する説明を聞いたり、見たりしたことはない	69.8%	70.6%
	全体	500	500

図表 66 介護の仕事への関心

Q12	介護の仕事に関心がありますか。	R5 (Q12)	R4 (Q12)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	19.0%	17.2%
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	45.8%	47.8%
3	どちらともいえない	35.2%	35.0%
	全体	500	500



図表 67 介護の仕事は就職先として魅力的だと感じるか否か

Q13	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R5	R4
		(Q13)	(Q13)
	1 思う	19.0%	18.6%
	2 思わない	45.0%	44.4%
	3 どちらともいえない	36.0%	37.0%
	全体	500	500

図表 68 介護の仕事に対するイメージ

Q14	介護の仕事に対するイメージを教えてください。 (各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R5 全体 (Q14)	1	2	3	4	5	加重平均	R4 全体 (Q14)	1	2	3	4	5	加重平均
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	
			[5]	[4]	[3]	[2]	[1]			[5]	[4]	[3]	[2]	[1]	
Q14S1	社会的意義の大きさ	500	27.0%	31.6%	33.8%	5.6%	2.2%	3.76	500	30.0%	31.8%	31.6%	4.2%	2.4%	3.83
Q14S2	やりがいの大きさ	500	20.8%	33.0%	37.4%	5.8%	3.0%	3.63	500	19.0%	33.6%	38.2%	5.4%	3.8%	3.59
Q14S3	仕事内容の楽しさ	500	6.8%	15.6%	43.8%	21.4%	12.4%	2.83	500	6.4%	18.6%	43.2%	18.2%	13.6%	2.86
Q14S4	資格や専門知識の活かしやすさ	500	15.6%	33.8%	39.8%	7.4%	3.4%	3.51	500	14.6%	28.8%	43.8%	8.6%	4.2%	3.41
Q14S5	体力的負担について	500	10.4%	11.4%	31.0%	23.6%	23.6%	2.61	500	13.0%	15.8%	28.6%	22.2%	20.4%	2.79
Q14S6	精神的負担について	500	9.4%	13.2%	32.2%	22.8%	22.4%	2.64	500	10.0%	17.8%	31.4%	22.2%	18.6%	2.78
Q14S7	給与について	500	6.4%	14.2%	41.4%	21.2%	16.8%	2.72	500	6.8%	15.0%	42.0%	20.6%	15.6%	2.77
Q14S8	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	500	6.8%	13.8%	45.0%	20.8%	13.8%	2.79	500	5.4%	19.4%	43.2%	19.2%	12.8%	2.85
Q14S9	働きやすさ	500	6.6%	14.8%	47.2%	19.0%	12.4%	2.84	500	5.6%	17.0%	46.4%	18.6%	12.4%	2.84
Q14S10	今後成長していく業界だと思うか	500	10.8%	26.2%	44.6%	11.0%	7.4%	3.22	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q14S11	人の役に立つことができるかどうか	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	500	32.6%	33.4%	27.6%	3.4%	3.0%	3.89
Q14S12	休みの取りやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	500	3.8%	16.4%	42.6%	24.8%	12.4%	2.74

図表 69 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

Q15	介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R5	R4
		(Q15)	(Q15)
	1 身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	12.8%	13.2%
	2 実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	19.0%	16.6%
	3 親族から聞いた話	16.2%	15.0%
	4 知人・友人から聞いた話	9.0%	9.4%
	5 学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	10.8%	13.8%
	6 介護に関するイベント	8.8%	4.6%
	7 介護に関するテレビ番組	15.2%	15.6%
	8 介護に関するラジオ番組	2.8%	1.4%
	9 介護に関する新聞記事・広告	5.0%	2.8%
	10 介護に関する雑誌記事	2.4%	3.0%
	11 介護に関する書籍・漫画	3.4%	3.6%
	12 介護に関するWEBコンテンツ(記事)	4.0%	5.4%
	13 介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	5.4%	4.2%
	14 介護に関する映画	2.0%	2.0%
	15 その他	0.2%	0.4%
	16 わからない	11.4%	17.4%
	17 介護の仕事に対して良いイメージは持っていない	33.6%	28.6%
	全体	500	500

図表 70 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q17	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q17)	R4 (Q18)
1	積極的に勧めたいと思う	N/A	8.2%
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う (R4: 本人が興味を持っているならば勧めたいと思う(止めない))	54.2%	64.0%
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないかと伝える (R4: 本人の希望があったとしても一度止める)	28.0%	13.0%
4	本人の希望があったとしても反対する (R4: 本人の希望があったとしても止めるように説得する)	17.8%	14.8%
	全体	500	500

図表 71 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応の理由  
(主なものを抜粋)

Q18 の回答	その理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>友人のやりたいことをやってほしいから。</li> <li>介護の仕事は魅力もたくさんあり社会に貢献できる仕事だから。</li> <li>現在人手が必要と言われている職種だから。</li> </ul>
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も健闘したほうが良いのではないかと伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護は体力的にも精神的にも大変な仕事だから。</li> <li>給与をはじめとする労働環境が悪いイメージがあるから。</li> <li>精神的な負担が大きい仕事で長く続けることが難しそうだから。</li> </ul>
本人の希望があったとしても反対する	<ul style="list-style-type: none"> <li>負担に給与が見合わないから。</li> <li>介護の仕事は体力的にも精神的にもきつそうだから。</li> <li>拘束時間が長く、自分の時間を持ってないから。</li> </ul>

図表 72 インターネット利用端末の種類

Q19	インターネット利用端末の種類	R5 (Q19)	R4 (Q19)
1	スマートフォン	85.6%	88.4%
2	パソコン	43.2%	41.8%
3	タブレット型端末	23.4%	21.8%
4	テレビ	28.8%	27.2%
5	家庭用ゲーム機	17.6%	17.0%
6	携帯電話・PHS(スマートフォン除く)	2.6%	1.8%
7	その他	-	-
8	インターネットは利用していない	8.0%	5.6%
	全体	500	500

図表 73 インターネット利用端末の利用目的

Q20	インターネット利用端末の利用目的	R5 (Q20)	R4 (Q20)
1	電子メールの送受信	51.3%	49.4%
2	ホームページやブログの閲覧、書き込み又は開設・更新	25.4%	29.9%
3	ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の利用	68.9%	63.3%
4	業務目的でのオンライン会議システムの利用	8.3%	8.9%
5	動画投稿・共有サイトの利用	38.9%	41.9%
6	オンラインゲームの利用	32.2%	31.1%
7	情報検索	31.1%	33.9%
8	eラーニング	6.3%	5.5%
9	オンライン診療の利用	2.6%	3.8%
10	商品・サービスの購入・取引	26.7%	28.0%
11	金融取引	5.2%	9.1%
12	デジタルコンテンツの購入・取引	11.1%	12.1%
13	インターネットオークション、フリーマーケットアプリによる購入・取引	19.6%	23.3%
14	電子政府・電子自治体の利用	6.7%	7.2%
15	その他	0.7%	1.7%
	全体	460	472

#### (4) 保護者調査

図表 74 配偶者の有無

Q1	配偶者の有無を教えてください。(事実婚や同性パートナーを含みます)	R5 (Q1)	R4
1	現在、配偶者がいる	91.0%	N/A
2	現在、配偶者はいない	9.0%	N/A
	全体	500	N/A

図表 75 世帯年収

Q2	世帯年収を教えてください。	R5 (Q2)	R4 (Q2)
1	100万円未満	1.8%	1.2%
2	100～200万円未満	2.0%	2.2%
3	200～300万円未満	4.2%	5.4%
4	300～400万円未満	8.2%	7.0%
5	400～500万円未満	10.6%	9.6%
6	500～600万円未満	10.0%	11.0%
7	600～700万円未満	10.0%	11.0%
8	700～800万円未満	9.0%	12.6%
9	800万円以上	24.6%	25.6%
10	回答しない	19.6%	14.4%
	全体	500	500

図表 76 子どもに就いて欲しい業種

Q3	子どもに就いて欲しい業種を教えてください。	R5 (Q3)	R4 (Q3)
1	農業, 林業	1.0%	1.0%
2	漁業	1.0%	0.0%
3	鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.8%	0.4%
4	建設業	5.0%	6.2%
5	製造業	16.2%	13.2%
6	電気・ガス・熱供給・水道業	3.6%	3.6%
7	情報通信業	10.0%	10.4%
8	運輸業, 郵便業	3.6%	4.4%
9	卸売業, 小売業	6.6%	4.6%
10	金融業, 保険業	6.0%	6.0%
11	不動産業, 物品賃貸業	2.4%	2.4%
12	学術研究, 専門・技術サービス業	9.2%	11.4%
13	宿泊業, 飲食サービス業	2.2%	2.2%
14	生活関連サービス業, 娯楽業	2.8%	1.8%
15	教育, 学習支援業	7.0%	6.8%
16	医療, 福祉(介護の仕事)	3.4%	3.4%
17	医療, 福祉(介護の仕事以外)	11.0%	9.8%
18	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	4.0%	3.0%
19	サービス業(他に分類されないもの)	6.4%	4.8%
20	公務(他に分類されるものを除く)	14.2%	14.4%
21	その他	0.8%	0.4%
22	特に考えていない	35.6%	33.0%
	全体	500	500

図表 77 子どもが就職する際に気になること（上位3つまで）

Q4	子どもが就職する際に気になることを教えてください。（上位3つまで）	R5 (Q4)	R4 (Q4)
1	給与が高いか	29.2%	32.8%
2	勤務時間に融通が利くか	17.4%	22.2%
3	勤務場所に融通が利くか	15.4%	15.6%
4	求人が多い職業か	1.8%	2.4%
5	資格取得などにより「手に職がつけられる」職業か	11.2%	16.0%
6	業務内容が本人の関心に沿っているか	37.0%	47.2%
7	やりがいがある職業か	40.2%	41.0%
8	精神的・肉体的負担が重くないか	38.0%	N/A
9	将来性がある職業か	31.0%	36.8%
10	社会的ステータスが高い（イメージが良い）か	5.4%	6.2%
11	その他	2.2%	1.4%
	全体	500	500

図表 78 子どもの就職活動への関わり方

Q5	子どもの就職活動への関わり方を教えてください。	R5 (Q5)	R4 (Q5)
1	就職先候補の業界などを積極的に提案したい	9.4%	9.2%
2	子どもから相談があればアドバイスしたい	66.6%	68.2%
3	完全に子どもに任せたい	24.0%	22.6%
	全体	500	500

図表 79 家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問した経験の有無

Q6	家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問したことがありますか。	R5 (Q6)	R4 (Q6)
1	ある	16.4%	19.4%
2	ない	83.6%	80.6%
	全体	500	500

図表 80 介護関係の施設・事業所を訪問した際に抱いた印象

Q7	介護関係の施設・事業所を訪問した際に感じたことを教えてください。	R5 (Q7)	R4
1	施設の雰囲気が明るいと感じた	29.3%	N/A
2	施設が綺麗だと感じた	34.1%	N/A
3	施設の職員が親切だった、優しかった	43.9%	N/A
4	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	18.3%	N/A
5	施設の雰囲気が暗いと感じた	19.5%	N/A
6	施設が汚いと感じた	11.0%	N/A
7	介護の仕事は大変そうだと感じた	45.1%	N/A
8	その他	-	N/A
	全体	82	N/A

図表 81 介護の仕事に関する理解度

Q8	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R5 (Q8)	R4 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	18.6%	19.4%
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	58.0%	54.4%
3	まったく知らない	23.4%	26.2%
	全体	500	500

図表 82 介護の仕事への関心

Q9	介護の仕事に関心がありますか。	R5 (Q9)	R4 (Q9)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	12.8%	15.2%
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	54.2%	56.4%
3	どちらともいえない	33.0%	28.4%
	全体	500	500

図表 83 介護の仕事は就職先として魅力的だと感じるか否か

Q10	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R5 (Q10)	R4 (Q10)
1	思う	8.4%	8.0%
2	思わない	54.6%	57.2%
3	どちらともいえない	37.0%	34.8%
	全体	500	500

図表 84 介護の仕事に対するイメージ

Q11	介護の仕事に対するイメージを教えてください。 (各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R5 全体 (Q11)	1	2	3	4	5	加重平均	R4 全体 (Q11)	1	2	3	4	5	加重平均
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	
			[5]	[4]	[3]	[2]	[1]			[5]	[4]	[3]	[2]	[1]	
Q11S1	社会的意義の大きさ	500	27.4%	33.8%	32.6%	3.6%	2.6%	3.80	500	28.2%	38.4%	29.8%	3.6%	2.0%	3.83
Q11S2	やりがいの大きさ	500	14.6%	30.2%	44.6%	6.0%	4.4%	3.45	500	11.0%	35.4%	44.0%	6.0%	3.6%	3.44
Q11S3	仕事内容の楽しさ	500	4.4%	12.8%	47.6%	22.0%	13.2%	2.73	500	3.0%	14.0%	48.0%	21.8%	13.2%	2.72
Q11S4	資格や専門知識の活かしやすさ	500	11.2%	30.6%	48.2%	5.6%	4.4%	3.39	500	10.0%	37.8%	42.8%	6.6%	2.8%	3.46
Q11S5	体力的負担について	500	10.2%	9.6%	28.0%	25.0%	27.2%	2.51	500	9.8%	13.4%	25.6%	26.2%	25.0%	2.57
Q11S6	精神的負担について	500	10.0%	8.8%	28.6%	26.8%	25.8%	2.50	500	8.2%	13.6%	27.8%	28.8%	21.6%	2.58
Q11S7	給与について	500	3.4%	6.6%	32.2%	29.0%	26.8%	2.33	500	2.2%	11.6%	34.8%	29.0%	22.2%	2.43
Q11S8	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	500	2.8%	10.0%	42.6%	28.6%	16.2%	2.54	500	2.8%	12.2%	44.2%	26.0%	14.8%	2.62
Q11S9	働きやすさ	500	2.8%	10.4%	46.2%	26.4%	14.2%	2.61	500	1.8%	11.8%	50.8%	23.0%	12.6%	2.67
Q11S10	今後成長していく業界だと思うか	500	11.2%	27.4%	46.4%	8.6%	6.4%	3.28	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S11	人の役に立つことができるかどうか	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	2.61	500	31.2%	40.2%	24.2%	2.4%	2.0%	3.96
Q11S12	休みの取りやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	3.28	500	3.4%	11.4%	42.8%	27.8%	14.6%	2.61



図表 85 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

Q12	介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R5 (Q12)	R4 (Q12)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	17.8%	18.0%
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	21.0%	22.2%
3	親族から聞いた話	10.6%	13.0%
4	知人・友人から聞いた話	10.2%	12.4%
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	2.6%	4.2%
6	介護に関するイベント	4.6%	4.4%
7	介護に関するテレビ番組	22.0%	19.8%
8	介護に関するラジオ番組	2.0%	0.8%
9	介護に関する新聞記事・広告	8.4%	6.2%
10	介護に関する雑誌記事	4.2%	2.8%
11	介護に関する書籍・漫画	3.4%	2.0%
12	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	8.0%	6.2%
13	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	4.4%	2.8%
14	介護に関する映画	1.4%	1.2%
15	その他	0.6%	1.2%
16	わからない	10.4%	14.8%
17	介護の仕事に対して良いイメージは持っていない	30.6%	27.2%
	全体	500	500

図表 86 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q14	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R5 (Q14)	R4 (Q18)
1	積極的に勧めたいと思う	N/A	2.4%
2	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う (R4: 本人が興味を持っているならば勧めたいと思う(止めない))	38.8%	69.2%
3	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える (R4: 本人の希望があったとしても一度止める)	43.6%	21.8%
4	本人の希望があったとしても反対する (R4: 本人の希望があったとしても止めるように説得する)	17.6%	6.6%
	全体	500	500

図表 87 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応の理由  
(主なものを抜粋)

Q14の回答	その理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の就きたい仕事に就くべきだから。</li> <li>やりがいを感じる仕事だと思うから。</li> </ul>
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も健闘したほうが良いのではないか」と伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力的、精神的に大変な仕事だと思うから。</li> <li>給料は良くないイメージがあるから。</li> </ul>
本人の希望があったとしても反対する	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神的にも肉体的にも大変だから。</li> <li>給与が安い割に仕事が大変だから。</li> </ul>

図表 88 インターネット利用端末の種類

Q16	インターネット利用端末の種類	R5 (Q16)	R4 (Q20)
1	スマートフォン	92.2%	92.2%
2	パソコン	55.0%	56.4%
3	タブレット型端末	19.0%	22.4%
4	テレビ	34.2%	39.8%
5	家庭用ゲーム機	11.2%	12.4%
6	携帯電話・PHS(スマートフォン除く)	3.2%	2.6%
7	その他	-	-
8	インターネットは利用していない	3.0%	1.0%
	全体	500	500

図表 89 インターネット利用端末の利用目的

Q17	インターネット利用端末の利用目的	R5 (Q17)	R4 (Q21)
1	電子メールの送受信	74.2%	73.5%
2	ホームページやブログの閲覧、書き込み又は開設・更新	48.2%	46.9%
3	ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の利用	56.5%	50.1%
4	業務目的でのオンライン会議システムの利用	14.4%	15.2%
5	動画投稿・共有サイトの利用	31.5%	29.3%
6	オンラインゲームの利用	15.7%	14.7%
7	情報検索	50.9%	44.6%
8	eラーニング	7.4%	5.7%
9	オンライン診療の利用	3.9%	2.0%
10	商品・サービスの購入・取引	49.5%	45.1%
11	金融取引	29.3%	24.2%
12	デジタルコンテンツの購入・取引	12.4%	10.3%
13	インターネットオークション、フリーマーケットアプリによる購入・取引	27.6%	28.1%
14	電子政府・電子自治体の利用	10.5%	9.3%
15	その他	0.2%	0.4%
	全体	485	495



厚生労働省 令和5年度老人保健健康増進等事業

介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究事業  
報告書

令和6年3月

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー

TEL : 03-6257-0700 (代表)

[JOBコード: Y212]

Copyright (C) 2024 PwC Consulting LLC. All rights reserved.

本報告書の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

